

7

*Red Data Book of Wakayama Prefecture*

目  
類

## 貝類の概要

海産貝類：江川和文、陸産貝類：湊 宏、淡水産貝類：池辺進一

和歌山県のレッドデータブック刊行は、2001年、2012年に続いて今回で3回目になる事業である。当初においては、陸産貝類、淡水産貝類（汽水域を含む）の選定だけであったが、開発等による環境破壊によっては、その生育状況が大変な状態になってきているのが現状である。環境省（2012）のレッドデータブックでも、評価対象種が陸域・淡水域から汽水域に生息する種類に加えて内湾等の干潟等に生息する種類を選定種に掲載されるようになってきた。地方団体のレッドデータブックにおいても、例えば、三重県（2015）、岡山県（2020）、愛知県（2020）等ではその傾向が踏襲されていて、汽水域の種類、内湾性の種類、干潟の種類、更に浅い潮下帯の種類の貝類を扱うようになってきているのが実情である。それらの現状を踏まえて、和歌山県でもレッドデータブック改訂等を行う「生物多様性と和歌山戦略推進調査会」を2016年3月に発足させてこれまで検討してきたところである。2012年版では貝類（陸・淡水産）において総計51種を選定することができたが、2022年版では汽水域、内湾性域、干潟域、潮下帯域までの種類が加わったために総計279種類（汽水域～潮下帯域等の海産域の種類が219種、淡水域の種類が4種、陸域の種類が56種）と増加させて種類を選定したことが特徴である。それをまとめると下記ようになる。

絶滅（EX）：6種（海産：5種、陸産：1種）、絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）：43種（海産：29種、陸産：11種、淡水産：3種）、絶滅危惧Ⅱ類（VU）：65種（海産：47種、陸産：15種、淡水産：3種）、準絶滅危惧（NT）：117種（海産：108種、陸産：8種、淡水産：1種）、情報不足（DD）：8種（海産：5種、陸産：3種、淡水産：0種）、学術的重要（SI）：40種（海産：22種、陸産：16種、淡水産：2種）として選定した。中でも海産種の未掲載種が216種であった。

### 海産貝類（汽水域～内湾性域～干潟域～潮下帯域）

・和歌山の貝類に関する歴史的経緯について

和歌山は古くより貝類でも著名な地で、近世以来、多くの記録が残されてきた。江戸中期のは「貝盡浦之錦（かいづくしうらのにしき）」二巻本（1749）は、大坂（現・大阪）の香道の大家、大枝流房の著作で『和歌浦の真図』として当時の風景が示され、片男波海岸に貝を扱う店があること、個々の記述に『和歌浦では』という表現が頻出し、さらに『紀州和歌浦、荒浜、加太の粟島（現・淡島神社）の北辺』が好産地だといった記述も示される。巻末には自身の母が紀州、和歌山の出身で、また自身も和歌山に20年間住んだという。白浜町の貝寺、本覚寺には同書が藩主からの拝領品として所蔵され、江戸末期にはシーボルト P. F. B. Siebold が、明治初期にはスウェーデンの探検調査船ヴェガ号のノルデンショルド A. E. Nordenskiold が故国に持ち帰った。

平賀源内は1760年（宝暦10年）6月、高松侯の命により和歌山で貝類採集を行ない、「紀州産物志」をまとめた。加太から田部（田辺）までの12産地が記録され、和歌山は『天下第一之名産と奉存候』だと述べ、田辺には30日以上滞在した。

紀州藩と貝類との関係も深く、第8代藩主重倫の母、清信院は当時、著名な貝類収集家で江戸藩邸に約3,000個体を保存し、「若山江戸蔵物貝品並石類調帳」や図録「六百介品絵図並御序跋」がまとめられた。また第10代藩主治宝（はるとみ）は文教政策に力を入れ、医学館を創設し、本草局を併設され、小原桃洞や畔田翠山が採薬とともに貝類採集が命じられている。畔田翠山には「三千介図」5巻（稿本）の著作がある。

幕末期、1862年には英国海軍調査船アクテオン号 H. M. S. Actaeon が上海を起点に第3次調査では日本沿岸を幕府の役人とともに周航した。同船に船医として乗船していたのが、著名な貝類研究者アダムズ A. Adams で、紀伊大島や田辺沖で貝類を採集している（黒田、1941）。彼は採集した貝類をロンドンの博物関係の会報に寄稿し、和歌山の地名がこれらに記録され、また晩年には旅行記をまとめ（Adams, 1870）、紀伊水道の北上の記述として、紀南の海岸の風景とともに和歌山平野の奥に和歌山城を記録している。

（参考文献）

- 1 Adams, A. 1863. On the Japanese species of *Leiostraca*. Journal of the Proceeding of the Linnean Society of London (Zoology), 7: 89-91.
- 2 Adams, A. 1870. Travels of a naturalist in Japan and Manchuria. 334pp. Hurst & Blackett, London.
- 3 黒田徳米. 1941. 紀伊大島にてアダムズの採集せし陸産貝類. 貝類学雑誌, 10 (3, 4): 157-166.
- 4 知野光雄・江川和文. 2019. 紀州貝類研究史—近世以前の記録について—. かいなかま, 52 (1-2): 27-42.

明治維新により諸外国からの民間人の訪日が可能になった。かつて攘夷の対象であった外国人も英国女性旅行家、イザベラ・バード I. Bird は通訳を伴っただけで単身、東北地方奥部から北海道を旅している。

維新後の1875年4月、英国海軍調査船チャレンジャー号 H. M. S. Challenger が横浜に入港した。3年半の世界的規模の深海生物の調査を目的とした地球規模の調査航海で、日本では房総沖、相模湾、明石沖でのトロール採集が行われた。和歌山での活動は意外と知られていないが、航海日誌（Thomson & Murry, 1882）によれば1875年5月14日に紀伊大島港に投錨、翌15日早朝抜錨し、紀伊水道を北上した。この短時間にオオシマチグサカニモリ他の海岸の微小種が記録されている。外国人研究者による日本最初の貝類図譜はドイツのツンケル R. W. Dunker (1809-1885) により作成された（Dunker, 1861）。同書の表題には「日本の」とあるが、謝辞に長崎出島のオランダ商館医師、ヌーン Nuhn の名があり、実質、長崎の貝類の図説と見られる。20年余の後、第二の図譜（Dunker, 1882）には、多数の美しい彩色図とともに、“Wakayama”の地名が最初に記録された。県下の種ではヒメヤカタがその一例である。

米国のスターズ F. Stearns (1832-1907) は明治初期、1889-90年（明治22-23年）、1891（明治24年）の2度に亘って来日し、青年漁師モリゾウ・セタを通訳兼助手として、2年余に本土全域、更には沖縄を巡った。彼は東京湾や相模（原文“Sagama”）や紀伊地区、阿波、土佐にも精通していたという（Pilsbry, 1895）。この採集物は著名な米国貝類学者ピルスブリー H. A. Pilsbry (1862-1957) に託され、また未記載種も多く、新種記載や標本の図説が行われ（Pilsbry, 1895）、和歌山産の採集物は産地が“Coast of Kii”、“Province of Kii”と表記されている。なお、この報告書の刊行費用もスターズ F. Stearns が負担している。

明治期、和歌山県下の邦人研究者に南方熊楠がいる。彼は粘菌や民俗学で著名であるが、貝類にも関心を持っていた。ロンドン滞在時（1892-1900）、大英博物館（当時）の蔵書を筆写し「ロンドン抜書帖」全52巻を作成したが、この第31巻には江戸中期の貝類書「貝盡浦之錦」が含まれる。また彼はモースで著名な大森貝塚にも訪れ貝類を採集し、江ノ島では貝類を購入し、熊野ではカタツムリの生態図を多く記録した。1907年3月には田辺で長者貝（高価で売買されたため、この呼称がある）が採捕され、地元の歯科医、矢野平次郎のもとで飼育され、この個体を熊楠や家族、用人が見学を訪れている。後日、この貝は京都の標本商平瀬与一

郎に 80 円で購入された。今日のベニオキナエビスで、彼を記念して米国で “*hirasei*” の種名が与えられた種でもある (Pilsbry, 1903)。

(参考文献)

- 1 Dunker, R. W. 1861. Mollusca Japonica descripta et tabulis tribus iconum. 36pp. E. Schweizerbart, Stuttgart.
- 2 Dunker, R. W. 1882. Index molluscorum maris Japonici. 301pp. Sumptibus Theodori Fischer, Kassel.
- 3 西村三郎. 1992. チャレンジャー号探検. 中公新書 1101. 264pp. 中央公論社, 東京.
- 4 Pilsbry, H. A. 1895. Catalogue of Marine Mollusks of Japan. 196pp. 11 pls., Detroit.
- 5 Pilsbry, H. A. 1903. A new Japanese *Pleurotomaria*. Proceedings of Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 55 : 496. pl. 22.
- 6 Thomson, C. W. & Murry, J. 1882. Report on the Scientific Result of the Voyage of H. M. S. Challenger during the year 1873-76. Narrative. Vol. II. 744pp. Her Majesty's Government, London.

昭和初期には日本にも日本貝類学会が創設され、明治期、欧米の研究者に標本を送付し同定や新種記載を託していたが、邦人にも可能となった。この時期、特記したいのが「和歌山県産貝類目録」の存在である(西宮市貝類館所蔵)。著者は黒田徳米、後の日本貝類学会名誉会長で、当時は白浜の京大臨海実験所の嘱託・助手で、昭和4年、昭和天皇の行幸の折、貝類に関する御進講も行なっている。南方熊楠の有名な御進講もこの折である。この年、和歌山県産貝類の調査・編纂が着手され、昭和16年の刊行の予定であった。原稿は英文と一部、日本語で記録され、原記載の出典や異名表が掲げられ、その膨大さや時代状況から刊行に至らなかったが、当時の貝類相を知ることができる。現在、生息が見られないオカミガイやチャイロフタナシシャジクが記録され、後種は明治期、来日したスターンズが鎌倉から記録した種で、近年、全国的に生息が危惧され、現在、和歌山県下には確認できないが、当時、生息していたことが分かり、また希少種とされるゴゲツノブエが田辺の文里港に多産したことも記録される。その他、ムラサキガイの種名が『(本邦の貝の種名は) *adamsii* と見られる (英文)』とあり、これは Honda *et al.* (2001) になって初めて指摘された事項である。

(参考文献)

Honda, J., Willan, R. C., Suzukida, K., Mizoguti, K. & Hori, H. 2001. Discovery of healthy populations of the endangered bivalve *Soletellina adamsii* Reeve 1857 : (Tellinoidea : Psammobiidae) on the Suo-nada Sea (western Seto Inland Sea) coast of Yamaguchi Prefecture, western Japan, with taxonomic remarks. The Yuriyagai, 8 (1) : 23-33.

・絶滅危惧種発生の要因

(1) 造成・護岸工事等による影響

和歌山市は紀の川による砂の堆積が形成した土地で、かつて、紀の川の南岸から雑賀崎に至る和歌山市西岸、約 2 km に水軒浜という遠浅海岸があった(地域によって、荒浜、吹上浜の呼称もある)。1960年代、造成工事により消失した地である。当時、著名な図鑑にもこの地名と標本図が掲げられ(鹿間・堀越, 1963)、更にはごく近年も現存する地かのように記録される(日本ベントス学会編, 2012)。近世、「紀州名所図会」にも描かれた地で、全国的にも知られた貝類産地であった。同地の貝類は574種が記録され(土岐頼三郎氏記録ノート[未公表])、更に根拠となった標本が現存する。かつて普通に見られたマキモノガイやコヅツガイは、現在、

ごく稀に名草ノ浜で確認できる貝である。造成工事は、当然ながら、その地の生物相全体が絶滅する。和歌山県下各地で同様な造成工事が行われたが、記録や標本が残された例はごく稀である。

護岸工事も同様に河川の多くは両側面と底面がコンクリート舗装される。和歌山市亀の川には河口護岸にウスコミミガイの生息が見られたが、この工事により姿を消した。

(参考文献)

- 1 日本ベントス学会 編. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 鹿間時夫・堀越増興. 1963. 世界の貝. 154pp. 102 pls. 北隆館, 東京.

## (2) 富栄養化による影響

和歌川河口の和歌浦湾は万葉期以来の名勝であったが、昭和初期には既に家庭廃水や工場廃水が集積した異臭の放つヘドロの堆積地で、ウミニナの個体群以外の生物の存在は考えられなかった。実際、和歌浦湾を模式産地とするワカウラツボは当時、絶滅の状況であり（和田ら, 1996）、その後、廃水の浄化措置で、奇跡的に同種が復活し、多数個体が確認された（Kobayashi & Wada, 2004）。一般に環境悪化の要因には下水等による富栄養化が挙げられるが、近年では浄化措置により、一部地域では、この逆の貧栄養化の影響も生じている。

(参考文献)

- 1 Kobayashi, Y. & Wada, K. 2004. Growth, reproduction and recruitment of the endangered brackish water snail *Iravadia (Fairbankia) sakaguchii* (Gastropoda : Iravadiidae). *Molluscan Research*, 34 : 33-42.
- 2 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF サイエンスレポート, 3 : 182.

## (3) 河川の浚渫による影響

紀の川河口の北島橋南岸にはウミゴマツボ、ガタヅキ、カワグチツボ他が、大量に打寄せられていた。ガタヅキは、かつて1 m 四方に3万個体という異常な個体数が確認された種でもある。これらが2008年以降、全ての種が確認できなかった。従来、ごく普通に見られた貝類が一斉に姿を消した要因には、河川の浚渫が想定される。河川は上流からの砂泥により川底が堆積上昇する。このため、浚渫工事により川底の堆積物が除去され、その際、これら貝類の生息域も除去されたと考えられる。

## (4) 船底防汚塗料による影響

船底に着生するフジツボ等、種々の生物は船舶の航行を阻害し、燃費等に影響を与えてきた。この対策として有機スズ化合物を含有する船底塗料が開発されたが、これによりバイ *Babylonia japonica* をはじめ、肉食性の貝類が一斉に姿を消した。有機スズ化合物による貝類の生殖能力の阻害である。一時、食用貝のバイの代替品としてインド洋産のベンガルバイの加工品や冷凍品が輸入された。和歌山では紀南域のウツボ籠漁に普通に見られたキンシバイ他が姿を消した。その後、堀口（1998）により巻貝への生殖活動への影響が確認され、以後、1991年、この化合物が規制された。バイは2000年頃、復活が見られ、その後、徐々に個体数を増し、現在に至っている。

(参考文献)

- 堀口敏広. 1998. インポセックス 巻貝類における雌の雄化現象. *海洋と生物*, 117 : 283-287.



## (5) 地球温暖化による分布域の拡大

1970年代、有田川河口にはイシマキガイがごく普通で、同科の他種は存在しなかった。実際、九州以北のカノコガイの記録はイシマキガイの誤認ではとの疑義が呈された例もあった(福田, 1996)。近年、気候の温暖化や黒潮の流れの変動にともない、紀伊半島沿岸の貝類相に変化が見られる。従来、奄美、沖縄に見られた貝が意外に和歌山でも確認されている。現在、先のカノコガイは紀の川、和歌川では普通に見られ、ヒメカノコも同様に、稀にニセヒロクチカノコも確認でき、更に海産種でもハブタエセキモリは以前、奄美・加計呂麻島で目にした貝であったが、近年、大阪湾に近い加太から1個体、確認している。これらの諸種の多くは主生息域でも、造成工事等生息環境が危惧される種である。

(参考文献)

福田 宏. 1996. (6) 軟体動物 腹足綱 WWF サイエンスレポート 第3巻. 11-52, pls. 1-11pp.

## (6) その他

現在、マルテンスマツムシ、ヒメエガイ他は、和歌山県で50年以上、原因不明のまま、生息が確認できない。他にもハイガイ、ヒメアカガイ等、徐々に生息が見られなくなった貝も存在する。類種のクイチガイサルボウが健在であるだけに、残念なことである。

**陸産貝類**

和歌山県の陸産貝類の研究は、明治時代末期に平瀬與一郎らの採集人らによって比較的によく調査をされてきており、本県は全国的にも著名な地域でもある。地勢的にも山地が多く、温暖多雨地域であるために豊かな自然環境が保たれてきている。陸産貝類として今回は54種を選定(2012年版:51種)した。上述したように、タイプ産地になっている地域が多く、石灰岩地の露頭で見られたベニゴマオカタニシは由良町白崎で和歌山県唯一の生息地であったが、宅地造成のためにその環境が破壊されて、生息地が消えてしまった。絶滅危惧Ⅰ類(CR + EN)では新規に2種(箕六、岩坂観音のシロモリサキギセルと日ノ岬からシイボルトコギセル)が追加されて11種を選定した。キセルガイ科貝類はこの他に、マルクチコギセル、カスガコギセル、ヒロクチコギセル等、樹上性の種類が選定されたことが特異である。ナチマイマイは那智山周辺の狭い範囲にしか生息していなくて、収集家の乱獲によって個体数が激減している。絶滅危惧Ⅱ類(VU)では新規にコシボソギセル、イボイボナメクジ、ヤマキサゴ、ヤマモトゴマオカチグサが加わって15種となった。準絶滅危惧(NT)はゴマオカタニシ、ナガオカモノアラガイ、ミジンマイマイ、ウスコミミガイが新規に加わり、8種と増えた。情報不足(DD)としては、紀伊山地から新たにナガナタネガイと微小貝の2種が加わって3種となった。学術的参考(SI)としては、和歌山県で採取されてタイプ産地となっている種や学術的価値を有する種等で、イノウエヤマトガイ、ソウジマミジンマイマイ、イトカケギセル、キイオオベソマイマイ、シゲオマイマイ等、16種を選定した。いずれもが固有種であって、和歌山県がタイプ産地になっている稀少種である。

(参考文献)

和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック—. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.

**淡水産貝類**

和歌山県の淡水産貝類相は、紀伊山地から流れる河川とその河口域、池や沼が主な生息環境であるが、全体的には貧弱な淡水産貝類相である。2012年版には、絶滅危惧Ⅰ類(CR +

EN) にはワカウラツボ、ツブカワザンショウガイ、カワネジガイの3種を選定しているが、2022年版でもその選定には変更がなかった。和歌浦の地名を種に関するワカウラツボは、河口域の汽水地域、内湾干潟の砂や泥等に埋まる小岩や堆積物の下部域が生息地であることが確認されてから、本種の生態学的な知見が分かり、西日本の伊勢湾、三河湾、瀬戸内海、有明海等からも再発見されるようになってきた。和歌浦では巷に「幻の貝」とされていたが、和歌川河口域から1999年に再確認されるとともに、同年の10月には広川町の江上川河口域からも朗報が届いた(大古場・三長, 2001)。本種は環境省(2019)のレッドリストで、絶滅危惧Ⅱ類として指定されている。ツブカワザンショウガイは那智勝浦町浦神がタイプ産地であるが、河口域の環境が悪化して絶滅が危惧されているものの、近年は和歌山県の中部でも確認された。カワネジガイは過去に有田市地蔵堂、かつらぎ町笠田で記録されていたが、各地における水害で生息地域が消えてしまった。しかし、近年において岩出市のため池で確認されていることは朗報である(Marui, 2002)。絶滅危惧Ⅱ類(VU)として、汽水域からのフネアマガイ、タケノコカワニナ、ミジンゴマツボと淡水域のマルタニシを、準絶滅危惧(NT)としてエドガワミズゴマツボと、新規にクリイロカワザンショウとヨシダカワザンショウを選定したが、大半は汽水域産である。学術的重要(SI)としてはホラアナミジンニナ(タニガワミジンニナ)と二枚貝のマツカサガイは2012年版とは変更がないが、その生息地は極めて少ない。

(参考文献)

- 1 木邑聡美・能本彰人・中西夕香・杉野伸義. 2001. 和歌浦で再発見されたワカウラツボ(腹足綱). 南紀生物, 41(1): 38-49.
- 2 Marui, H. 2002. A new locality of the endangered freshwater snail *Cameroceras hirasei* (Gastropoda: Pulmonata: Planorbidae) in Wakayama Prefecture, Japan. The Yuriyagai, 8(2): 83-85.
- 3 大古場 正・三長秀男. 2001. ワカウラツボ和歌山県で発見. かいなかま, 35(1): 1-3.
- 4 和田恵次. 2018. 汽水域に生きる巻貝たち. 144pp. 東海大学出版部, 平塚.

●絶滅 (EX)

ヒナイソマイマイ  
ベニゴマオカタニシ  
オカミミガイ  
ハイガイ  
ヒメアカガイ  
ヒメエガイ

●絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

ホソコオロギ  
イリエツボ  
ワカウラツボ  
ツブカワザンショウ  
ハツカネズミ  
カネコスズカゴ  
ゴマフダマ  
マルテンスマツムシ  
オガイ  
ウネボラ  
ヒラドサンゴヤドリ  
ウネムシロ  
トカシオリイレ  
イソチドリ  
マキモノガイ  
カワネジガイ  
サナギガイ  
ニクイロギセル  
マルクチコギセル  
カスガコギセル  
シロモリサキギセル  
シイボルトコギセル  
ヒロクチコギセル  
ケハダビロウドマイマイ  
ヒラマキビロウドマイマイ

カタマメマイマイ  
ナチマイマイ  
ハンレイヒバリガイ (カラスノマクラ)  
イタボガキ  
ヤミノニシキ (アワジチヒロ)  
イセシラガイ  
イチョウシラトリ  
オガタザラ (オガタザクラ)  
フジナミガイ  
ヤチヨノハナガイ  
ウスハマグリ  
アツカガミ  
ウラカガミ  
イソカゼガイ  
ハナビラガイ  
オウギウロコガイ  
スノウロコムシヤドリガイ  
コオキナガイ

●絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セムシマドアキガイ  
ウミヒメカノコ  
ウミヒメカノコ近似種  
フネアマガイ  
ツバサコハクカノコ  
サナギモツボ  
イボウミニナ  
カワアイ  
タケノコカワニナ  
スジウネリチョウジガイ  
ゴマツボ  
ウチノミツボ  
ミジンゴマツボ  
アラウズマキ



イソマイマイ  
ウミコハクガイ  
オオネズミガイ  
フロガイダマシ  
カハタレカワザンショウ  
ウネナシイトカケ  
ヒモイカリナマコツマミガイ  
ヤセフタオビツマミガイ  
ゴマフホラダマシ (ナガゴマフホラダマシ)  
オマセムシロ  
オリイレボラ  
イワカワトクサ  
ベッコウイモ (キラベッコウ)  
ヌノメホソクチキレ  
ドロアワモチ  
コメツブツララ  
シグマクダタマ  
カミスジカイコガイダマシ  
マルタニシ  
ベニゴマガイ  
ノミガイ  
ミツクリギセル  
クロズギセル  
シリブトギセル  
コシボソギセル  
コンゴウクリイロベッコウ  
パツラマイマイ  
イボイボナメクジ  
ヤマキサゴ  
サドヤマトガイ  
ヤマモトゴマオカチグサ  
アナナシマイマイ  
ツヤマイマイ  
ヒメビロウドマイマイ  
アサヒキヌタレガイ  
ヒシガイ

テリザクラ  
ムラサキガイ  
ハナグモリ  
アリソガイ  
ヒナミルクイ (ヒナミルクイ)  
ミルクイ  
ハマグリ  
イオウハマグリ  
ヤタノカガミ  
セワケガイ  
フジタニコハクノツユ  
チゴマテ  
ウミタケ  
ヒメマスオガイ  
オフクマスオガイ

● 準絶滅危惧 (NT)

ツボミ  
スカシエビス  
イボキサゴ  
キサゴ  
タイワンキサゴ  
ヒメカノコ  
レモンカノコ  
ヒロクチカノコ  
ニセヒロクチカノコ  
キンランカノコ  
ミヤコドリ  
ヒナユキスズメ  
カヤノミカニモリ  
コゲツノブエ  
ウミニナ  
フトヘナタリ  
ヘナタリ  
モロハタマキビ  
ヌノメチョウジガイ

タニシツボ	カキウラクチキレモドキ
ジーコンボツボ	ヌカルミクチキレ
ニセゴマツボ	シゲヤスイトカケギリ
カワグチツボ	ドウンケルクチキレ (エバラクチキレ)
サザナミツボ	ウネイトカケギリ
シラギク	オオシイノミガイ
ナギツボ	ムラクモキジビキガイ
エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ)	コヤスツララ
クリイロカワザンショウ	ホソタマゴガイ
ヨシダカワザンショウ	ヤマトキバサナギガイ
アダムスタマガイ	ホソヒメギセル
ネコガイ	キヌツヤベッコウ
ツツミガイ	ヒメタマゴマイマイ
ツガイ	クチマガリマイマイ
オリイレシラタマ	ゴマオカタニシ
オダマキ	ナガオカモノアラガイ
セキモリ	ミジンマイマイ
クレハガイ	ウスコミミガイ
キヌイトカケ	キヌタレガイ
ハブタエセキモリ	ヤマホトトギス
カシパンヤドリニナ	サザナミマクラ
トクナガヤドリニナ	リシケタイラギ (タイラギ)
テングニシ	ズベタイラギ
オニサザエ	ハボウキガイ
カニノテムシロ	サクラガイ
ムシロガイ	ヒラザクラガイ
バイ	ユウシオガイ
マクラガイ	ウズザクラ
クリイロマンジ	モモノハナ
チャイロフタナシシャジク	オオモモノハナ
シチクガイ	フジノハナガイ
シロヒメゴウナ	ナミノコ
ヒメゴウナ	キュウシュウナミノコ
イトカケゴウナ	アシガイ
エドイトカケギリ	オチバガイ
クラエノハマイトカケギリ	ハザクラ

キヌタアゲマキ  
タガソデモドキ  
ウネナシトマヤガイ  
カモジガイ  
オオトリガイ  
ワカミルガイ  
ユキガイ  
クチバガイ  
イソハマグリ  
シオヤガイ  
シラオガイ  
ケマンガイ  
スタレハマグリ  
ガンギハマグリ  
コヅツガイ  
ニッポンマメアゲマキ  
ウロコガイ  
スジホシムシヤドリガイ  
マツモトウロコガイ  
マゴコロガイ  
オサガニヤドリガイ  
オオノガイ  
クシケマスホガイ  
バラフマテ  
リュウキュウマテ  
ヤマトシジミ

●情報不足 (DD)


トゲトゲツボ  
チクチクツボ  
ヒガタヨコイトカケギリ  
ハベキビ  
キイキビ  
ナガナタネガイ  
アシベマスオ  
コハギガイ (ガタツキ)

●学術的重要 (SI)

カノコガイ  
ハナガスミカノコ  
コオロギガイ (コベルトカニモリ)  
カニモリガイ  
ヒメカニモリ  
ヒナツボ  
ナガエンドウガイ  
ヒメヤカタ  
ウツセミガイ  
ウズマキキセワタ  
ホラアナミジンナ  
イノウエヤマトガイ  
キイゴマガイ  
ソウジマミジンマイマイ  
キイツムガタギセル  
コハゲギセル  
コスジギセル  
ジェイギセル  
シロバリギセル  
カギヒダギセル  
イトカケギセル  
オオヒラベッコウ  
ムロマイマイ  
アラハダヒロベソマイマイ  
キイオオベソマイマイ  
タシナミオトメマイマイ  
シゲオマイマイ  
ノジホトトギス  
ツヤガラス  
アワジチガイ  
アオサギガイ  
ハチザクラ  
ナガヒナミルクイ  
チドリマスオガイ  
ハマチドリ

オカメブクヤドリガイ  
マツイガイ  
オキナガイ

ソトオリガイ  
マツカサガイ



貝  
類

ヒナイソマイマイ *Adeorbis carinata* A. Adams, 1863 新生腹足目 イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	-
--------	---------	----	------	---	---	---

砂泥底が生息地と推測される種。殻は白色、薄質で扁平、螺層上面は平滑、丸みを帯び、下面は平坦で臍孔が開き、周縁は鋭角、殻口外唇に外方に板状の突起を持つ。殻径 2 mm。瀬戸内海東域（兵庫県明石沖 [模式産地]）、広島県竹原市、同・三原市に分布。和歌山県内では、和歌山市水軒浜（1960 年



代、造成工事により消失)、名草ノ浜、有田市初島町、那智勝浦町粉白に分布。

和歌山県では水軒浜（造成工事で消失）産の未整理標本（1964 年 3 月採集）から確認、更に近年、初島町から死殻が記録され、他に粉白（玉の浦海水浴場）からも記録されるが、これは養浜工事による海砂（島根県隠岐の島）からの混入個体と見られる。幕末期来航の英国海軍測量船の船医 A. Adams により本種が記載されたが、本種の再発見は 127 年後のことで、これは竹原市沖の海砂に混入した個体である。生貝は現在まで確認されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 Adams, A. 1863. On the genera and species of Liotiidae found in Japan. Proceedings of the Zoological Society of London : 71-76.
- 2 江川和文. 1990. A. Adams 記載の瀬戸内海産イソマイマイ科二種. ちりばたん, 22 (1・2) : 22-23.
- 3 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. かたをなみ, 6 : 4-9.
- 4 池辺進一. 2015. 和歌山県那智勝浦町粉白の貝類. かたをなみ, 10 : 7-9.
- 5 土岐頼三郎・江川和文. 2013. 和歌山市水軒浜産ヒナイソマイマイ（軟体動物門、腹足綱、イソコハクガイ科）の記録. 南紀生物, 55 (1) : 1-2.

写真：江川和文撮影

ベニゴマオカタニシ *Georissa shikokuensis* Amano, 1939 アマオブネ上目 ゴマオカタニシ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---	---	-------------

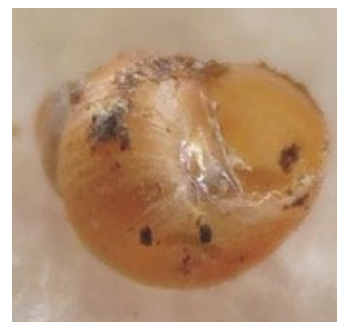
生息地が石灰岩地という環境。和歌山県では由良町白崎石灰岩地の露頭で生息していたが、附近の環境整備で破壊され、近畿地方で唯一の生息地が消えた。

選定理由

貝殻は微小（殻長 2.0 mm）、円錐形状。殻表は紅赤色、滑らかで、その螺状彫刻が乏しい。臍孔は閉じる。

白崎石灰岩地帯の一部の露頭に群棲していた。近畿では本県が唯一の生息地であった。

執筆者（湊 宏）



参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1972 a. 白崎石灰岩地とその周辺の陸産貝類相. 南紀生物, 14 (1) : 6-8.
- 2 湊 宏. 1972 b. 石灰岩地帯の陸産貝類とその保護. Nature Study, 18 (7) : 7-9.
- 3 湊 宏. 1980. 日本産ゴマオカタニシ科の種類. ちりばたん, 11 (1) : 3-5.
- 4 波部忠重. 1951. 日本産コゴメガヒ科及びゴマオカタニシ科. 日本貝類図録, 101-109.

写真：湊 宏標本



**オカミミガイ** *Ellobium chinense* (Pfeiffer, 1854) 汎有肺目 オカミミガイ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---	---	-------------

**選定理由**

和歌山県では田辺市滝内（田辺湾湾奥）で1983年8月24日、池辺進一によって死殻1個体（和歌山県立自然博物館所蔵）が採取されたが、その後その環境が改変され、個体群は絶滅した。

殻長は35 mm 前後、堅固、殻表は栗色から淡い黄褐色であるが、田辺の資料は老成個体で殻表は剥げ落ちて、白い個体であった。殻口には内唇に1歯、軸唇に1歯がある。

伊勢湾、瀬戸内海、有明海沿岸の内湾、干潟に分布する。かつては東京湾にも生息したが、絶滅して伊勢湾（三河湾）が分布の東限である。

河口域、干潟のヨシ原湿地に生育するが、全国的に生息地域、個体数も著しく減少している。

中国大陸系の遺存的種で、オカミミガイ科としては最大種。



執筆者（池辺進一）

**参考文献・情報**

- 1 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.
- 2 湊 宏・池辺進一・吉田 誠. 2009. 和歌山県で新しく記録された稀少有肺類3種. 南紀生物, 51 (2) : 105-111.  
写真：池辺進一撮影

**ハイガイ** *Tegillarca granosa* (Linnaeus, 1758) フネガイ目 フネガイ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---	---	-------------

貝類

**選定理由**

かつては日本全域の生息種で、その後、生息域を縮小し、現在は有明海周辺に安定した個体群が存在する。貝殻は殻表に17~18本の放射肋があり、この肋は顕著な疣を持つ。殻長50 mm。日本、朝鮮半島以南、インド・太平洋に分布。和歌山県内では、和歌山市加太、名草ノ浜、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）に分布。

和歌山県では現在、生貝の確認例はない。水軒浜から記録されるが、生息状況は不明。これは1970年代以前

に消滅した瀬戸内海の個体群の可能性もある。加太、名草ノ浜で半化石状個体を確認。近隣地域の三重県では明治以降の生息例は不明とされ、また、愛知県では1960年代、知多湾奥部や汐川干潟で普通に生息が見られたが、その後造成工事等で産地が消失し、ともに絶滅の可能性があるという。更に、かつての分布域、岡山県でも同様に生息環境が喪失し、絶滅したという。



執筆者（江川和文）

**参考文献・情報**

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383. 三重県農林水産部, 津.
- 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 一動物編一. (8) 貝類. 愛知県. 489-726pp.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草ノ浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.
- 6 山下博由. 2012. ハイガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会). p. 110. 東海大学出版会, 秦野.  
写真：池辺進一標本

ヒメアカガイ *Anadara troscheli* (Dunker, 1882) フネガイ目 フネガイ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	---------	----	------	---	---	--------------------

内湾干潟の泥底、砂泥底、アマモ場に生息。サルボウに近似するが、殻表の肋数が 27 本 (サルボウ 32 本) と少ない。殻長 40 mm。本州から九州、中国大陸南部、ベトナムに分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、みなべ町堺、白浜島に分布。

選定理由

和歌山県では名草ノ浜で古い死殻が、生貝は白浜町島で 1969 年に、また、みなべ町堺で 1979 年に記録されている。これ以降、生貝の記録はなく絶滅の可能性も考えられる。近隣地域で三重県では 2005 年に英虞湾 1 地点から記録されるが、他には死殻の確認例はなく絶滅の可能性がある。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72, 自刊, 和歌山.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 164pp. 8pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 5 山下博由. 2012. ヒメアカガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 109. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 田中真人提供

ヒメエガイ *Mescocibota bistrigata* (Dunker, 1866) フネガイ目 フネガイ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	---------	----	------	---	---	-----------------

内湾の中潮帯以深の岩礫地に生息。貝殻はやや堅固、エガイに近似するが、2本の放射肋が殻頂から伸びる。殻長 35 mm。日本、朝鮮半島以南の東アジアに分布。和歌山県内では、和歌山市和歌川河口 (和歌浦湾観海閣)、名草ノ浜、田辺市に分布。

選定理由

本種は、かつて普通に見られ、和歌山県では田辺市での記録が最初で、近年では 2006 年に観海閣からの確認例 (死殻) があり、これが最後の記録となる。なお、近隣地域では神戸市須磨から 1979 年に記録され、三重県、愛知県では記述がなく、また岡山県ではごく最近まで生息が未確認であったが、近年、復活傾向にある。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山.
  - 2 波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準図鑑全集 3 貝. 223pp. 62pls. 保育社, 大阪.
  - 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 164pp. 8pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 4 池辺進一. 2017. 和歌山市・観海閣の貝. がんがら, 12 : 1-5.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 6 山下博由. 2012. ヒメエガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 110. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 池辺進一標本

ホソコオロギ *Cerithium torresi* E. A. Smith, 1884 新生腹足目 オニノツノガイ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 国 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

干潟の潮下帯のアマモ場周辺の泥礫底に生息。貝殻はコオロギガイ (コベルトカニモリ) に近似し、やや小型、細型で赤みを帯び、他に黄色や黒色、色帯となる個体もあり、殻表の彫刻がより細かい。相模湾以南、九州、インド・太平洋・

**選定理由** 亜熱帯域、オーストラリアに分布。

和歌山県では田辺湾奥部からのみ、新鮮な死殻が確認される。他地域では三重県英虞湾、鳥羽市南部、佐賀県唐津市の3地点のみ生貝確認されている。



執筆者 (江川和文)

**参考文献・情報**

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 木村昭一・山下博由. 2012. ホソコオロギ 干潟の絶滅危惧種動物図鑑 (日本ベントス学会編). 27. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1: 1-23. 写真: 三長秀男提供

イリエツボ *Pseudoonoba yendoi* (Yokoyama, 1927) 新生腹足目 ワカウラツボ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 国 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

内湾奥部の潮下帯 5~10 m の軟泥底の還元的な環境に生息。貝殻は微小、細長な塔型、白色で殻表は平滑。殻高 4.5 mm。東京・能登半島以南~九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では、海南市船尾、有田市初島町に分布。

**選定理由** 和歌山県では、近年、船尾や初島町から死殻が確認されたが、生貝の確認には至っていない。全国的にも産出例は極めて少ないが、朝鮮半島 (韓国南部) では健全な個体群が知られている。



執筆者 (江川和文)

**参考文献・情報**

- 1 福田 宏. 2012. イリエツボ. 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 39. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山.
- 3 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. かたをなみ, 6: 4-9.
- 4 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 164pp. 和歌山県立自然博物館, 海南. 写真: 池辺進一標本

ワカウラツボ *Iravadia sakaguchii* (Kuroda & Habe, 1954) 新生腹足目 ワカウラツボ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

1954年に和歌浦 (三葛) 産として記載されたが、長い間確認されなかった。しかし、熱心な研究者によって近年、同地において再確認された。

貝殻は小型 (殻高 5 mm) 紡錘形状、堅固、殻皮は小豆色や橙褐色、時には黄白色、黒褐色等、変異がある。体層は殻高の 60 % を占める。伊勢湾から瀬戸内海、有明海の干潟内湾、河口に生息する。

**選定理由**

模式産地は和歌浦であり、和歌山県内では紀の川河口、日高川河口及び広川町広川で確認されている。

内湾干潟、河口域 (汽水域) の泥や砂地に半ば埋まる岩、または堆積したゴミの下等に付着している。



記載された当時は新亜属 *Wakauraia* (ワカウラツボ科) が使用され、これまで学名の変更等には紆余曲折があった。

選定理由

最初の発見地「和歌浦」を和名に冠する和歌山県を代表する汽水域貝類である。

執筆者 (池辺進一)

- 1 福田 宏・前田和俊・河辺訓受. 1990. ワカウラツボの瀬戸内海での産出と種名. 南紀生物, 32 (2) : 103-108.
  - 2 大古場 正・三長秀男. 2001. ワカウラツボ和歌山県で発見. かいなかま, 35 (1) : 1-3.
  - 3 池辺進一. 1975. 和歌山市の陸産貝 橙藻. 末松四郎教授退官記念誌 : 138-141. 和歌山.
  - 4 池辺進一. 和歌山県の貝類. 94pp. 自刊, 和歌山.
  - 5 環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表. 環境省, 東京.  
https://www.env.go.jp/press/107905.html
  - 6 木邑聡美・野元彰人・中西夕香・杉野伸義. 2001. 和歌浦で再発見されたワカウラツボ (腹足綱). 南紀生物, 43 (1) : 38-40.
  - 7 木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で確認された希少貝類. 南紀生物, 45 : 7-12.
  - 8 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (I). 南紀生物, 46 (2) : 31-36.
  - 9 黒田徳米・波部忠重. 1954. 日本産水棲新巻貝. Venus, 18 (2) : 71-79.
  - 10 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.
  - 11 和田恵次. 2018. 汽水域に生きる巻貝たち. 144pp. 東海大学出版部, 平塚.
  - 12 和田恵次・大島麻里・古賀庸憲. 2011. 和歌川河口域における汽水性希少巻貝ワカウラツボ個体群の変動 - 2000~2010年 -. 日本ベントス学会誌, 66 : 22-25.
- 写真: 池辺進一撮影

参考文献・情報

ツブカワザンショウ <i>Angustassiminea estuarina</i> (Habe, 1946)		新生腹足目	カワザンショウガイ科
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012
		絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国
			-

貝類

和歌山県的那智勝浦町浦神の湾奥が模式産地であるが、その狭い生息地が著しく変わり、生息地が破壊されてしまった。また、他の生息地でも河口域の環境が悪化して本種の絶滅が危惧される。

貝殻は微小 (殻高 2 mm)、カワザンショウガイの幼貝と混同されるが、本種は明らかに臍孔があることで、識別される。

選定理由

模式産地 (那智勝浦町浦神) の他、和歌川河口、広川町和田、有田市箕島、那智勝浦町ゆかし潟から記録がある。

本種は最初に和歌山県で見つかった種 (模式産地) であるが、生息地が多くなく、絶滅に瀕している汽水域の貝類である。



執筆者 (池辺進一)

- 1 波部忠重. 1946. 汽水産貝類 7 新種 *Assiminea estuarina* ツブカワザンショウ. Venus, 14 (5-8) : 217-218.
  - 2 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.
  - 3 湊 宏・池辺進一. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック -. 陸産貝類・淡水産貝類 202-221pp. 和歌山.
  - 4 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (I). 南紀生物, 46 (2) : 31-36.
  - 5 和田恵次. 私信.
- 写真: 池辺進一撮影

参考文献・情報



ハツカネズミ <i>Macromphalus tornatilis</i> (Gould, 1859) 新生腹足目 シロネズミ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾湾口部の礫地砂泥底に生息。貝殻は微小、白色で堅固、殻表に明瞭な 7~8 本の細く隆起した螺肋をめぐらす。殻高 4.5 mm。房総半島から九州、瀬戸内海、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、日高町小浦、御坊市上祓井戸、名田、印南町切目崎、田辺市元島、文里湾、白浜町対ノ浦、串本に分布。

和歌山県では死殻のみを確認。各記録地点での個体は少数である。近隣地域では、三重県は過去（1979 年以前）に伊勢湾湾口部での記録があるが、現状は不明で、愛知県では死殻の採集例自体が稀である。

執筆者（江川和文）



参考文献・情報

- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 2 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 3 小山安生. 2011. 和歌山県のソデボラ上科・シロネズミ上科貝類目録. 南紀生物, 53 (2) : 131-136.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2) : 155-160.
- 写真：三長秀男提供

カネコスズカゴ <i>Conradia doliaris</i> A. Adams, 1863 新生腹足目 フロリダツボ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-

貝類

選定理由

細砂底に生息が推定される。貝殻は微小、白色で薄質、やや長い紡錘形、殻表に螺肋をめぐらす。殻高 5 mm。和歌山県、瀬戸内海、九州から中国南部に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市初島に分布。

和歌山県では 4 地点で確認されるが、いずれも死殻である。近年、淡路島洲本沖（水深 9 m）から全国でも初めて生貝が採集され、動物体の検討結果から所属が従来のツキヨシタダミ科からフロリダツボ科に変更された。本種は幕末期、来航した英国海軍調査船の船医 A. Adams により新種記載され、更に生貝の発見は 2018 年であった。

執筆者（江川和文）



参考文献・情報

- 1 Adams, A. 1863. On the genera and species of Fossaridae found in Japan. Proceedings of the Zoological Society of London : 110-113.
  - 2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020 動物編. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化局, 岡山.
  - 3 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. かたをなみ, 6 : 4-9.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草ノ浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2014. 和歌山市加太周辺の貝類相 VII. 南紀生物, 56 (1) : 66-71.
- 写真：三長秀男提供



**ゴマフダマ** *Paratectonatica tigrina* (Röding, 1798) 新生腹足目 タマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	--------------------	----	------	---	---	------------

内湾の泥底・砂泥底に生息、食用にも利用、肉食性の貝で他の貝を穿孔して動物体を摂食する。貝殻は小型、白色、球形で堅固、殻表に黒褐色の斑点をめぐらす。殻高 30 mm。瀬戸内海、有明海、八代海、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市塩津、有田市初島に分布。



**選定理由**

和歌山県では紀北域を主に古い記録があり、水軒浜は 1960 年代の確認例である。近年、名草ノ浜での採集例は、中国産アサリに混入した個体の可能性がある。近隣地域でも過去に三河湾、三重県の内湾でも記録があるが、現在、生貝は確認されていない。本種は過去、広域に分布したが、年々、生息域が縮小し、瀬戸内海は現在、笠岡市（岡山県）他 4 地点のみが知られる。

執筆者（江川和文）

**参考文献  
・情報**

- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 2 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2) : 147-153.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2 腹足綱②. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
  - 4 寺町昭文. 1958. 寺町昭文 (収集家) [自身プロフィール]. Venus, 20 (2). Pl. 18.
  - 5 山下博由. 2012. ゴマフダマ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 60. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真：三長秀男提供

**マルテンスマツムシ** *Mitrella martensi* (Lischke, 1871) 新生腹足目 フトコロガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

内湾奥部の砂泥質干潟で転石隙間や海藻上に生息。貝殻は堅固、塔型、成個体では外唇が肥厚する。殻表は黄褐色の地に褐色の縦帯をめぐらす変異が多い。殻高 15 mm。北海道から九州沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市大川、住吉崎、加太、水軒浜（1960 年代に造成工事で消失）、御坊市上祓井戸、白浜町臨海、椿、那智勝浦町に分布。



**選定理由**

本種は、かつて和歌山県全域から確認されたが、近年、全国的に激減が認識されている。採集時期は上祓井戸では 1964 年、他にも佐賀県では 2003 年で、現在、生貝の採集例はないと見られる。近隣区域でも愛知県では 1970 年、三重県では 1979 年の生貝の採集例が最後である。

執筆者（江川和文）

**参考文献  
・情報**

- 1 福田 宏・久保弘文・木村昭一. 2012. マルテンスマツムシ干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 65. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準図鑑全集 3 貝. 223pp. 62pls. 保育社, 大阪.
- 3 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 4 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 5 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.

参考文献  
・情報

- 6 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-, (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.  
7 小山安生. 2005. 和歌山県のフトコロガイ科・ムシロガイ科貝類目録. 南紀生物, 47 (2) : 127-136.  
写真: 池辺進一標本

オガイ	<i>Cantharus cecillei</i> (Philippi, 1844)	新生腹足目	エゾバイ科			
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)

内湾域の潮下帯から水深 35 m の岩礫底、砂泥底に生息。貝殻は堅固、白色、紡錘形で螺塔はくびれ肩部が隆起する。殻表はビロード状の黄褐色の殻皮をもつ。殻高 40 mm。房総半島・富山湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、有田市初島、白浜町に分布。



本種は 1960 年代まで普通に見られ、その後、激減した種である。和歌山県では 1965 年に加太で確認され、近年、3 個体を確認したが、殻皮の剥離した古い死殻である。船底塗料の有機スズ化合物 (TBB) による生殖不能が要因で激減したと見られる。近隣地域で三重県では 1980 年には少数個体の生貝が採集され、愛知県では 1994 年に死殻 1 例が確認されたのみである。1991 年、船底塗料の有機スズ化合物が規制され、兵庫県では顕著な個体群の回復が確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020 動物編. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化  
部, 岡山.  
2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館,  
海南.  
3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-,  
(8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.  
4 堀口敏広. 1998. インボセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 117 : 283-287.  
5 増田 修. 2017. 姫路市家島諸島周辺 (播磨灘北部) で採集されたオガイ. かいなかま, 51 (1) : 25-28.  
写真: 池辺進一標本

貝  
類

ウネボラ	<i>Gyrineum natator</i> (Röding, 1798)	新生腹足目	アヤボラ科			
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)

岩礁の潮間帯から潮下帯に生息。貝殻は黄褐色、堅固、背腹方向に扁平でオキニシ科に似る。殻高 25 mm、瀬戸内海、紀伊半島以南のインド~太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾 (新和歌浦)、片男波、名草ノ浜、海南市塩津、日高町小浦、串本町に分布。



和歌山県では日高郡小浦海岸、和歌山市加太から少数例が確認されていたが、2019 年、海南市塩津から 100 個体以上を確認。全国に稀な種で近隣地域のうち三重県、愛知県では記録されず、一方、岡山県では長らく生息不明であったが、近年増加が認められ、オガイやヒメエガイ同様、突如、増加傾向となることが示唆される。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 1996. 日高郡小浦海岸で観察した貝類. くろしお, (15) : 35-36.  
2 江川和文・野田圭典. 2014. 和歌山市産ウネボラの知見 (軟体動物門、腹足綱、フジツガイ科). 南紀生物,  
56 (2) : 113-116.  
3 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化  
部, 岡山.  
4 波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準原色図鑑全集 3. 貝類. xviii. 223pp. 64 pls. 保育社, 大阪.  
写真: 江川和文撮影

ヒラドサンゴヤドリ *Coralliophila jeffreysii* E. A. Smith, 1879 新腹足目 アッキガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	--------------------	----	------	---	---	---

殻長 25 mm 前後。東京湾口、相模湾、八丈島、三河湾、伊勢湾、熊野灘、瀬戸内海、玄界灘、九州西岸、韓国に分布。本属で唯一内湾域の潮下帯から水深 50 m の岩礁に生息し、オノミチキサンゴやムツサンゴ等に着生し食害する。



**選定理由** 和歌山県では和歌山市（加太、和歌浦湾）、有田市（矢櫃）、日高郡（美浜町）から記録があり、和歌浦湾では 1970 年代後半に潮間帯のタイドプールからも確認された。近年でも、2014 年 4 月に有田市沖の水深 30 m から生貝が確認される等、今すぐに危険な状況に陥るとは考えにくい一方、内湾の浅域に生息すること、宿主選択の幅が小さいこと等、危険な要素を多く抱える種であるとも考えられる。

執筆者（野田圭典）

参考文献  
・情報

- 1 福田宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-706pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
  - 2 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 蘭島文化振興財団, 呉.
  - 3 堀川安市. 1964. 長崎県産貝類目録. 長崎生物研究会, 長崎.
  - 4 池辺進一・吉田誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 5 稲葉明彦. 1982. 瀬戸内海の貝類. 広島貝類談話会, 向島.
  - 6 Kim, S. J. 2017. National list of marine species 2017. I. Marine animals, II .Marine plants, IV . Marine fungi, V. Marine bacteria. National Marine Biodiversity Insutitue of Korea, Seocheon (in Korean with English title) .
  - 7 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 8 小山安生. 私信 (熊本県牛深からの記録).
  - 9 小山安生. 1987. 和歌山県のサンゴヤドリガイ科. 南紀生物, 29 (1) : 51-57.
  - 10 松本幸雄. 1979. 三重の貝類 (三重県産貝類目録). 179pp. 鳥羽水族館. 鳥羽.
  - 11 西村和久. 1999. 伊豆・小笠原諸島海域における貝類分布. 東京都水産試験場調査研究報告, 211 : 1-124.
- 写真：池辺進一標本

貝類

ウネムシロ *Hima hiradoensis* (Pilsbry, 1904) 新生腹足目 オリイレヨフバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

内湾の砂泥底から岩礫底の潮間帯下に生息。腐肉食性。貝殻は堅固、紡錘形、螺層は膨らみ、螺肋と縦肋が交差する。殻高 15 mm。北海道以南、九州、朝鮮半島北部、中国大陸北部に分布。和歌山県内では和歌山市大川、加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、白浜町臨海、串本町潮岬に分布。



選定理由

和歌山県では加太から死殻を確認。従来、普通に見られた種であるが、1970 年代、急激に個体数が激減し、近年、生貝の採集例はない。近隣地域で三重県では 1979 年を最後に生息が確認できず、また愛知県では 3 地点での生息が確認されているに過ぎない。なお、本種は従来、クロスジムシロ、アオモリムシロとの類似性が示唆されていたが、ミトコンドリア DNA の解析によって独立種と確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準原色図鑑全集 3 貝類 xviii. 223pp. 64 pls. 保育社, 大阪.
- 2 花木勇太・香取祥人・林 誠司・木村昭一. 2004. ミトコンドリア DNA によるクロスジムシロ種群の予察的系統解析. Venus, 72 (1-4) : 148.

参考文献  
・情報

- 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489- 726pp. 名古屋.
- 小山安生. 2005. 和歌山県のフトコロガイ科・ムシロガイ科貝類目録. 南紀生物, 47 (2) : 127-136.
- 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 III. 南紀生物, 54 (1) : 61-66.

写真：三長秀男提供

トカシオリイレ <i>Cancellaria (Habesolatia) nodulifera</i> (Sowerby, 1825) 新腹足目 コロモガイ科						
県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-

選定理由

殻長 50 mm 前後。東北以南の浅海の砂底に生息。和歌山県では 1960 年代に和歌山市加太から記録があるが、近年の記録がほとんどなく、激減あるいは消滅に近い状態にあるものと思われる。

1960 年～1970 年代前半頃、和歌浦湾内で操業する小型の刺し網漁船の漁屑から、オニサザエ、バイ、ミクリガイ、オリイレボラ、コロモガイ等と共に採集され、生個体も確認できた。これらの種と同様、トリブチルスズの影響による減少の可能性も考えられる。千葉県でも減少傾向が示され、2011 年及び 2019 年とも重要保護生物にランクされている。一方、日本海側では能登産個体の生態写真が示され、健全な生息地が維持されていることが示唆された。



執筆者（野田圭典）

参考文献  
・情報

- 池辺進一・吉田誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 黒住耐二. 2011. トカシオリイレ 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編 貝類. 463pp. 千葉.
  - 黒住耐二. 2019. トカシオリイレ 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト動物編 貝類. 29pp. 千葉.
  - 高重 博. 2019. 日本の貝 温帯域・浅海でみられる種の生態写真+貝殻標本 629 種 ネイチャーウォッチングガイドブック. 誠文堂新光社, 東京.
- 写真：三長秀男提供

イソチドリ <i>Amathina tricarinata</i> (Linnaeus, 1767) 汎有肺目 トウガタガイ科						
県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

砂泥質干潟低潮帯から潮下帯のタイラギ等の二枚貝上に着生、口吻で体液を吸引する。貝殻は傘型、堅固、殻頂からの 3 本の顕著な肋を持つ。房総半島・男鹿半島以南、九州、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾（新和歌浦）、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、有田市矢櫃に分布。

和歌山県では確認例はごく少なく、近年は加太海岸の打上砂から古い死殻を確認しているのみである。近隣地域では三重県で生貝は英虞湾の 1 地点でのみ知られ、愛知県では長年、生貝が確認されなかったが、近年、知多半島から生貝が確認され、また、広島県ではイタヤガイ、ニシキガイ、ハボウキ他の殻上から生貝が確認され、瀬戸内海では回復の傾向が見られる。



執筆者（江川和文）



参考文献  
・情報

- 1 濱村陽一・木村昭一. 2012. 広島県で近年生息が確認されたイソチドリとホスト. かきつばた, 37: 36-38.
  - 2 福田 宏・木村昭一. 2012. イソチドリ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 83. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 写真: 三長秀男提供

**マキモノガイ** *Leucotina diana* (A. Adams, 1855) 汎有肺目 トウガタガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

内湾の干潟潮間帯下の細砂底に生息、大型二枚貝に寄生する習性が推定される。貝殻はやや堅固、乳白色、淡黄色の薄い殻皮をもち殻表全体に平滑な螺肋をめぐらし、螺肋間に微細な縦脈を持つ。殻高 35 mm。岩手県大槌湾・新潟県以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県では名草ノ浜で生貝が確認され、この記録以外には死殻の確認例のみである。かつて水軒浜では普通に見られた種で、ハボウキ等、他の二枚貝の体液を吸引する習性が知られている。名草ノ浜の採集例は鋤簾によるもので、採集時、周辺にはクイチガイサルボウとバカガイの 2 種が確認されており、いずれかが宿主であった可能性も考えられる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. マキモノガイ 干潟絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 86. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 三長秀男・三長孝輔・三長敬昌. 2004. 和歌山県名草ノ浜で採集されたマキモノガイ生個体. 南紀生物, 46 (1): 73-74.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 写真: 三長秀男提供

**カワネジガイ** *Camptoceras hirasei* Walker, 1919 汎有肺目 ヒラマキガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	絶滅危惧 I A 類 (CR)
--------	--------------------	----	------	--------------------	---	-----------------

和歌山県では有田市およびかつらぎ町で記録された。過去の洪水等による環境悪化で、その後確認ができず、「絶滅」と認定していたが、2002 年に新しい生息地が見付かった。

選定理由

貝殻は左巻き、細長く、半透明。淡黄色、殻高 10 mm、殻径 3 mm で、螺層が捻じれ離れている。螺管の肩部は角ばっている。各地における生息地では生息環境が極めて悪化してきて、絶滅が危惧される。



全国的には 19 都府県からの記録があるが、絶滅に瀕し、個体群の消長が激しい種である。止水域に生育する植物の枯死体や落ち葉に付着している。

執筆者 (池辺進一)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・森 生枝. 2016. 岡山県自然保護センター敷地内の田尻大池で 21 年ぶりで確認された絶滅危惧種カワネジガイ (腹足綱: 汎有肺類: ヒラマキガイ科), ならびに同種の棲息環境と水陸両棲生活に関する考察. 岡山県自然保護センター研究報告, 23: 1-12.



参考文献  
・情報

- Marui, H., 2002. A new locality of the endangered freshwater snail *Camptoceras hirasei* (Gastropoda : Pulmonata : Planorbidae) in Wakayama Prefecture, Japan. *Yuriyagai*, 8 (2) : 83-85.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水産貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.
- 湊 宏. 1993. 文献でみるカワネジガイの記録. *南紀生物*, 35 (2) : 154-156.  
写真: 池辺進一撮影

**サナギガイ** *Pupilla cryptodona* (Heude, 1882) 汎有肺目 サナギガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	--------------------	---	--------------------

選定理由

中国（模式産地：江蘇省）、朝鮮半島等の大陸にも分布する。わが国では西日本の約 14~15 県から記録があるが、その生息地は環境の変化で絶滅に瀕している。

貝殻はこの仲間としてやや大きく（殻長 3.5 mm）、円筒形状。殻口内には円形状の小突起（歯）が複数存在する。臍孔は開くが、狭い。

和歌山県では 2 箇所（由良町白崎、白浜町瀬戸）から記録がある。採取された個体数はそれぞれ極めて少なく、白崎では死殻が大半で、生貝が僅少である。

本種は大陸遺存型で、西日本から 14~15 県から知られているのみで、本県ではわずか 2 箇所から記録された。



執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 湊 宏・池辺進一・吉田 誠. 2009. 和歌山県で新しく記録された稀少有肺類 3 種. *南紀生物*, 51 (2) : 116-112.
- 山下博由・福田 宏. 1995. サナギガイの殻形態と分布（腹足綱・柄眼目・サナギガイ科）. *ユリヤガイ*, 4 (1-2) : 169-177.
- 矢野重文. 2022. キバサナギガイ属の分類についての再検討. *まいご*（四国貝類談話会誌）, (29) : 1-7.  
写真: 矢野（2022）典拠

**ニクイロギセル** *Megalophaedusa expansilabris carnea* (Kuroda & Abe, 1980) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	-
--------	--------------------	----	------	--------------------	---	---

選定理由

従来から和歌山県ではチビギセルの小型種として取り扱われていたが、近年に再検討された結果、徳島県山岳地帯から記載された本種であることが報告された（湊, 2009）。紀伊山地に広く生息しているが、個体数は極めて少ない。

貝殻は小形（殻長 10~11 mm）、比較的堅固な紡錘形状。新鮮な個体では和名のように赤褐色（肉色）。貝殻の内部は主壁のほかに、傾いた月状壁は上腔壁と下腔壁とを連結して「エ」字形となる。

高野山、護摩壇山系、果無山系、大塔山系等の山岳地帯のブナ林に生息する。紀伊水道を挟んで、タイプ産地（徳島県：剣山）の他に、紀伊山地（和歌山県、奈良県）に広く生息し、ブナ林下の朽ち木等に付着している。



執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 湊 宏. 1995. 那智山の陸産貝類. *南紀生物*, 37 (2) : 87-93.
- 湊 宏. 2009. 紀伊山地におけるニクイロギセル. *ちりばたん*, 40 (1) : 1-7.
- 湊 宏. 2002. 黒蔵谷を中心とする大塔山系の陸産貝類相. *大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集*, 285-188pp. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.  
写真: 湊（2009）典拠

マルクチコギセル *Reinia holotrema* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

本県的那智を模式産地とする樹上性のキセルガイ。生息地が限定される。かつては山岳地帯のブナ林に生息していたが、伐採等の環境悪化、人為的攪乱等によってその生息地が破壊されて絶滅に瀕している。



選定理由

貝殻は小形（殻長 13~14 mm）、その殻表には細かい成長脈が走るが、螺層の上部は淡黄白色の縞模様をめぐらして、下部の褐色の部分と対比して美麗である。殻口の上板が欠如しているので、和名（マルクチ）のように殻口は円い。

那智山系（模式産地）、大塔山系、果無山系、護摩壇山系から記録がある。主に紀伊半島、九州中部の山岳地帯に生息。最近では静岡県からも記録されて、まさに襲速紀要素型分布をする典型的な種類である（佐藤ら、2016）。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 1983. 日本産陸棲貝類の生殖器の研究 - XXI, キセルガイ科 (7): マルクチコギセル属. *Venus*, 42 (4): 331-343.
  - 2 湊 宏. 1982. 襲速紀要素型分布をするキセルガイ科貝類. *南紀生物*, 24 (1): 8-11.
  - 3 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 253. 世界文化社, 東京.
  - 4 湊 宏. 2017. 陸産貝類研究備忘録 (16), カスガコギセルとマルクチコギセル. *かいななま*, 51 (1): 1-13.
  - 5 佐藤拓也・大貫貴清・早瀬善正. 2016. 静岡県におけるマルクチコギセルの新分布記録. *ちりばたん*, 46 (3-4): 144-148.
- 写真: 湊 宏撮影

カスガコギセル *Reinia hungerfordiana hungerfordiana* (Moellendorff, 1882) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

奈良県春日山をタイプ産地とするが、関西地方でも各地で点々と生息地が知られている。樹上性でブナやカツラなどに生息する。各地で絶滅に瀕しており、和歌山県では唯一箇所しか確認されていない。



選定理由

貝殻は小形（殻長 11~13.5 mm）、殻表は黄褐色で、各螺層の上部は淡黄色系の縞模様をめぐらす。殻口の上板は不完全で、わずかに膨れる。

和歌山県では紀北の 1 箇所しか、生息が確認されていない。生息地が極端に少ない上に、和歌山県の生息地の森林は環境の悪化で荒廃。

和泉山系の岩湧山、和泉葛城山等のブナ林にはかつて生息していたが、近年は確認できず、絶滅の可能性が高い。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, Supplement 2: 1-212 + tab. 5 + pls. 74.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 253. 世界文化社, 東京.
  - 3 湊 宏・池辺進一. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック (2012 年改訂版). 208-232pp. 和歌山.
- 写真: 湊 宏撮影

シロモリサキギセル *Megalophaedusa matsumurai* (Minato, 2014) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

近年になって記載された紀伊山地の固有種。本県では今のところ3箇所しか確認されていない。タイプ産地は大阪市の金剛山。奈良県では3箇所を確認されている。

貝殻は小形（殻長 12~13 mm）、殻色は淡黄白色~クリーム系白色、殻口の上板の右側に切れ込みが存在する。側面に位置する月状壁の上部は弧状に曲がって、その下部では短い下腔壁に連結する。

和歌山県の紀北地方（3箇所）から記録がある。採取される個体も非常に少ない。

本種は2012年の和歌山県のレッドデータブック改訂版で「ホソヒメギセル」の類似種としていたモリサキギセル近似種B（シロモリサキギセル）のグループで、紀伊山地北部から記録されている。



執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏・室原誠司. 2011. 鶴見岳（大分県）から採取されたモリサキギセルの近似種Aと他の近似種について. 南紀生物, 53 (1) : 15-18.
- 2 Minato, H. 2014. A new clausiliid, *Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) matsumurai* n. sp. (Gastropoda : Pulmonata) from Northern Area of the Mountainous Region of the Kii Range, Japan. Venus, 72 (1-4) : 131-134, figs. 2. A.
- 3 湊 宏. 2007. 室生寺（奈良県）で確認されたキセルガイ科貝類. 南紀生物, 49 (2) : 151-156.  
写真：湊 宏撮影

シイボルトコギセル *Reinia siebolditii* (Pfeiffer, 1848) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

本種は九州、四国西部、本州では山陰地方、新潟県南部、静岡県東部、神奈川県南部等、点々と生息地が知られていた樹上性のキセルガイ。和歌山県では2020年9月に紀伊半島西部の日ノ御崎で初めて発見された。

貝殻は中形（殻長 約 18 mm）、殻表は茶褐色で生息地の林内では見つけにくい。殻口はやや黄白色で、口縁は厚く外側に反曲する。

美浜町の日ノ御崎の海岸の林内に生息している。和歌山県では他の地域からは発見されていない。

九州や四国の西部では、普通に見られる種類であるが、分布の間を埋めるように紀伊半島西岸で生息が確認されたのは極めて貴重である。

執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1989. 総説 シイボルトコギセルガイ. 日本の生物, 3 (5) : 48-54.
- 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 253. 世界文化社, 東京.
- 3 湊 宏・中島良典・竹内智毅. 2020. シイボルトコギセルに関する分布学的知見と本種の右巻き個体の報告. 九州の貝, (95) : 17-22.  
写真：湊 (2004) 典拠





ヒロクチコギセル *Reinia variegata* (A. Adams, 1868) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 学術的重要 (SI) 国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

宮城県北部（南三陸町以南）から本州西部の太平洋側、四国、九州の海岸地帯に分布する。樹上性の種類で人為的な攪乱等によって生息環境が悪化し、絶滅が危惧される。

貝殻は小形（殻長 8.5~9.5 mm）、紡錘形状。殻表は茶褐色の地に不透明な縞模様が表れる。殻の内部に壁を欠く。貝殻の内部に閉板がない。



選定理由

和歌山県南部の串本町九龍島、双島、田辺市神島、みなべ町鹿島の他、白浜町、田辺市、みなべ町から生息が確認されている。

全国的に分布地が少ないこと、樹上性の種類であること、人為的な攪乱による個体数の減少のゆえ、大変貴重である。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 1988. 田辺湾神島の陸産貝類. In: 神島の生物 (和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書), 49-52pp. 89pp. 田辺市教育委員会, 田辺.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 253. 世界文化社, 東京.
  - 2 湊 宏・川名美佐男. 2002. 金華山の陸産貝類, 特にヒロクチコギセルの分布について. ちりばたん, 32(3): 75-81.
- 写真: 湊 宏撮影

ケハダビロウドマイマイ *Nipponochloritis fragilis* (Gude, 1900) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 準絶滅危惧 (NT)

本県での生息域が北部の山岳地帯のみであること、個体数が極めて少ないことが本種の特徴。森林環境の変化によって生息環境が少なくなっている。

貝殻は中形（殻長 16 mm、殻径 20 mm）、螺塔は低く、殻質は薄い。殻表は短毛に覆われ、毛間は比較的粗い。生殖器の鞭状器は極めて小さい。



選定理由

近畿地方では広く分布するが、本県では和泉山系、高野~護摩壇山系、果無山系の山岳地帯でのみ記録されている。広く近畿地方に生息しているが、どの地域でも個体数が少ない。森林下の湿った朽ち木等に付着している。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 2003. 和歌山県に分布するビロウドマイマイ属貝類. 南紀生物, 45 (2) : 110-114.
  - 2 黒田徳米・波部忠重. 1949. かたつむり. p. 60. 三井社, 大阪.
- 写真: 湊 宏標本

ヒラマキビロウドマイマイ *Nipponochloritis hirasei* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 絶滅危惧 II 類 (VU)

古座川町蔵土をタイプ産地とする本種は、もともと生息地域が極めて限られる上に個体数が多くはない。

貝殻は中形（殻長 9 mm、殻径 18 mm）、低平で薄質、平巻き状に螺層が巻く。殻頂部はかすかに窪む。殻表には殻毛が規則的に配列し、その間隔が広いために殻毛の密度の状態は粗い。殻口縁は薄くてかすかに反曲する。臍孔は完全に開き、殻長径の 1/5 を占める。



選定理由

選定理由

和歌山県の南部に限って分布しているが、どの生息地でも個体数は多くはない。低平な貝殻をもつこと、広い臍孔をもつことで日本産ピロウドマイマイ属では特異な種である。学名は黎明期の日本貝類学会を推進した平瀬與一郎に献名されている。

執筆者 (湊 宏)

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 1980. 日本産陸棲貝類の生殖器の研究 - XV, ピロウドマイマイ属の4種. Venus, 39 (2) : 123-129.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 261. 世界文化社, 東京.
  - 3 湊 宏. 2015. 陸産貝類研究備忘録 (15), ヒラマキピロウドマイマイとクロズギセル. かいなかま, 49 (2) : 1-14.
- 写真: 湊 宏撮影

カタママイマイ <i>Lepidopoisum conospira</i> (Pfeiffer, 1851) 汎有肺目 オナジマイマイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)

全国的に情報の少ない種で、その生息地は飛び飛びで、湊ら (2009) の調査では 18 都県から記録されている。個体数が少ないこと、生息環境が草地であることが特徴。和歌山県では有田市初島町・地ノ島で死殻 1 個体しか確認されていない。

選定理由 貝殻は小形 (殻長 5.2 mm、殻径 5.9 mm)、球状の円錐形。新鮮な個体では、殻表では鱗片状の殻皮で覆われるが、その多くははげ落ちていることが多い。



有田市初島町・地ノ島の放置された農地の周辺しか確認されていない。

貝殻に鱗片状の殻毛をもつこと、生殖器に矢嚢を欠くことで、この種を基に新属が設けられている (波部, 1958)。

執筆者 (湊 宏)

参考文献・情報

- 1 波部忠重. 1958. 日本産陸産貝類の解剖学的研究 (8), ツシマケマイマイとカタママイマイ. Venus, 19 (3-4) : 165-166.
  - 2 湊 宏・池辺進一・吉田 誠. 2009. 和歌山県で新しく記録された稀少有肺類 3 種. 南紀生物, 51 (2) : 106-112.
- 写真: 湊・池辺・吉田 (2009) 典拠

ナチマイマイ <i>Euhadra nachicola</i> Kuroda, 1920 汎有肺目 オナジマイマイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

那智をタイプ産地とする本種は、那智山とその周辺域だけに分布する和歌山県の代表的な種。そのために収集家による採取等によってその生息状況が脅かされており、かつ個体数が激減傾向にある。

選定理由 貝殻は大形 (殻長 20~21 mm、殻径 48~51 mm)、濃褐色。殻表の成長脈と螺状脈とも極めて弱く、ほとんど平滑で光沢があって滑らかである。1234 型や



0204 型の色帯を持つ個体の他に、時には無帯個体もある。臍孔は殻径の 1 / 4 を占める。

那智山とその周辺 (熊野川町、現 新宮市) のみでしか確認がされていない。那智をタイプ産地とする極めて分布域の狭い地域に生息する日本代表するマイマイ属である。夜行性の陸産貝類で、近年は生息数が著しく減少の傾向にある。

執筆者 (湊 宏)



1 湊 宏. 1995. 那智山の陸産貝類. 南紀生物, 37 (2) : 87-93.  
 2 湊 宏・池辺進一. 2001. 陸産貝類・淡水産貝類. 保全上重要なわかやまの自然― 和歌山県レッドデータブック (2012年改訂版). 208-232pp. 和歌山.  
 写真: 湊 宏撮影

**ハンレイヒバリガイ (カラスノマクラ) *Modiolus hanleyi* (Dunker, 1882) イガイ目 イガイ科**

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

**選定理由**

内湾湾口部干潟低潮帯から潮下帯に生息。貝殻はやや薄質、茶褐色、長方形で後方が広がる。殻長 15 mm。東京湾以南、九州、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜に分布。



和歌山県では、水軒浜での 1963 年の採集例、名草ノ浜での 1987 年確認のやや若い合弁個体 3 例以上の確認例があるが、以降の記録は不明。近隣地域では三重県では近年、伊勢湾、英虞湾で生息が確認されたが、個体数は稀とされ、岡山県では、現状、絶滅と想定される。

執筆者 (江川和文)

**参考文献・情報**

1 福田 宏. 2012. ハンレイヒバリガイ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 108. 東海大学出版会, 秦野.  
 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.  
 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
 写真: 池辺進一標本

**イタボガキ *Ostrea denselamellosa* Lischke, 1869 ウグイスガイ目 イタボガキ科**

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

**選定理由**

内湾の浅海域の砂泥底に生息。食用種。貝殻はほぼ方形、左殻は不規則な分岐肋をもち、右殻は扁平で楡皮葺き状。殻長 120 mm。日本 (陸奥湾から九州)、朝鮮半島、中国大陸からインドネシアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、御坊市上祓井戸、田辺市内之浦、白浜町富田対ノ浦に分布。



和歌山県では近年、和歌山市から白浜町にかけ死殻が確認されるが、個体数は稀である。国内での生息域は能登半島七尾湾、瀬戸内海、有明海に限定され、近隣地域では、かつて大阪市湾南部の泉佐野では漁港市場に並び、愛知県では 1960 年代、底引き網漁で大量に採捕されていたが、1992 年を最後に採集されなくなり、また三重県でも 1990 年代、急激に激減し、現在、生貝は未確認である。

執筆者 (江川和文)

**参考文献・情報**

1 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, 33 : 1-7.  
 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.  
 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.

参考文献  
・情報

- 岡村親一郎・児島 格. 1984. 大阪市湾の貝類相 I - 二枚貝類の生息記録 -. 南紀生物, 26 (2) : 121-126.
  - 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種. 南紀生物, 43 (2) : 102-108.
  - 山下博由. 2012. イタボガキ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 113. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 池辺進一標本

ヤミノニシキ (アワジチヒロ) <i>Volachlamys hirasei</i> (Bavay, 1904) イタヤガイ目 イタヤガイ科	
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 - 国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾の低潮帯から水深 60 m の砂泥・泥底に生息。貝殻は放射肋の種内変異が顕著で、肋が微弱な個体をヤミノニシキ、肋が顕著な個体をアワジチヒロと称する。日本 (紀伊水道・瀬戸内海・有明海)、朝鮮半島、中国大陸沿岸 (渤海、黄海) に分布。和歌山県内では和歌山市加太、雑賀崎、有田市宮崎町 (矢櫃) に分布し、加太では 1964 年の記録例がある。

近隣地域で大阪市湾湾口 (泉佐野) では 1980 年代、本種は比較的、普通に採取され、95 個体 (1983 年 3 月採集) の種内変異がヤミノニシキ型 53 例、アワジチヒロ型が 42 例であると記録される。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 黒田徳米. 1945. 和歌山県貝類目録 (未定稿). 西宮市貝類館所蔵.
  - 岡村親一郎・児島 格. 1984a. 大阪市湾の貝類 (予報). 南紀生物, 26 (1) : 42-44.
  - 岡村親一郎・児島 格. 1984b. 大阪市湾の貝類相 I - 二枚貝類の生息記録 -. 南紀生物, 26 (2) : 121-126.
  - 佐藤勝義. 1975. 有明海のアワジチヒロとヤミノニシキ. ちりばたん, 10 (2) : 169-171.
  - 山下博由. 2012. ヤミノニシキ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 116. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 池辺進一標本

貝類

イセシラガイ <i>Anodontia bialata</i> (Pilsbry, 1895) マルスダレガイ目 ツキガイ科	
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 - 国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾の中・低潮帯から水深 20 m の泥底・砂泥底に生息。かつては普通種で、貝殻は白色で薄質、球状によく膨らみ、殻表には薄い黄褐色の殻皮をもつ。殻高 60 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸、アングマン海、インドに分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田川河口、みなべ町堺、白浜町江津市良、富田対ノ浦に分布。

和歌山県では各地から確認できるが、少数の死殻例が多く合弁個体も稀である。近年、激減し、近隣地域でも三重県では古い死殻が広範囲で採集されるものの生貝は殻長 20 mm 以下の幼個体が 1 地点からのみ確認され、また愛知県では 2008 年に名古屋市港で生貝が採集されたのが最後である。また岡山県ではかつての生息記録があるものの、現状、絶滅あるいはそれに近いとされる。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 池辺進一. 2012 : 和歌山市・毛見崎の貝類. かたをなみ, 8 : 15-19.

参考文献  
・情報

- 3 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1): 69-74.
- 7 山下博由. 2012: イセシラガイ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 116. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

イチョウシラトリ <i>Serratina diaphana</i> (Deshayes, 1856) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科					
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

内湾干潟の中潮帯泥底に生息。貝殻は楕円形で白色、薄質、膨らみは弱く扁平。殻長 45 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、和歌川河口（和歌浦湾観海閣）、片男波、田辺市内之浦、白浜町に分布。



**選定理由** 和歌山県では死殻が少数個体、確認され、近年では和歌浦観海閣での採集例がある。本種は全国的に生息地が激減、分布域も縮小した。近隣地域で三重県では伊勢湾では生息が確認できず、2004年に英虞湾で生貝が初めて確認され、また愛知県では絶滅、岡山県では1産地のみ生息地が確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 3 池辺進一. 2017. 和歌山市・観海閣の貝. がんがら, 12: 1-5.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 5 野田圭典. 1999. 田辺湾内之浦～鳥ノ巣海岸で観察された貝類. くろしお, 18: 46-48.
- 6 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 和歌川河口奥部の貝類相 III. 南紀生物, 52 (1): 27-32.
- 7 山下博由・木村昭一. 2012. イチョウシラトリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 129. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

オガタザラ (オガタザクラ) <i>Aereticia tomlini</i> (E. A. Smith, 1915) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科					
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国 絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

リーフの河口域、潮間帯の細砂底に生息。貝殻は殻長 22 mm。和歌山県、高知県、沖縄東岸、東南アジア、フィリピンに分布。



**選定理由** 和歌山県では、串本町上浦が唯一の確認地点である。南西諸島が主分布域で和歌山での記録は偶因分布と見られる。

執筆者 (江川和文)

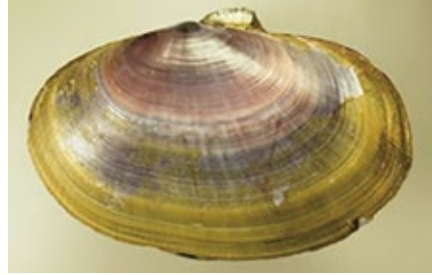
参考文献  
・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 久保弘文. 2012. オガタザクラ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 119. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 三長秀男提供

フジナミガイ <i>Hiatula boeddinghausi</i> (Lischke, 1870) マルスダレガイ目 シオサザナミ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾の砂、砂泥質干潟の低潮帯に生息し、約 30 cm まで埋入する。貝殻は大型、堅固で楕円形、膨らみは弱く、外面には薄い褐色の殻皮をもち、内面は紫色を帯びる。殻長 100 mm。日本固有種。岩手県三陸海岸・秋田県男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広海岸に分布。



和歌山県では西広海岸で大潮干潮時時に数例の死殻が確認されていたが、近年、一度に生貝を含む 60 個体余が確認された。近隣地域では三重県では 4 地点が記録されたが、1982 年に新鮮な死殻が確認された以降、記録がなく、また愛知県では近年、死殻さえ全く確認できておらず、岡山県では現存産地が 1 地点のみである。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・南方啓司. 2015. 和歌山県西広海岸に台風により打ち上げられたフジナミガイ (軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミガイ科). 南紀生物, 57 (1): 63-65.
  - 2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020, 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
  - 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 4 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
  - 7 山下博由. 2012. フジナミガイ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 135. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 江川和文撮影

貝類

ヤチヨノハナガイ <i>Raeta pellicula</i> (Deshayes, 1854) マルスダレガイ目 バカガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾湾口の低潮帯から潮下帯の泥底に生息。貝殻は薄質で脆く、白色、殻頂付近に皺状の隆起をもつ。殻長 40 mm。福島県・兵庫県から九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾、フィリピン、東南アジア、紅海に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。



和歌山県では紀北域の細砂海岸の打ち上げで採集されるが、個体数はごく稀である。近隣地域では大阪市湾南部の男里海岸で打ち上げ個体が記録された。三重県では伊勢湾中部で新鮮な死殻が採集されるが生息が確認できず、また愛知県では名古屋市港沖で、2016 年に 1 個体の生貝が採集されたが、これが唯一の例で、他は死殻さえ稀である。

執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. ヤチヨノハナガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 143. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~, 9. 貝類, 295-383. 三重県農林水産部, 津.
  - 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-, (8) 貝類, 489-726pp. 名古屋.
  - 4 児島 格. 2006. 大阪市湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
- 写真：江川和文撮影

ウスハマグリ *Pitar kurodai* Matsubara, 2007 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

選定理由

内湾の低潮帯から潮下帯の砂底に生息。貝殻はやや薄質、白色、ハマグリ型で、殻表は平滑、砂粒を付着する。殻長 30 mm。房総半島以南、兵庫県、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市宮崎町 (矢櫃)、みなべ町堺に分布。

和歌山県では紀北域の細砂海岸からの打ち上げ個体が少数得られ、名草ノ浜では 2000 年に生貝を確認、また 1970 年代まで矢櫃の底引網に半片の混入が見られた。近隣地域では三重県で鳥羽市生浦湾のみで生貝が確認されるが、個体数は非常に少ない。



執筆者 (江川和文)

貝類

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. ウスハマグリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 151. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72. 自刊, 和歌山.
  - 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
- 写真：三長秀男提供

アツカガミ *Dosinia biscocta* (Reeve, 1850) マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

選定理由

内湾の中・低潮下帯から水深 20 m の砂泥底に生息。貝殻は堅固、縦方向にやや長い類円形。殻長 36 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田川河口に分布。

和歌山県では有田川で死殻の合弁個体を、加太でやや古い半片個体を、名草ノ浜で半化石状個体を採集、以降、再確認例はない。日本では 60 年以上、生貝の記録がない。近隣地域でも大阪市南部、岡山県、三重県、愛知県の近年の生貝の確認記録はない。



執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
  - 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
  - 4 山下博由. 2012. アツカガミ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 148. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 江川和文撮影

ウラカガミ <i>Dosinia corrugata</i> (Reeve, 1850) マルスダレガイ目 マルスダレガイ科						
県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾奥部の低潮帯から水深 20 m の泥底に生息。貝殻は円盤状、やや薄質、後端が裁断状となり、殻表には極めて密な輪肋をもつ。殻長 65 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜、和歌川（和歌浦湾）、片男波、名草ノ浜、有田市初島に分布。

和歌山県では紀北域から死殻が少数確認され、片男波では合弁個体の採集例が、また近年では 2009 年に有田市初島での死殻の採集例がある。全国的に個体数が激減した種であるが、大阪湾南部の男里、二色海岸で打ち上げで両殻揃いの個体が確認される。三重県では紀伊長島の汽水湖から新鮮な死殻が確認され、愛知県では 2008 年に名古屋市港沖から生貝 2 個体が確認されている。



執筆者 (江川和文)

貝類

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. かたをなみ, 6 : 4-9.
  - 2 木村昭一. 2012. ウラカガミ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 149. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 児島 格. 2006. 大阪市湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会. 岸和田.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 5 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 和歌川河口奥部の貝類相 III. 南紀生物, 52 (1) : 27-32.
- 写真: 三長秀男提供

イソカゼガイ <i>Basterotia gouldi</i> (A. Adams, 1864) マルスダレガイ目 イソカゼガイ科						
県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

選定理由

内湾の砂泥干潟に生息するミドリユムシ類の巣穴に生息。貝殻の殻頂は丸まり、全体に丸みを帯びた四角状。殻長 10 mm。房総半島以南、日本海、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では、近年では和歌山市 2 地点で確認。古い死殻で個体数も稀である。瀬戸内海（広島）では埋もれた石の側面からの生息が確認されているが、近隣地域では絶滅に近い状態で、三重県では伊勢湾湾口部より新鮮な死殻（半片）が採集されているが、生貝は未確認であり、また岡山県では生息が確認できない。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 木村昭一. 2012. イソカゼガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 153. 東海大学出版会, 秦野.

参考文献  
・情報

- 2 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 223pp. 蘭島文化振興財団, 呉.  
 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.  
 写真: 三長秀男提供

**ハナビラガイ** *Fronsella ohshimai* Habe, 1958 マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	--------------------	----	------	---	---	---

選定理由

従来、スジホシムシに着生するとされてきたが、近年、オオブンブクの体表にも共生することが明らかになった。貝殻は白色、卵形、殻表は平滑。殻長 9 mm。相模湾・男鹿半島以南、九州に分布。

和歌山県では近年、和歌山市加太（田倉崎）のタイドプールで確認され、近年ではこれが唯一の例と見られる。古くは御坊市名田、みなべ町岩代の記録があるが、詳細は不明である。近隣地域（岡山県、大阪府、三重県、愛知県）等での記述はない。

執筆者（江川和文）



参考文献  
・情報

- 1 波部忠重. 1958. 日本産二枚貝類 5 新種. 貝類学雑誌 (Venus). 20 (2) : 173-180. ext-figs. 1-5.  
 2 池辺進一. 2016. 和歌山県の珍しい二枚貝. がんがら, 11 : 18.  
 3 久保弘文・福田 宏・松隈明彦. 2017. ブンブクヤドリガイ科. 日本近海産貝類図鑑 (第二版). 解説編. 715-1375pp. 東海大学出版会, 秦野.  
 4 黒田徳米. 1945. 和歌山県貝類目録 (未定稿). 西宮市貝類館所蔵.  
 5 山下博由. 2012. ハナビラガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 153. 東海大学出版会, 秦野.  
 写真: 池辺進一提供

**オウギウロコガイ** *Galeommella utinomii* Habe, 1958 マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

選定理由

内湾の干潟から潮下帯のアマモ場周辺の砂泥底に埋没した転石下に生息。貝殻は薄質で脆く、白色半透明、殻表の腹縁部に 25 肋内外の放射肋をもつ。殻長 5~7 mm。東京湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、和歌川河口、名草ノ浜、広川町西広海岸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では生貝は和歌川干潟、田辺湾奥部から各 1 個体が確認され、他に死殻が少数、確認されているが、本種は全国的にも稀少な種である。近隣地域で三重県では、従来、未記録の英虞湾湾口部の潮下帯から生貝 1 個体を採集したものの以後、確認例はなく、また愛知県では三河湾や知多湾から 4 地点の生息地が確認されている。

執筆者（江川和文）



参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2017. 和歌山市静海閣の貝. がんがら. (12). 1-5.  
 2 木村昭一・福田 宏. 2012. オウギウロコガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 159. 東海大学出版会, 秦野.  
 3 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して (2). かたをなみ, 3 : 5-11.  
 4 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7 : 1-9.  
 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32) : 1-14.  
 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.

参考文献  
・情報

- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.  
 8 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 和歌川河口奥部の貝類相 III. 南紀生物, 52 (1) : 27-32.  
 9 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1) : 91-94.  
 写真: 三長秀男提供

スナウロコムシヤドリガイ *Montacutona sigalionidcola* Goto & Tanaka, 2019 マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
-------	--------------------	----	------	---	---	---

選定理由

本種は小型の二枚貝で、殻長は最大で 4.9 mm 程である。貝殻はやや黄土色がかった白色で楕円形、殻頂はほぼ中央に位置し、前方へ傾く。左右の殻が閉じた際、腹縁中央より前側に隙間ができ、そこから足および足糸を出す。潮間帯から潮下帯の細かい砂中に生息するスナウロコムシ (別名: フタコブウロコムシ) という多毛類に片利共生し、背側の前端部に足糸で強く付着する。宿主 1 個体に対し複数個体が付着する場合もある。串本町から得られた標本をタイプとして 2019 年に新種記載された。これまでに紀伊半島南部 (串本町、白浜町椿) および房総半島南部 (鴨川市) からしか報告されておらず、産地記録は極めて少ない。宿主のスナウロコムシの生息密度は低いため、生息環境の減少や悪化によって更に宿主が減少した場合、スナウロコムシヤドリガイの生息にも大きな影響を及ぼすと予想される。そのため、宿主及びその生息環境を含めた保護が必要だと考えられる。



執筆者 (後藤龍太郎)

参考文献  
・情報

- 1 Goto, R. & Tanaka, M. 2019. Worm-riding clam : description of *Montacutona sigalionidcola* sp. nov. (Bivalvia : Heterodonta : Galeommatidae) from Japan and its phylogenetic position. Zootaxa, 4652 : 473-486.  
 2 大谷洋子・大原健司・高田良二. 2005. 西宮市貝類館収蔵標本目録 第 1 号. 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録 (2) 二枚貝綱, 田中勉氏寄贈二枚貝標本目録. 100 + 5 pls. + 索引 21. 西宮市貝類館, 西宮.  
 3 柳 研介【編集・執筆】, 多留聖典・田中正敦・自見直人【監修】. 2018. 海の生き物観察ノート④ ゴカイのなかまを観察しよう. 32pp. 千葉県立中央博物館分館海の博物館, 勝浦.  
 写真: 後藤龍太郎撮影

コオキナガイ *Laternula boschasina* (Reeve, 1864) 異靱帯目 オキナガイ科

県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
-------	--------------------	----	------	---	---	--------------------

選定理由

内湾干潟の泥質干潟の中潮線付近に生息。貝殻は薄質で脆く、白色、半透明、殻表に微細な顆粒突起をもつ。殻長 40 mm。房総半島以南、南西諸島、中国大陸に分布。和歌山県内では田辺市内之浦干潟、田辺湾；白浜町白良浜、藤島、堅田に分布。  
 和歌山県では田辺、白浜の紀伊水道中域より確認されるが、個体数は非常に稀である。近隣地域で三重県では 2004 年に英虞湾 1 地点より生息が確認され、愛知県では現在、生息が確認できず、絶滅の可能性がある。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.  
 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.



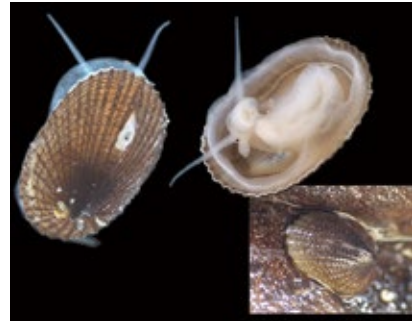
参考文献  
・情報

- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2009. 平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書. 72pp. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
  - 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種 1976-2001. 南紀生物, 43 (2): 102-108.
  - 木村昭一. 2012. コオキナガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 168. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 和田恵次提供

セムシマドアキガイ <i>Rimula cumingii</i> A. Adams, 1853 古腹足目 スカシガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

内湾の礫干潟潮間帯下にある転石下の還元環境に生息。貝殻は微小、傘形で薄質、白色。殻頂はやや後方に寄り、前方中央にはスリット状の穴をもち、殻表には淡褐色の放射状肋と成長脈が交差する。殻長 5 mm。茨城県北部・新潟県佐渡から九州西岸、小笠原に分布。和歌山県内では和歌山市加太、広川町西広海岸、御坊市上祓井戸、みなべ町、田辺湾奥部、白浜町対ノ浦、すさみ町江須崎、串本町上浦、潮岬、那智勝浦町宇久井から記録。



和歌山県全域から確認例があるが、生貝の確認例は加太と田辺湾奥部の 2 例のみである。近隣地域で淡路島洲本や山口、香川等での生息記録があるが、愛知県では生息記録がなく、岡山県、三重県では絶滅相当とされている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020 動物編. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化局, 岡山.
  - 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部. 津.
  - 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 小山安生. 2008. 和歌山県の古腹足目貝類目録 (1) クチキレエビスガイ科・オキナエビスガイ科・ミミガイ科・スカシガイ科. 南紀生物, 50 (2): 253-260.
  - 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1: 1-23.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1): 41-46.
- 写真: 三長秀男提供

ウミヒメカノコ <i>Smaragdia</i> sp. アマオブネガイ目 アマオブネガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

内湾の細砂底潮下帯から水深 40 m のアマモ場に生息し、アマモ類を摂食する。貝殻は微小、堅固で半透明、平滑な球型、淡黄色の殻地に 2 本の白い色帯と褐色の細い縦線があり、この線は色帯上で稲妻状に曲がる。殻長 5 mm。千葉県館山湾以南から四国、九州、南西諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、田辺湾奥部、目良、元島、串本町上浦、橋杭に分布。



和歌山県では田辺湾奥部では新鮮な死殻が多数確認されるが、生貝は未確認で、これは調査域が潮下帯以深にあるアマモ場に及ばないためという。近隣地域では三重県では 2013 年に死殻が確認され、愛知県では生息記録はない。

執筆者 (江川和文)



- 1 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 ー動物編ー. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 2 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32): 1-14.
- 3 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類. かたをなみ, 3: 12-23.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1): 41-46.
- 6 山下博由・久保弘文. 2012. ウミヒメカノコ 干潟の絶滅危惧種動物図鑑 (日本ベントス学会編). 24. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 三長秀男提供

ウミヒメカノコ近似種 *Smaragdia cf. bryanae* (Pilsbry, 1917) アマオブネガイ目 アマオブネガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

生息域はウミヒメカノコ同様、アマモ場周辺と想定される。貝殻はウミヒメカノコに形状が近似するが、殻はより丸みを帯び、殻地は白色、細い黒色でやや直線状の縦線をめぐらす。体層上で3線に断続する。和歌山県以外に沖縄県・西表島から確認。和歌山県内では和歌山市加太、串本町上浦、那智勝浦町宇久井に分布。



選定理由

本種は和歌山市加太海岸から新鮮な死殻2個体を確認。当初、ハワイの特産種、*Neritina bryana* に同定し、この原図とともに標本を図示した。その後、沖縄県石垣島、西表島からも同種を確認した。ただ本邦産個体では縦線が黒線なのに対し、ハワイ産個体は赤褐色と微細な差異が認められ、今後の検討を要する。

執筆者 (江川和文)

- 1 小山安生. 1988. 日本初記録の海産貝類 2. 南紀生物, 30 (1): 64-66.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2014. 和歌山市加太周辺の貝類相 VII. 南紀生物, 56 (1): 66-71.
- 3 Pilsbry, H. A. 1917. Marine Mollusca of Hawaii IV - VII. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 69: 309-333. pls. 20-22.
- 写真: 三長秀男提供

フネアマガイ *Septaria porcellarina* (Linnaeus, 1758) フネアマガイ目 フネアマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

本種は屋久島以南では多く分布し、普通に見られるが、本州では記録は少ない。和歌山県でも偶発的に見つかるが、極めて少ない。

貝殻は笠形、殻径 20~25 mm。黄褐色の殻皮には黒褐色の網目や放射帯がある。貝殻は扁平で、その殻口は大きい。蓋は足の中に埋没している。



選定理由

和歌山県内では有田川、広川町唐尾、日高川、南部川、会津川、富田川、日置川、粉白川・那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県は本種の北限分布域でもある。南方系の種であるために、冬季の低温時には死滅する時がある。

日高川河口域では類似種・ベッコウフネアマガイが記録されたことがある。

執筆者 (池辺進一)

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米. 1932. 標本同定余録 (1) [紀伊産 (?) のフネアマガイ類]. Venus, 3 (2) : 115-117.
  - 2 湊 宏. 1971. 南紀貝信 (II) 紀伊半島でフネアマガイ類の分布を再確認する. ちりばたん, 6 (6) : 130-132.
  - 3 湊 宏. 1978. 南紀貝信 (V) トグロコウイカの漂着とフネアマガイの記録. ちりばたん, 10 (2) : 38-39.
  - 4 野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義. 2002. 有田川河口汽水域の大型底生動物相. 南紀生物, 44 : (2) 115-121.
  - 5 和田恵次. 私信.
  - 6 吉田卯太郎. 1967. フネアマガイ富田川に棲息. 南紀生物, 9 (2) : 55.
- 写真：三長秀男提供

ツバサコハクカノコ *Neritilia mimotoi* Kano, Sasaki & Ishikawa, 2001 アマオブネガイ目 コハクカノコ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

汽水湖や海水の滲出する環境下に生息。貝殻は微小、やや薄質で淡褐色、殻長 3 mm。鹿児島県上甕島、宮崎県、愛媛県、高知県、和歌山県、三重県に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、有田川河口、串本町古座川に分布。



**選定理由** 本種は鹿児島県上甕島の貝池（汽水湖）を模式産地とするが模式産地以外の確認例は極めて少ない。和歌山県では紀の川河口の打ち上げ砂からの 1 個体、有田川からの幼個体 1 個体の 2 例、その他古座川産個体数例が知られ、環境変化に極めて鋭敏な種と見られる。近隣地域で三重県では南部の小河川 1 地点でのみ確認され、個体数は稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2013. 採集記録. かたをなみ, (9) : 31-32.
  - 2 Kano, Y., Sasaki, T. & Ishikawa, H. 2001. Neritilia mimotoi, a new neritiliid species from an anchialine lake and estuaries in southwest Japan. Venus, 60 : 129-140.
  - 3 木村昭一. 2009. 三重県南部の小河川に生息するツバサコハクカノコ. ちりばたん, 39 (3/4) : 142-145.
  - 4 木村昭一. 2012. ツバサコハクカノコ 干潟の絶滅危惧種動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 25. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.
- 写真：三長秀男提供 (田中真人採集)

サナギモツボ *Eufenella pupoides* (A. Admsms, 1860) 新生腹足目 スナモチモツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾奥部の水深 5~30 m の軟泥底や砂底に生息。貝殻は微小でやや薄質、淡黄褐色の紡錘形で殻高 4 mm。三陸海岸、佐渡島から南西諸島、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、広川町西広海岸、田辺湾奥部に分布。



**選定理由** 和歌山県では死殻が普通に見られるが、生貝は現在、田辺湾奥部で確認されているのみである。近隣地域では、三重県で 1980 年代以降激減し、また愛知県でも近年、生貝は採集されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. サナギモツボ 干潟の絶滅危惧種動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 28. 東海大学出版会, 秦野.

参考文献  
・情報

- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 ー動物編ー. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 II. かきつばた, (40): 2-16.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1): 41-46.
- 写真: 三長秀男提供

イボウミニナ <i>Batillaria zonalis</i> (Bruguière, 1792) 新生腹足目 ウミニナ科						
県カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

河口域や内湾泥干潟の潮下帯に生息。貝殻は堅固、高い塔型で黒灰色。殻高 40 mm。ウミニナ、ヘナタリが干潮時、露出した干潟上にも見られるのに対し、本種は滯筋や潮下帯の水中に見られる。ウミニナ、ホソウミニナに近似するが、殻口外唇後方が湾曲する。宮城県から南西諸島、中国大陸、朝鮮半島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、布引海岸、名草ノ浜、海南市琴ノ浦、有田市、



選定理由

広川町西広海岸、御坊市日高川、田辺市内之浦に分布。  
和歌山県では現在、和歌浦湾で常時、潮下帯からまとまった個体群が確認されるが、県内全域で個体数は少ない。ウミニナ科の諸種のうち本種が最も環境の変化の影響を受けやすく、次がウミニナ、更にホソウミニナの順である。実際、有田川河口では 2007 年、ホソウミニナ、ウミニナが普通に見られたのに対し、本種は死殻のみが見られ、更に広川町江上川では本種のみが確認できなかった。三重県では英虞湾のみで生息が知られ、愛知県ではこれが 2 地点のみで、更に相模湾では消滅にランクされる。

執筆者（江川和文）

貝類

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2): 167-172.
  - 2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
  - 3 池田 等・倉持卓司・渡辺政美. 2001. 相模湾レッドデーター貝類ー. 104pp. 葉山しおさい博物館. 葉山.
  - 4 木村昭一・福田 宏. 2012. イボウミニナ 干潟の絶滅危惧種動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 31. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 6 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 ー動物編ー. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 7 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). 南紀生物, 46 (1): 31-36.
  - 8 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して. かたをなみ, 2: 7-35.
  - 9 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31: 1-7.
  - 10 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. 日高川河口周辺で観察した貝類. くろしお, (24): 44-46.
  - 11 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
  - 12 中本博之・野田圭典・土岐頼三郎・江川和文. 2007. 有田川河口で観察した貝類. くろしお, (26): 52-54.
  - 13 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1): 59-63.
  - 14 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種. 南紀生物, 43 (2): 102-108.
- 写真: 三長秀男提供

カワアイ *Pirenella pupiformis* Ozazwa in Reid & Ozawa, 2016 新生腹足目 キバウミナ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 旧県 2012 - 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

河口域や潮間帯の泥底やアマモ帯に生息。貝殻は堅固で黒褐色、螺塔は高い塔型、殻表は弱い縦肋と螺肋が交差し顆粒状となる。殻高 35 mm。かつては房総以南の普通種とされていた。

和歌山県内では和歌山市、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田川、日高川、御坊市北塩屋、田辺市、田辺湾内之浦に分布。

選定理由

本種は和歌山県内では和歌山市から串本町まで、県内全域に見られた種であるが、近年、紀の川、有田川からの記録はなく、2000 年以降は日高川河口の南岸側溝、御坊市北塩屋から確認されているに過ぎない。近隣域でも愛知県では 2014 年以降生貝の採集例はなく、三重県では 10 地点以上で生息が確認されているものの個体数は減少している。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 2 環境省自然環境局生物多様性センター. 2009. 平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書. 72pp. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
  - 3 波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準原色図鑑全集 3 貝類 xviii. 223pp. 64 pls. 保育社, 大阪.
  - 4 木村昭一・福田 宏. 2012. カワアイ 干潟の絶滅危惧種動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 30. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). 南紀生物, 46 (1) : 31-36.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 7 中本博之・野田圭典・土岐頼三郎・江川和文. 2007. 有田川河口で観察した貝類. くろしお, (26) : 52-54.
- 写真：三長秀男提供

タケノコカワニナ *Stenomelania rufescens* (Martens, 1869) 吸腔目 トゲカワニナ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 旧県 2012 学術的重要 (SI) 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

和歌山県では生息河川は多くはない。河口の汽水域附近の泥底に生息して泥の上を這っていることが多い。汽水域の全体に生息することはなく、局所的である。

貝殻は大形（殻高 50 mm 前後）、殻頂部は浸食によって欠落していることが多い。殻色は濃褐色～赤褐色で鈍い光沢がある。

選定理由

和歌山県内では紀の川、有田川、広川町西広、富田川、白浜町袋川、日置川の河口域で生息が確認されている。

南方系の種で、和歌山県では限定された地域にしか確認されていない。流れの緩やかな泥底が生息域である。



執筆者（池辺進一）

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1992. 富田川・川口付近の貝. くろしお, (11) : 31.
  - 2 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ペーシーズ, 東京.
  - 3 和田恵次. 私信.
- 写真：前岩 崇提供



スジウネリチョウジガイ *Rissoina costulata* Dunker, 1860 新生腹足目 リソツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾干潟のやや還元環境の礫地に生息。貝殻は微小、堅固で白色、高い塔型、殻表にはやや傾斜した縦肋をめぐらし、殻底に2つの細い螺肋をもつ、殻長4 mm。房総以南九州、南西諸島、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町対ノ浦に分布。



上祓井戸、田辺湾奥部では生貝を確認、新鮮な死殻は和歌山市加太から白浜町までの各地から採集される。従来は、普通に見られた種である。近隣地域では三重県では1地点から稀に生貝が確認されるのみで、また愛知県では一時、生貝が確認されていなかった。なお、広島県では生貝の採集例がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, (33): 1-7.
  - 2 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 223pp. 蘭島文化振興財団. 呉.
  - 3 池辺進一. 2017. 和歌山県御坊市名田町野島・高座の貝. がんがら, 12: 6-9.
  - 4 木村昭一. 2009. レッドデータブックあいち 2009. (8) 貝類. 451-606pp. 名古屋.
  - 5 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して. かたをなみ, 2: 7-35.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 (Ⅱ). かきつばた, (40): 2-16.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
  - 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1): 41-46.
- 写真: 三長秀男提供

ゴマツボ *Stosicia annulata* (Dunker, 1860) 新生腹足目 リソツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

小規模な内湾における海岸礫地の低潮帯から潮下帯の半ば埋没した転石下に生息。貝殻は微小で堅固、白色、新鮮な個体は黒褐色、細い紡錘形、太い螺肋をめぐらし、肋間は深い溝状となり、殻口は縦張肋状に肥厚する。殻高4 mm。房総・能登半島以南、九州、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾、名草ノ浜、和歌川、御坊市上祓井戸、海南市冷水、田辺市新庄町滝内に分布。



和歌山県では加太海岸から黒褐色の新鮮な個体を確認した他、紀伊水道西岸の北域から中部域で普通に死殻が確認でき、生貝は、現在、田辺湾奥部で確認される。近隣地域では三重県では古い死殻が確認できるのみで、愛知県でも生貝は未確認である。かつて普通に見られた種で、広島県では生貝が記録され、瀬戸内海や九州西岸に健全な個体群が記録されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. ゴマツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 36. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 223pp. 蘭島文化振興財団, 呉.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32): 1-14.
- 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類. かたをなみ, 2: 12-35.

参考文献  
・情報

- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1): 41-46.
- 7 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1): 59-63.

写真: 三長秀男提供

**ウチノミツボ** *Pellamora aff. densilabrum* (Melvill, 1912) 新生腹足目 ワカウラツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾、河口域等のやや還元環境の転石下に生息。貝殻は微小、やや薄質、白色半透明、細長い紡錘形、殻表は螺塔では微細な螺肋をめぐらし、体層中央では平滑となる。殻高 3 mm。瀬戸内海中央部、有明海、九州西岸に分布。和歌山市加太、名草ノ浜、有田市河口に分布。

加太、名草ノ浜等で古い死殻を確認するのみで、全国的に産出例は極めて少ない。近隣地域にも確認例はない。なお、瀬戸内海中央部の一部には多産地がある。

執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2): 167-172.
- 2 福田 宏. 2012. ウチノミツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 39. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化局, 岡山.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2014. 和歌山市加太周辺の貝類相 VII. 南紀生物, 56 (1): 66-71.

写真: 江川 (2004) 典拠

**ミジンゴマツボ** *Liroceratia sulcata* (Böttger, 1893) 新生腹足目 リソツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾湾口部の砂泥質干潟の砂泥に埋没した転石下に生息。貝殻は微小、やや堅固、ゴマツボを更に小型化した形状で白色から淡褐色、殻高 2.2 mm。殻表には明瞭な等大の螺肋を持ち、次体層で 5 肋、体層で 10 肋を数える。和歌山県 (田辺市)、南西諸島に分布。

和歌山県では田辺湾奥部の 1 地点のみで確認され、1995~2006 年には多数個体が確認された。同地は細砂底と岩礫の内湾で、沖合にはアマモ帯が形成される。ただ、2007 年以降に同地で本種は確認できなかった。本種は奄美大島産個体を基に最初に記録された。南西諸島では今日でも比較的普通に見られる。

執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 1993. 奄美大島産リソツボ科 Rissoidae 貝類の図説. 九州の貝, 40/41: 75-117.
- 2 福田 宏. 2012. ミジンゴマツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 40. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 16pp. 8pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 4 Laseron, C. F. 1956. The families Rissoidae and Rissoidae (Mollusca) from the Solanderian and Dampierian Zoogeographical Provinces. Australian Journal of Marine and Freshwater Research, 7 (3): 384-484.
- 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32): 1-14.

写真: 三長秀男提供

アラウズマキ *Circulus duplicatus* (Lischke, 1872) 新生腹足目 イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾干潟や河口域で潮間帯の転石下の還元環境域に生息。貝殻は微小で堅固、白色、扁平な円盤形、殻径4 mm。周縁に2本の螺肋が結合した角張った1肋をもち、新鮮な個体は硫化鉄に覆われ黒色となる。房総・男鹿半島以南から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、御坊市上祓井戸、田辺市新庄町滝内で分布。



和歌山県では生貝は和歌川河口奥部の転石下から確認されるが、生貝の採集例は稀である。近年、生貝の採集例は極めて少なく、近隣地域では三重県、愛知県では近年、稀に生貝が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
  - 5 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
  - 7 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1) : 59-63.
- 写真：三長秀男提供

貝類

イソマイマイ *Sigaretornus aff. planus* (A. Adams, 1850) 新生腹足目 イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾の砂泥底でユムシ類の穿孔巢孔に生息すると推察される。貝殻はやや堅固、白色の円盤状、背面の殻表はほぼ平滑で微細な螺溝をめぐらし、腹面には大きく丸い臍孔をもつ。殻長10 mm。房総・能登半島以南から九州に分布。従来、用いられてきた *Sigaretornus planus* は香港からフィリピンに分布する別種と見られる。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事により消失）、名草ノ浜、御坊市上祓井戸に分布。



和歌山県では名草ノ浜から1985年に生貝1個体が確認されたが、1990年以降、死殻でさえ稀である。三重県では稀に生貝が確認され、愛知県では絶滅し、死殻さえ稀で、また岡山県でも絶滅と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. イソマイマイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑(日本ベントス学会編). p. 42. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.

参考文献  
・情報

- 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 野田圭典. 1999. 和歌山市におけるイソマイマイ生個体の採集記録. 南紀生物, 41 (1) : 4.  
写真: 三長秀男提供

**ウミコハクガイ** *Teinostoma lucidum* A. Adams, 1860 新生腹足目 イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾湾口部のやや還元環境の転石下に生息。貝殻は微小、半透明の白色、扁平な平巻状で背面は平滑、腹面には内唇の滑層が伸び臍孔部を塞ぐ。殻長 2 mm。岩手県大槌湾・能登半島から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、串本町串本、潮岬に分布。



選定理由

和歌山県での記録は極めて少なく、5 地点から確認されているが、いずれも死殻のみである。近隣地域でも三重県では死殻の採集例があるものの現状不明であり、愛知県では記述がなく、また岡山県では絶滅に近い状態にある。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 福田 宏. 2012. ウミコハクガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 43. 東海大学出版会, 秦野.
- 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化庁, 岡山.
- 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020. -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
- 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2 腹足綱②. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
- 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.  
写真: 三長秀男提供

**オオネズミガイ** *Mammilla kurodai* (Iw. Taki, 1943) 新生腹足目 タマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

細砂底の水深 20~50 m に生息。貝殻はやや薄質、ネズミガイに近似し、殻表に 3 列の暗褐色の斑列をもつ。相模湾以南、九州に分布。殻長 40 mm。和歌山県内では和歌山市加太、片男波、和歌川、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市冷水、有田市、矢櫃、有田郡西広海岸、印南町印南、田辺湾奥部、天神崎に分布。



選定理由

和歌山県では古くは田辺から記録され、後年、生貝が田辺湾奥部で確認されている。近年、和歌山県内では個体数の増加が確認されている。本種は広島県尾道沖から新種記載された種で、かつて稀な種で、近隣地域 (三重県、愛知県、岡山県) でも記述はない。

執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 江川和文・土岐頼三郎. 2011. 和歌山市名草浜産オオネズミガイ（軟体動物門、腹足綱、タマガイ科）の動物体残存個体の知見. 南紀生物, 53 (2) : 124-126.
- 2 稲葉明彦. 1963. 瀬戸内海の生物相—向島臨海実験所創立 30 周年記念出版—, 352pp. 6 pls. 広島大学向島実験所, 尾道.
- 3 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2) : 147-153.
- 4 黒田徳米. 1945. 和歌山県貝類目録（未定稿）. 西宮市貝類館所蔵.
- 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32) : 1-14.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・三長孝輔・江川和文. 2006. 紀伊水道周辺におけるオオネズミガイの産出状況（軟体動物門、腹足綱、タマガイ科）. 南紀生物, 48 (2) : 153-156.
- 7 瀧 巖. 1943. 瀬戸内海産軟動物 (2). 貝類学雑誌 (Venus), 13 (1-4) : 111-118. Text-figs. 1-14.
- 8 瀧 巖. 1950. 貝類雑記帖 (1). ゆめ蛤 [ 謄写 ], 46 : 290-293.  
写真：三長秀男提供

フロガイダマシ *Naticarius concinnus* (Dunker, 1860) 新生腹足目 タマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

干潟や流れの速い海岸の低潮帯に生息。貝殻は堅固、ほぼ球形、クリーム色の殻地に 2 本の褐色の色帯をめぐらす。殻長 15 mm。房総半島から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代の造成工事で消滅）、和歌浦湾、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、名田、みなべ町堺、田辺市新庄町滝内、白浜町対ノ浦、串本町串本、橋杭に分布。



選定理由

和歌山県では生貝は加太から、唯一、確認、死殻は各地から記録されている。本科諸種で本種のみが著しい減少が知られ、和歌山県でも今後、同様な傾向が考えられる。近隣地域で三重県では伊勢湾湾口部から生貝が確認されるが個体数は非常に稀で、また愛知県でも生貝の確認例は稀である。

執筆者（江川和文）

貝類

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, (33) : 1-7.
- 2 福田 宏・木村昭一. 2012. フロガイダマシ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 59. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2) : 147-153.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
- 5 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2) : 155-160.  
写真：江川和文撮影

カハタレカワザンショウ "*Nanivitre*" sp. 新生腹足目 カワザンショウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾や河口の汽水でイソミミズの巣穴に生息すると見られるが詳細は不明。貝殻は微小、薄質でガラス質、褐色、螺塔は低く平巻に近い。殻径 1.5 mm。本科諸種は螺塔が円錐状に高まるが、本種は平巻に近い特異な形状をもつ未記載種で、今後、新たな属名が提唱されると見られる。和名は古語の「彼(カ)は誰(タレ)」に由来する。和歌山県内では有田市河口、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では2例のみが確認され、有田川産個体は岸の打ち上げ砂からの確認個体である。近隣地域で三重県では英虞湾から2000年に最初の記録が確認される。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. カハタレカワザンショウ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 53. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.

ウネナシイトカケ *Acrilla acuminata* (Sowerby, 1844) 新生腹足目 イトカケガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾干潟や河口域の低潮帯から潮下帯の砂泥底や細砂底に生息。貝殻はやや薄質、高い螺塔をもち、淡褐色、螺層に2帯の色帯をめぐらす。殻表には細く微細な縦肋を密にもち、螺層は丸く縫合は弱く、殻口は肥厚しない。殻高 45 mm。房総半島から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、水軒浜 (1960年代、造成工事のため消失)、有田市河口に分布。

和歌山県内では、近年、やや新鮮な死殻が得られているものの、生貝の確認例はない。近隣地域でも三重県、愛知県でも生貝は確認されておらず、また岡山県でも絶滅あるいはそれに近い状況にある。

執筆者 (江川和文)



貝類

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
- 2 福田 宏・木村昭一. 2012. ウネナシイトカケ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 61. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
- 4 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山自然博物館, 海南.
- 5 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 6 木村昭一. 2020. (8) 貝類. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 - 動物編 -. 489-726pp. 名古屋.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.

写真: 三長秀男提供

ヒモイカリナマコツマミガイ *Hypemastus lacteus* (A. Adams, 1863) 新生腹足目 ハナゴウナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

ハナゴウナ科諸種は棘皮動物を宿主とし、本種はヒモイカリナマコに寄生する。貝殻は薄質、半透明白色でガラス質状、殻表は平滑、殻頂先端は細く針状に突き出す。殻高 4 mm。宿主ヒモイカリナマコは干潟や河口域等、やや低塩度の泥底の転石下に生息。三浦半島以南、瀬戸内海、九州沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市和歌川、有田市、有田郡西広海岸、白浜町対ノ浦に分布。



本種は幕末期に“Tanabe”（田辺湾畠島 [行政区分は白浜町]）から記録された種で、宿主はミミズ状のナマコで、宿主体内に寄生する。和歌山県内では和歌川、白浜町対ノ浦から生貝が確認されているが、個体数は稀で、さらに近年、宿主の確認例自体が稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 Adams, A. 1863. On the Japanese species of Leuiostraca. Jour. Proceedings of the Linnean Society of London (Zoology), 7 : 89-91.
- 2 江川和文・坂下泰典. 2011. 鹿児島県におけるヒモイカリナマコツマミガイの記録. 九州の貝, 77 : 23-29.
- 3 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, (33) : 1-7.
- 4 Habe, T. 1952. Parasitic gastropods found in Echinodermus from Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, II (2) : 73-85. Pl. VI.
- 5 遠藤広光. 2018. カクレオ科 165p. (日本魚類館 小学館の図鑑 Z (中坊徹次編・監修). 528pp. 小学館, 東京.
- 6 福田 宏・木村昭一. 2012. ヒモイカリナマコツマミガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 63. 東海大学出版会, 秦野.

写真：三長秀男提供

ヤセフタオビツマミガイ *Mucronalia exilis* A. Adams, 1862 新生腹足目 ハナゴウナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾の砂泥質干潟の低潮帯から潮下帯に生息。貝殻は微小、薄質、半透明白色、螺塔は細長く高く、殻表は平滑、光沢を持つ。殻高 2.4 mm。クモヒトデ類の一種に外部寄生する。房総半島、山口県三島から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事のため消失）、名草ノ浜に分布。



和歌山市から死殻が稀に記録される。近年、近隣地区からの記録例はなく、瀬戸内海中央部の広島県三原市、竹原市の2地点が記録されるのみである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

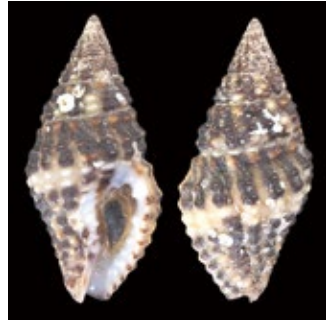
- 1 福田 宏. 2012. ヤセフタオビツマミガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 64. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2) : 155-160.

写真：三長秀男提供

ゴマフホラダマシ (ナガゴマフホラダマシ) *Engina menkeana* (Dunker, 1860) 新生腹足目 エゾバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾湾口部で潮間帯から潮下帯岩礁や転石下に生息。貝殻は小形、堅固、縦肋間は深い溝となり、肋上は黒色の顆粒列が並ぶ。ナガゴマフホラダマシは種内変異と見られる。殻高 10 mm。房総半島以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代の造成工事で消失)、和歌川、新和歌浦、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺市田辺湾、白浜町富田対ノ浦に



選定理由

分布。  
和歌山県では和歌川奥部、新和歌浦、田辺湾奥部から普通に生息が見られるが、他での採集例は少なく、全く確認できない地域もある。近隣地域では三重県に記述はなく、愛知県では 5 地点で生貝が確認されたが個体数は多くない。一方、岡山県ではかつて多産しており、近年、ウネボラ、オガイ、ヒメエガイ等に回復傾向が見られるのに本種は稀である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, (34) : 58-66.
  - 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 3 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
- 写真: 三長秀男提供

オマセムシロ *Hima praematurata* (Kuroda & Habe, 1961) 新生腹足目 オリイレヨフバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

アマモ場周辺の低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息。貝殻は小型、やや薄質、淡褐色、縦肋は顕著であるが、体層では消失し、平滑となる。殻高 5 mm。駿河湾、瀬戸内海、九州西岸に分布、日本固有種。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県内では加太の堆積砂から新鮮な死殻を確認したが、生貝の確認には至っていない。元々、稀な種で、近隣地域では三重県での死殻の記録があるに過ぎない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 木村昭一. 2012. オマセムシロ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 67. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~ 三重県の絶滅のおそれのある野生生物 ~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 Ⅲ. 南紀生物, 54 (1) : 61-66.
- 写真: 江川和文撮影



オリイレボラ <i>Trigonostoma scalariformis</i> (Lamarck, 1822) 新生腹足目 コロモガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

大規模な内湾の干潟の潮下帯に生息。貝殻は非常に堅固、顕著な縦肋をめぐらし、肋間は平滑、臍孔は狭く開く。殻高 25 mm。房総半島以南から九州、中国大陸、朝鮮半島沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代の造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県では和歌浦湾で 1970 年代まで、生貝が確認され、その後、死殻さえ稀であったが、近年、2003 年、新鮮な死殻が確認されている。本種は、江戸湾（東京湾）から最初に図説・記録された種で、この当時、全国の内湾干潟に分布していたと推測される。本邦では有明海以外の生息記録は途絶え、また近隣地域で三重県では 1979 年以前に 2 地点の生息地が確認され、近年、生貝が採集された。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 2 木村昭一・福田 宏. 2012. オリイレボラ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 74. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1) : 73-78.  
写真：三長秀男提供（池辺進一採集）

貝類

イワカワトクサ <i>Duplicaria evoluta</i> (Deshayes, 1859) 新生腹足目 タケノコガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

開放的な湾や外洋の低潮帯から水深 20 m の砂底に生息。貝殻は堅固、縦肋は顕著でクリーム色、肋間は褐色、縫合下は結節する。殻高 50 mm。茨城・山形県以南、九州、奄美大島、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では有田市宮崎町（辰ヶ浜）、御坊市塩屋、みなべ町一本松、すさみ町周参見、串本町、那智勝浦町宇久井に分布。

選定理由

宇久井では 1970 年代、港湾工事の浚渫砂に多数の本種が含まれていたが、近年、急激に激減した。近隣地域でも三重県では湾口部からの記録があるが、死殻も非常に少なく、また愛知県では外洋から死殻が確認されているが、内湾域では不明で情報不足である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 小山安生. 1996. 和歌山県のタケノコ科貝類. 南紀生物, 38 (1) : 65-71.
- 3 山下博由. 2012. イワカワトクサ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 77. 東海大学出版会, 秦野.

ベッコウイモ (キラベッコウ) <i>Conus fulmen</i> Reeve, 1843 新生腹足目 イモガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

礫の多い砂泥質の中に生息、肉食性でハゼ類の幼魚を毒矢で捕食する。倒円錐形の貝で堅固、褐色の殻皮を持つ。キラベッコウは黒褐色の斑紋のない型。殻高 65 mm。房総半島以南、瀬戸内海、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事により消失)、有田市宮崎町矢櫃、御坊市上祓井戸、印南町津市井、白浜町対ノ浦に分布。



選定理由

本種は和歌山県ではほぼ全域に分布が見られ、特に有田市ではエビ刺網漁で得られ、北米原産の外来種シマメノウフネガイが着生した個体が確認されていた。近年、和歌山県北部ではオニサザエとともに顕著に激減した。本種は瀬戸内海西域の山口県でも減少が確認されている。

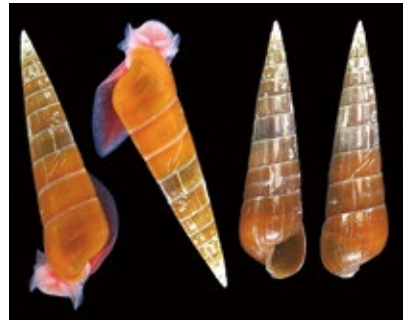
執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山自然博物館, 海南.
- 3 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
- 4 三長孝輔・三長秀男. 2012. 和歌山県西牟婁郡白浜町「対ノ浦」に生息する貝類Ⅱ. かきつばた, 37: 2-27.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 Ⅲ. 南紀生物, 54 (1): 61-66.
- 6 杉村智幸. 2021. 山口県の貝類 角島周辺の海産貝類相. 110pp. 豊北町自然観察指導員会, 豊北. 写真: 三長秀男提供

ヌノメホソクチキレ <i>Iphiana tenuisculpta</i> (Lischke, 1872) 汎有肺目 トウガタガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

貝殻は堅固、非常に高い塔型で殻頂は尖り、褐色、殻表は微細な布目状であるが一見、平滑に見える。殻高 13 mm。房総半島から九州、内湾干潟域の潮下帯に生息。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川 (和歌浦湾)、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県内では紀伊水道北部から確認され、生貝は和歌川河口からに記録された。全国的には三重県では死殻の採集例も非常に少なく、近年、生貝の確認例は 1 地点のみで、また岡山県では僅かな個体群が残存するのみである。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化庁, 岡山.
- 2 堀 成夫. 2002. 和歌川河口干潟のトウガタガイ類. うみうし通信, 36: 10-11.
- 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~ 三重県の絶滅のおそれのある野生生物 ~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して (2). かたをなみ, 3: 5-11.
- 5 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42: 16-23.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 Ⅳ. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 8 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 Ⅱ. 南紀生物, 51 (2): 83-88. 写真: 三長秀男提供

ドロアワモチ *Onchidium* sp. 汎有肺目 イソアワモチ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

選定理由

内湾奥部の平坦な砂泥質干潟やマングローブに生息。体長 30 mm。英虞湾・対馬以南、南西諸島に分布。和歌山県内では田辺湾内之浦、立ヶ谷、白浜町に分布。和歌山県では田辺市内之浦の干潟域での確認例が唯一で、同地でも 1981 年以降、確認には至っていない。  
執筆者 (江川和文)



参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. ドロアワモチ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 90. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種、1976-2001. 南紀生物, 43 (2): 102-108.
- 3 和田恵次. 2000. 干潟の自然史—砂と泥に生きる動物たち. 185pp. 京都大学学術出版会, 京都. 写真: 和田恵次提供

コメツブツララ *Acteocina decoratoides* (Habe, 1955) 真後鰓目 クダタマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

貝類

選定理由

内湾奥の軟泥・砂泥干潟中から下部表層に生息。貝殻は薄質で白色、黄色の殻皮を持ち、螺塔は平ら、殻表の上下に螺溝を持つ。殻高 3 mm。田辺湾、瀬戸内海 (愛媛県西条市)、久々子湖、有明海、種子島、東シナ海に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川河口に分布。和歌山県では和歌川河口で生貝を確認、他に県内での確認例はない。また、近隣地域でも本種は確認には至っていない。  
執筆者 (江川和文)



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 16pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 福田 宏. 2012. コメツブツララ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 81. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42: 16-23.
- 4 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 II. 南紀生物, 51 (2): 83-88.
- 5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1): 91-94.
- 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2): 191-196. 写真: 三長秀男提供

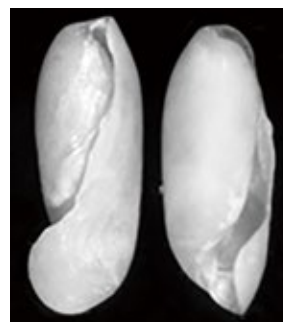
シグマクダタマ *Eocylichna sigmolabris* Habe & Ando, 1985 真後鰓目 クダタマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

アマモ類の繁茂する前浜干潟の潮間帯砂底に生息。貝殻は微小、薄質で白色、円筒状で殻頂および殻底は少し細くなり、殻口はS字状に著しく湾協する。殻高5 mm。瀬戸内海域に分布。和歌山県内では和歌山市加太（単一産地）に分布。

選定理由

和歌山県内では加太から死殻約20例を確認。国内での産出例は非常に稀。瀬戸内海以外では、唯一、愛知県から死殻1個体が確認されたのみである。ただ、模式標本は明石海岸に搬入された広島県三原市の海砂混入の個体であった。近年、大阪府阪南市から生貝1個体が確認され、これが唯一の確認例である。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・柏尾 翔. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化局, 岡山.
  - 2 波部忠重・安藤保二. 1987. 日本産有殻後鰓類セキヒツクダマキガイ属の一新種. *Venus*, 46 (4) : 179-181.
  - 3 河合秀高. 2018. 南知多町内海海岸において打ち上げ採集で得られた貝類. *かきつばた*, 43 : 30-34.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. *南紀生物*, 55 (1) : 73-78.
- 写真：江川和文撮影

カミスジカイコガイダマシ *Cylichnatys angustus* (Gould, 1859) 真後鰓目 クダタマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾奥部干潟の中・低潮下帯の砂泥底、軟泥底の表層、アマモ場周辺に生息。貝殻は微小、薄質、円筒形、白色半透明で、殻表全体に細い波状の螺溝をめぐらす。殻長8 mm。北海道南部以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960年代、造成工事のため消失）、和歌川、名草ノ浜に分布。

選定理由

和歌山県では和歌山市周辺の汽水域で確認され、死殻は名草ノ浜で普通に見られたが、現在、生個体の確認例は和歌浦干潟での泥中、田辺湾奥部から確認されている。なお、近隣地域で三重県では生浦湾、英虞湾で生貝が確認され、比較的、個体数も多いとされ、一方、愛知県では三河湾や伊勢湾の湾口部より生貝が確認されている。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・久保弘文・木村昭一. 2012. カミスジカイコガイダマシ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ペンツ学会編). p. 81. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して (2). *かたをなみ*, 3 : 5-11.
  - 3 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 (Ⅱ). *かきつばた*, (49) : 2-16.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. *南紀生物*, 49 (1) : 73-78.
  - 5 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 Ⅱ. *南紀生物*, 51 (2) : 83-88.
  - 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. *南紀生物*, 47 (2) : 191-196.
- 写真：三長秀男提供



マルタニシ <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> (Martens, 1860) 原始紐舌目 タニシ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息地は各地に点在するが、串本町“田原湿地”等、消滅している産地が多い。和歌山市の生息地でも絶滅している箇所がある。これは、冬季に田を放置している産地がなくなったからである。

貝殻は殻高 40 mm 前後、各螺層は膨らみが強くて、縫合も深い。北海道から沖縄にかけて分布し、水田、水路、湿地等、極端に乾燥しない場所に生息する。和歌山県内では和歌山市永山・大池遊園、紀の川市打田町・海神池、岩出市相谷、有田川町下津野、田辺市中辺路町近露等に分布。

山間部等では、食料にされたことがあったが、近年は急速に生息環境の悪化が進み、各地で絶滅に瀕している。

執筆者 (池辺進一)



参考文献  
・情報

- 1 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑②. 汽水域を含む全国に淡水貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.  
写真: 池辺進一撮影

ベニゴマガイ <i>Diplommatina pudica</i> Pilsbry, 1902 原始紐舌目 ゴマガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

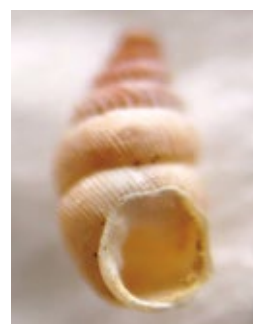
タイプ産地は那智。本種は広く紀伊山地に分布するものの、いずれの地域においても生息密度が低く、個体数も著しく少ない。

貝殻は微小 (殻長 3 mm)、殻色は赤褐色 (紅色) を呈する。螺層には細かい成長脈が走るが、次体層から上部の 2~3 層ではその間隔は広い。貝殻の内部には本科の特徴となる腔壁を欠く。

選定理由 和歌山県を中心とする紀伊山地には広く生息するが、県内には分布域は広くはない。

貝殻の内部に腔壁を欠くので、分類学的にはベニゴマガイ亜属 *Benigoma* を形成するが、本亜属は紀伊半島~伊豆半島、奄美諸島~沖縄諸島に飛び地的に分布し、種分化の過程からも興味深い。

執筆者 (湊 宏)



参考文献  
・情報

- 1 東 正雄. 1960. 北山峡陸産貝類について. *Venus*, 21 (1) : 4-10.
- 2 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. *南紀生物*, 24 (2) : 91-95.
- 3 中野 環. 2011. 三重県におけるベニゴマガイの分布. *ちりばたん*, 41 (3-4) : 98-102.  
写真: 湊 宏標本

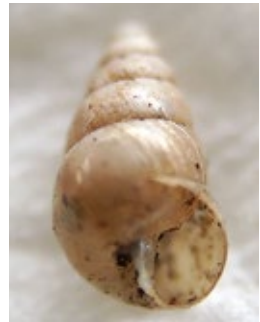
ノミガイ	<i>Tornatellides boeningi</i> (Schmacker & Boettger, 1891)	汎有肺目	ノミガイ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由**

ノミガイ属は太平洋の島々に広く分布する熱帯系の微小な陸貝。本県では離島（九龍島、双島、神島、鹿島）の4箇所、最近になって由良町白崎石灰岩地から死殻が確認された（湊，2010）。

貝殻は微小（殻長 3 mm）、円錐形状。淡褐色で体層は大きい。殻口の外唇は単純で鋭い。内唇の内部に螺状板がある。

熱帯性の陸貝であるが、和歌山県の分布は本種の北限分布としても重要である。海岸地帯のみで生息する。



執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報**

- 1 黒田徳米. 1944. 田辺湾神島産陸貝. Venus, 13 (5-8) : 313-316.
- 2 湊 宏. 1972. 南紀産ノミガイの生殖腺と地理的分布. 南紀生物, 14 (2) : 38-41.
- 3 湊 宏. 2007. 九龍島（和歌山県）の陸産貝類, 特に西日本におけるノミガイの分布について. 南紀生物, 49 (1) : 61-66.
- 4 湊 宏. 2010. ノミガイの白崎石灰岩地（和歌山県由良町）からの記録. 南紀生物, 52 (1) : 37-38.  
写真：湊 宏標本

ミツクリギセル	<i>Megalophaedusa mitsukurii</i> (Pilsbry, 1902)	汎有肺目	キセルガイ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由**

田辺市富里をタイプ産地とする大型のキセルガイ科で、本県の固有種。和歌山県の南部に限って生息し、現在までに 20 箇所しか生息地が確認されていない。

キセルガイ科貝類の中では大形（殻長 27~34 mm）。新鮮な個体では紫褐色を呈するが、主として礫等の堆積中に生息するため、老成すると殻皮が剥げ落ちている個体が多い。近似種のオオギセルと混棲している地域もあるが、それよりも小形であること、生殖器の形態が相違することで識別される（湊，1966）。

田辺市以南の紀南の地に点々と生息地が知られる。同所的にオオギセルと混棲することもあるが、この場合ミツクリギセルはオオギセルより個体数が多い。

本種は主としてスギ林下の斜面の礫堆積中の落ち葉や下草に生息している。和名は東大教授の箕作佳吉（1857-1909）を記念としている。



貝類

執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報**

- 1 湊 宏. 1966. ミツクリギセルの解剖知見と地理的分布. 南紀生物, 8 (1) : 23-27.
- 2 湊 宏. 1980. 日本産陸棲貝類の分布資料 2, オオギセル. 南紀生物, 22 (1) : 49-54.
- 3 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 251. 世界文化社, 東京.
- 4 湊 宏. 2009. 陸産貝類研究備忘録 (3), “紀伊富里”のミツクリギセルとその他の4種. かいなかま, 43 (1) : 23-33.
- 5 玉木 存. 1998. 動物学者 箕作佳吉とその時代. 415pp. 三一書房, 東京.  
写真：湊 宏撮影

クロズギセル *Megalophaedusa kurozuensis* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

和歌山県南部の固有種で、分布域が狭く、更にその生息環境が礫間に限定されるために、そのような生息環境は極めて少なく、個体数も多くはない。

貝殻は中形（殻長 17~20 mm）、紡錘形状、その殻頂は鈍くて短大である。殻色は灰白色、生息環境（礫間）のため、殻表が腐食していることが多い。



選定理由

主として古座川流域を中心にして、串本町、古座川町の約 10 箇所で確認された。

本種はタイプ産地である古座川中流域の蔵土（くろず）を記念して学名と和名が付けられている。日本産キセルガイ科貝類の中でも、生息・分布域が狭く、しかも礫間堆積中に生息する特異なキセルガイである。

執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1974. クロズギセルの採集史とその関連文献. ちりばたん, 8 (1) : 20-22.
  - 2 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus Supplement 2, 1-212 + tab 5 + pls. 74pp. 日本貝類学会, 東京.
  - 3 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 249. 世界文化社, 東京.
  - 4 湊 宏. 2014. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 6 貝類. 455pp. ぎょうせい, 東京.
  - 5 湊 宏. 2015. 陸産貝類研究備忘録 (15), ヒラマキビロウドマイマイとクロズギセル. かいなかま, 49 (2) : 1-14.
- 写真: 湊 宏撮影

貝類

シリプトギセル *Megalophaedusa pachyspira* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

和歌山県では熊野川流域、奈良県の南部、三重県の南部（一部）にのみしか生息していない。生息地が礫堆積地という環境で、このような環境は多くはなく、その分布域も限られる。

貝殻小形（殻長 13~15 mm）、棍棒形状。殻頂は多少大きく、鈍いので「シリプト」の和名になっている。殻色は淡黄白色を呈するが、礫間に生息しているので、殻表は剥げ落ちていることが多い。

選定理由

紀伊山地の南部地域に生息地が集中している。タイプ産地は新宮市熊野川町宮井地区。クロズギセルによく似た生息環境であり、紀伊半島の固有種である。



執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 9-95.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p.249. 世界文化社, 東京.
  - 3 湊 宏・池辺進一. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック- (2012年改訂版). 442pp. 和歌山県, 和歌山.
- 写真: 湊 (2004) 典拠

**コシボソギセル** *Megalophaedusa nankaidoensis nankaidoensis* (Kuroda, 1955) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	---	---	------------

学名のように紀伊水道を挟んで、紀伊山地、淡路島、四国（徳島県、香川県）に広く分布する。礫の混じる斜面等に生息するが、個体数は多くはない。

貝殻は小形～中形（殻長 11～14 mm）、螺層は 11.5～12.5 層と多く、細長い棍棒形状、濁った白色を呈する。本種の閉弁は四辺形状で弁状部の凸面に小さな一本の棘状突起が見られる。これが本種の特徴である。



選定理由

和歌山県の全域に生息地があるが、それぞれの生息域では個体数が極めて少ない。

本亜種は和名のごとく、紡錘形状だが、相対的に殻形は細くて長い。本亜種は小豆島に生息する別亜種・ショウドシマガセル *M. nankaidoensis yanoi* とは貝殻が大きいこと、下腔壁が長いこと、閉弁の形状、生殖器の盲管が極端に短いことで識別が容易である（湊, 1978）。

執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1978. コシボソギセルと近縁の小豆島産の 1 新亜種. *Venus*, 37 (1) : 16-21.
- 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 247. 世界文化社, 東京.  
写真: 湊 (2004) 典拠

**コンゴウクイロベッコウ** *Japanochlamys crenata* Kuroda & Azuma, 1982 汎有肺目 シタラガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

和名のごとく、大阪市府の金剛山をタイプ産地されたやや中形の陸貝。本県では護摩壇山系、果無山系からも生息を確認しているが、分布情報の少ない種で、調査に行っても採取できるとは限らない。

選定理由

貝殻は中形（殻長 7 mm）、低い円錐形状。殻表は平滑で光沢が強い。殻色は角褐色。臍孔は小さく、外に広がった軸唇によって半分程度が覆われる。



タイプ産地は大阪府の金剛山のブナ林。6 種類がいるクイロベッコウ属の 1 種として記載されているが、今後において近似種との再検討が必要と思われる。

執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米・東 正雄. 1982. 日本産陸産貝類 3 新種 1 新亜種. *Venus*, 41 (1) : 10-19.  
写真: 黒田・東 (1982) 典拠

**パツラマイマイ** *Discus pauper* (Gould, 1859) 汎有肺目 パツラマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)
--------	-------------	----	------	-------------	---	---------------------

北方系（シベリア～千島列島）の陸産貝類。本州の中部以北に広く分布するが、近畿地方の山岳地帯に点々と分布が知られ、本県標高の高い 2 箇所らの記録がある（湊, 2007）。

選定理由

貝殻は小形（殻長 3.5～4 mm、殻径 6.5～8 mm）、低い円錐形状、殻表に細かい縦肋の成長脈が顕著。体層周縁は多少角張る。殻口縁は薄くて反曲しない。臍孔は広く開き、殻径の 1/3 を占める。



近畿地方にも分布する本種は、環境省では「絶滅のおそれのある地域個体群（近畿地方以西のパツラマイマイ）」として指定されている。紀伊

貝類



山地では大阪府：金剛山、奈良県：荒神岳、釈迦ヶ岳、大台ヶ原山、玉置山、和歌山県：高野山、大塔山から記録がある（湊，2007）。

**選定理由** 和歌山県の生息地を含めて近畿地方以西の個体群は、北方系の本種の南限個体として極めて貴重である。

執筆者（湊 宏）

**参考文献  
・情報**

- 1 湊 宏. 2002. 黒蔵谷を中心とする大塔山系の陸産貝類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 185-188pp. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 2 湊 宏. 2007. 紀伊山地におけるパツラマイマイの分布・生息状況. 南紀生物, 49 (2) : 186-188, 図 1.
- 3 南 敏行. 1986. 熊野の陸貝（かたつむり）. 熊野記念館研究紀要（みくまの）, 2 : 3-13.  
写真：湊（2007）典拠

**イボイボナメクジ *Granulilimax fuscicornis* Minato, 1989 汎有肺目 ホソアシヒダナメクジ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	---	---	------------

ナメクジの仲間としては、珍しい肉食性種。新種記載されて30年も経過しているが、現在まで25都府県から記録されている。しかし、それぞれの生息地では同所からの複数個体の確認が極めて少ない。

極端に採取される個体数が少ない。基本的な軟体部の外部形質は外套膜が黒褐色の縦線によって細長い楕円形状に縁どられていること、外套膜が微細な顆粒（イボイボ）で覆われること、触角が灰黒色であることが特徴。



**選定理由**

和歌山県では白浜町瀬戸 ①（湊，2000：矢野重文採集）、串本町古座・荒船 ①（湊，2009）、串本町大島（かしわ谷） ①（湊，2009）、日高町日ノ御崎（西斜面） ②（湊，2012）、日高町日ノ御崎 ①（湊，2009）、日高町田杭 ②（湊，2009）、由良町戸津市井 ①（平野，2013）等から記録があるが、その生息確認は散発的である。

採取される個体数の少ないナメクジ類であるが、基本的な外部形質を持つグループの他に、この仲間には複数個体の未記載種が存在しており、現在も資料収集をして研究の途上にあり、今後は種類が増加すると思われる。

執筆者（湊 宏）

**参考文献  
・情報**

- 1 平野尚浩. 2013. 大阪府および和歌山県北部から新たに記録されたイボイボナメクジ. ちりばたん, 42 (1-4) : 44-47.
- 2 湊 宏. 1989. 日本産ナメクジ科の新属新種, イボイボナメクジの記載. Venus, 48 (1) : 255-258.
- 3 湊 宏. 2009. 大島（和歌山県）の陸産貝類. 南紀生物, 51 (1) : 24-32.
- 4 湊 宏. 2012. 日ノ御崎（美浜町・日高町）の陸産貝類相. 南紀生物, 54 (2) : 107-113.
- 5 湊 宏. 2015. 陸産貝類研究備忘録 (14), イボイボナメクジ種群（ホソアシヒダナメクジ科）の分布とその文献抄. かいなかま, 49 (1) : 1-12.  
写真：湊 宏撮影

**ヤマキサゴ *Waldemaria japonica* (A. Adams, 1861) 古腹足上目 ヤマキサゴ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

本種は本州以南に広く分布する種類であるが、本県の産出は極めて少ない。紀南の大塔山系が主産地だったが、近年になって和泉山系の岩出市境谷から記録された（田中，2012）。

貝殻は小形（殻長 5.5 mm、殻径 7~8 mm）、螺層はよく膨らむ。殻色は黄褐色（モミジヤマキサゴ型）だが、生息地によっては変異がある。



**選定理由**

紀南の大塔山系の法師山、富里地区（ミノ谷、野山谷、フケン谷）、上富田町生馬篠原等から記録されているが、県内的には稀な種類である。

**選定理由** 和歌山県内には稀少種とされ、大塔山系のほかに和泉山系・和泉葛城山からも記録されたが、分布地の確認作業が必要な種群である。

執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報**

- 1 湊 宏. 2002. 黒蔵谷を中心とする大塔山系の陸産貝類相. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 185-188pp. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, 65, 世界文化社, 東京.
  - 2 田中博美. 2012. 阪南市山中溪附近の陸産貝類相. かいなかま, 51 (1) : 15-23.
- 写真: 湊 (2004) 典拠

<b>サドヤマトガイ</b> <i>Japonia sadoensis</i> Pilsbry & Hirase, 1903 原始紐舌目 ヤマトニシ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	準絶滅危惧 (NT)

本種と同じ仲間のイノウエヤマトガイは少ないながらも、和歌山県内一円から記録されているが、本種は熊野川の中流域から記録されているだけで生息範囲は極めて狭いと思われる。

イノウエヤマトガイは殻表にスプーン状の殻毛を有するが、本種は先の尖った殻毛が体層に2列にわたって配列していることで異なる。

**選定理由**

2011年5月13日、熊野川中流域の瀬八丁で東 (1960) 以来、長年採取されなかった本種を採取することができた。一部に古座川上流部からもそれらしき個体が採取されているというが、殻毛が剥げ落ちて正確には確認されていない。

個体数の少ない種類であるが、紀南地方に生息している可能性が高い。

執筆者（湊 宏）



**参考文献・情報**

- 1 東 正雄. 1960. 北山峡陸産貝類について. Venus, 21 (1) : 4-10.
  - 2 湊 宏. 1985. 日本産ヤマトガイ属の2新種. Venus, 44 (2) : 81-86.
  - 3 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, 65. 世界文化社, 東京.
  - 4 湊 宏. 2012. 陸産貝類研究備忘録 (10), 紀伊半島のイノウエヤマトガイとサドヤマトガイ. かいなかま, 46 (2) : 1-11.
- 写真: 湊 宏撮影

<b>ヤマモトゴマオカチグサ</b> <i>Cavernacmella yamamotonis</i> (Minato, 1973) 原始紐舌目 カワザンショウガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

太平洋岸の海岸線の飛沫帯の転石下に生息するカワザンショウガイ科の微小種。

貝殻は微小（殻長 1.4~1.6 mm）、円錐形状で淡黄白色。海岸性植物群の繁茂する転石下の落ち葉等に付着しているが、微小なために採取は困難である。

**選定理由**

本種が最初に採取された所は、すさみ町江住・江須崎であるが、現在ではすさみ町三崎、和歌山市友ヶ島（沖ノ島）等からも少数確認されている。

本種は最初の採集者・山本虎夫 (1912-1993) に献名された。本種によく似た石灰岩洞窟産のホラアナゴマオカチグサに比較されるが、後種の軟体部の眼点が退化していることで、本種には眼点があることで識別される。これらは姉妹種と考えられ、進化の過程を推測できる腹足類である。

執筆者（湊 宏）



参考文献  
・情報

- 1 増田 修. 2014. ヤマトゴマオカチグサ. レッドデータブック 2014. 6 貝類. 286pp. ぎょうせい, 東京.
- 2 湊 宏. 2018. 陸産貝類研究備忘録 (17), ヤマトゴマオカチグサ (カワザンショウガイ科) の採集と研究過程の前後. かいなかま, 51 (2) : 1-10.  
写真: 和田太一提供

**アナナシマイマイ** *Satsuma cristata* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

那智をタイプ産地とする本種は、紀南地方に広く分布するものの、生息密度が低く、個体数も少ない。紀伊半島南部の固有種。

貝殻は中形（殻径 16 mm 程度）、殻底の臍孔は完全に閉じるので、和名の由来になっている。体層周縁は円くて淡褐色の色帯を巡らしている。

**選定理由** 紀南地方の海岸地域から内陸部まで広く分布するが、その個体数は多くはない。

ニッポンマイマイ属の中では、本県の南部に限って生息する臍孔が閉じる固有種である。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
- 2 湊 宏. 1996. 那智山の陸産貝類. 南紀生物, 37 (2) : 87-93.  
写真: 湊 (1996) 典拠

貝類

**ツヤママイマイ** *Satsuma selasia* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

アナナシマイマイとともに、本県を代表する固有種だが、生息地のスギ林等の伐採等によって生息環境が悪化しており、個体数も減少の傾向にある。

貝殻は中形（殻径 17 mm 前後）で、低い円錐形状である。貝殻に色帯が認められない。アナナシマイマイに比べて臍孔が開き、琥珀色の殻表には光沢（ツヤ）がある。

**選定理由** 分布域はアナナシマイマイに比べて、紀南地方の海岸地域よりも内陸部に生息していることが多い。

タイプ産地は那智。臍孔が明瞭に開くので、アナナシマイマイとは識別される。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
- 2 湊 宏. 1996. 那智山の陸産貝類. 南紀生物, 37 (2) : 87-93.  
写真: 湊 (1996) 典拠

ヒメビロウドマイマイ *Nipponochloritis perpunctatus* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

生息密度が低く、個体数が少ない。本県でも広く生息しているが、これまでも10箇所程度しか確認されていない。

貝殻は小形～中形（殻長 8.0 mm、殻径 13.7 mm）、薄くて脆い。殻表に殻毛が短く密生すること、臍孔がほとんど閉じられていること、生殖器の鞭状器の形態が極めて小さく痕跡的であることが本種の特徴である。

選定理由

和歌山県内には広く生息するが、個体数が少ない。近畿地方から中部地方に分布する。

タイプ産地は奈良県十津川。本属の他種に比べて、殻毛が細くて短く密生すること、臍孔が閉じること、生殖器の鞭状器が小形であることによって相違する。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 2003. 和歌山県に分布するビロウドマイマイ属貝類. 南紀生物, 45 (2) : 110-114.
- 2 湊 宏. 1996. 那智山の陸産貝類. 南紀生物, 37 (2) : 87-97.  
写真: 湊 (1996) 典拠

アサヒキヌタレガイ *Acharax japonica* (Dunker, 1882) キヌタレガイ目 キヌタレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾の潮間帯から水深 20 m 程度の砂泥底に生息。貝殻は非常に薄く、褐色、長い楕円形、殻表は平滑。殻長 20 mm。北海道以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、串本町橋杭、潮岬に分布。

選定理由

和歌山県での確認地点のうち、加太産の個体は合弁の新鮮個体である。近隣地域では三重県で生浦湾、英虞湾のアマモ場で生貝が採集され、愛知県では三河湾湾口部で新鮮な死殻が採集されたに過ぎない。浜名湖や瀬戸内海では現在もアマモ場で生貝が確認されていることから、和歌山県内の産出状況は今後も注視される。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

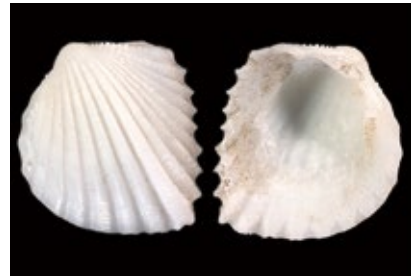
- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 木村昭一. 2012. アサヒキヌタレガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 106. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.  
写真: 池辺進一標本



ヒシガイ *Fragum bannoii* (Otsuka, 1937) キヌタレガイ目 ザルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾の砂質干潟から水深 10 m の潮下帯に生息。貝殻は堅固、四角形、瘤状突起がある 20 肋の放射肋をもつ。殻長 10 mm。房総半島以南、九州、台湾、タイに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、田辺市新庄町滝内、白浜臨海、富田対ノ浦に分布。



和歌山県では近年、滝内、対ノ浦で死殻が確認されるが、個体数は少なく、和歌山県田辺湾では「かつては採集されていたが現在は全く認められない」とされる。全国的に生貝の採集例は少なくなっており、三重県では英虞湾の狭い範囲で生息が確認されるものの、同地が北・東の限界とされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 Kuroda, T. & Habe, T. 1981. A catalogue of Mollusca of Wakayama Prefecture of Kii-I. Bivalvia, Scaphopoda and Cephalopoda. Publications from the Seto Marine Biological Laboratory, Special Publication Series 7 : 1-303.
- 3 木村昭一・山下博由. 2012. ヒシガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 118. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
- 5 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7 : 1-9.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
写真：三長秀男提供

テリザクラ *Moerella iridescens* (Benson, 1842) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾奥部の中・低帯の泥底に生息。貝殻は薄質、細長い卵形、膨らみは弱く、橙色から黄褐色。殻長 20 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、オーストラリア北部に分布。和歌山県内では有田市河口に分布。



和歌山県では有田川河口の死殻 1 例のみを確認し、その後の記録はない。近隣地域では三重県に記述はなく、また愛知県では 1969 年、三河湾で 1 個体が確認されたのみで、以後、確認されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 河辺訓受・山下博由. 2015. 愛知県に生息していたテリザクラかつての汐川干潟の貝類相一. かきつばた, 40 : 31-33.
- 3 山下博由. 2012. テリザクラ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 125. 東海大学出版会, 秦野.  
写真：池辺進一標本

ムラサキガイ *Hiatula adamsii* (Reeve, 1857) マルスダレガイ目 シオサザナミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾干潟や河口域付近の潮間帯下の砂泥底に生息、一部地域では食用とされていた。貝殻はやや薄質、長い楕円形、褐色の薄い殻皮をもち、内面は濃い紫色。成貝では 50 cm 以上の深さに潜る。房総半島以南、九州、台湾、インドネシアに分布。和歌山県内では和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市河口、有田郡広



選定理由 川町西広海岸、那智勝浦町粉白に分布。

和歌山県では、かつて生貝の確認例は極めて少なく、過去 20 年間に 1 例のみとされていた。ただ西広海岸では 1997 年に新鮮な死殻が、更に 2007 年、生個体 1 例が確認され、その後も 2015 年には同海岸で 138 例が、2019 年には 2,000 例以上と徐々に回復の傾向が確認されている。近隣地域でも三重県では 2012 年頃から復活傾向が見られ、愛知県でも 2010 年から同様な回復傾向が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2009. 和歌山県広川町西広海岸から採集したムラサキガイ生個体（軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミガイ科）. 南紀生物, 51 (1) : 53-55.
- 2 江川和文・南方啓司. 2016. 和歌山県西広海岸により大風で打ち寄せられたムラサキガイ（軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミガイ科）. 南紀生物, 58 (1) : 82-86.
- 3 Honda, J., Willan, R. C., Suzukida, K., Mizoguti, K. & Hori, H. 2001. Discovery of healthy populations of the endangered bivalve *Soletellina adamsii* Reeve 1857 : (Tellinoidea : Psammobiidae) on the Suo-nada Sea (western Seto Inland Sea) coast of Yamaguchi Prefecture, western Japan, with taxonomic remarks. The Yuriyagai, 8 (1) : 23-33.
- 4 木村昭一・山下博由. 2012. ムラサキガイ 干潟の絶滅危惧種図鑑（日本ベントス学会編）. p. 134. 東海大学出版会, 秦野.
- 5 池辺進一. 2015. 和歌山県那智勝浦町粉白の貝類. かたをなみ, 10 : 7-9.  
写真：三長秀男提供

貝類

ハナグモリ *Glauconome angulata* Reeve, 1844 マルスダレガイ目 ハナグモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾奥部や河口汽水域に生息。貝殻は薄質、長い楕円形、膨らみは強く、黄緑色の厚い殻皮を持つ。殻長 25 mm。日本（房総半島以南、瀬戸内海、有明海・八代海、沖縄、西表島）、朝鮮半島、中国大陸、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌川河口奥部、有田川



選定理由 河口、有田郡広川町西広海岸に分布。

和歌山県での確認地点のうち、和歌川河口奥部では合弁個体（生貝？）が確認され、他 2 地点では少数個体を確認。確認個体は残肉個体や殻皮が保存された合弁個体である。本種は近年、東京湾や瀬戸内海沿岸では激減している。近隣地域では三重県での記録はなく、また愛知県でも生息が確認できず、死殻さえ採集できない。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 山下博由. 2012. ハナグモリ 干潟の絶滅危惧種図鑑（日本ベントス学会編）. p. 139. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF サイエンスレポート, 3 : 182.  
写真：三長秀男提供

アリソガイ	<i>Coelomastra antiquata</i> (Spengler, 1802)	マルスダレガイ目	バカガイ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

外洋に面した潮下帯から水深 10 m の細砂底に生息。貝殻は亜三角形で紫色、よく膨らみ、やや薄質、新鮮な個体では成長脈状に隆起した殻皮を持つ。殻長 120 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、東南アジアに分布。和歌山県内では和歌山市磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、片男波、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県では名草ノ浜から新鮮な死殻が確認されている。本種は 1990 年以降、全国的に激減した。近隣地域では、底引き網で採取されていた三河湾、伊勢湾からは近年、ほとんど姿を消し、三重県では、伊勢湾中部で稀に新鮮な死殻が確認されるものの生貝が確認されず、また愛知県では、1960 年代、三河湾湾口部から渥美外海で普通に採集されていたが、現在、生息が確認できない。ただ、和歌山市対岸の徳島県吉野川南部の海岸からは近年、多数の生きた個体が確認されており、回復傾向にあると見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. アリソガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 139. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
写真：三長秀男提供

ヒナミルクイ（ヒナミルクイ）	<i>Macrotoma depressa</i> (Spengler, 1802)	マルスダレガイ目	バカガイ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

内湾の低潮帯下の砂泥底に生息。貝殻は薄質、前後に長い楕円形、殻頂は背縁のほぼ中央にあり、殻頂から後原隅へ弱い稜が走る。殻長 45 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、小笠原、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、有田市有田川、白浜町対ノ浦に分布。



選定理由

和歌山県では現状、死殻のみが確認される。近隣地域でも生息情報はほとんどなく、三重県では伊勢湾湾口部から死殻の確認例があるものの情報不足で高い絶滅危惧種ランクにあり、これは岡山県でも同様である。また、愛知県では記録がない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
- 5 山下博由. 2012. ヒナミルクイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 142. 東海大学出版会, 秦野.  
写真：三長秀男提供

ミルクイ	<i>Tresus keenea</i> (Kuroda & Habe, 1950)	マルスダレガイ目	バカガイ科
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012
			-
			国
			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

内湾及び湾口部の低潮帯から水深 40 m までの泥底・砂泥底に生息。本種は高級食材の食用種。貝殻は楕円形、堅固、厚く膨らみ、黒褐色の厚い殻皮をもち、後端は広く開き、動物体の水管は長大で食用にされる。殻長 140 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、日高郡由良に分布。



和歌山県では主に紀北域から記録され加太で生貝を確認している。本種は高級食材としての需要から採捕されてきた種で、近隣地域では三重県では 1980 年代、大量に水揚げされたが現在、資源量は減少している。愛知県では漁業対象種であるが、採捕個体が減少しているとされ、岡山県では文献記録があるものの、現状不明で絶滅の可能性ある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 池辺進一. 2012. 和歌山市・毛見崎の貝類. かたをなみ, 8: 15-19.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 5 山下博由・木村昭一. 2012. ミルクイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 144. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 池辺進一標本

ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (Röding, 1798)	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012
			-
			国
			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

内湾の遠浅海岸の中・低潮帯に生息。貝殻は丸みを帯びた三角形で、殻はやや薄質、殻表は平滑で多様な色彩、模様変異を持つ。殻長 85 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島に分布するが、ほぼ日本固有種と見られる。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦・布引）、名草ノ浜、有田市河口、有田郡広川町西広海岸に分布。



和歌山県では和歌山市の砂泥質海岸と広川町西広海岸から少数個体が確認される。近隣地域では、県カテゴリーが三重県では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) から準絶滅危惧種 (NT) に、愛知県でも絶滅危惧Ⅰ A 類 (CR) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、更に準絶滅危惧種 (NT) に変更されている。

なお、生鮮食品売場に「ハマグリ」として並ぶ個体は、そのほとんどが中国大陸産のシナハマグリ、あるいは千葉県、茨城県産のチョウセンハマグリであり、ともに別種である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (I). 南紀生物, 46: 31-36.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~, 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-, (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.



参考文献  
・情報

- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.  
 5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.  
 6 山下博由. 2012. ハマグリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 150. 東海大学出版会, 秦野.  
 写真: 三長秀男提供

イオウハマグリ <i>Pitar sulfreum</i> Pilsbry, 1904 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

内湾奥の泥質干潟の中・高潮線に生息。貝殻は堅固、膨らみが強く、殻表は平滑で黄色を帯びる。殻長 30 mm。房総半島・男鹿半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌浦湾、田辺湾奥部、白浜町臨海に分布。



**選定理由** 和歌山県では田辺、白浜の2地点のほか、古い死殻が和歌浦で確認され、また個体数も稀であるが、田辺湾奥部ではアマモ場の砂泥底での生息例が記録される。近隣地域では三重県では英虞湾、五ヶ所湾に健全な個体群があるが、伊勢湾以北では絶滅状態とされ、岡山県では過去の記録があるものの以後不明で、絶滅状態と見られるという。

執筆者 (江川和文)

- 参考文献**  
・情報
- 1 木村昭一. 2012. イオウハマグリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 152. 東海大学出版会, 秦野.  
 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.  
 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.  
 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.  
 写真: 田中真人提供

貝類

ヤタノカガミ <i>Dosinia troscheli</i> Lischke, 1873 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

内湾砂泥底の低潮線から潮下線に生息。貝殻はマルヒナガイに近似するが、輪肋がより細かい。殻長 50 mm。遠州灘以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市片男波、名草ノ浜に分布。



**選定理由** 和歌山県では、片男波で合弁個体が養浜工事以前に確認されていたが、現在は名草ノ浜での死殻の記録が唯一で、その後も記録はない。近隣地域でも同様に三重県では過去の記録があるが現状不明であり、また岡山県では死殻のみが確認され、絶滅に近いとされる。

執筆者 (江川和文)

- 参考文献**  
・情報
- 1 福田 宏. 2012. ヤタノカガミ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 148. 東海大学出版会, 秦野.  
 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.  
 写真: 江川和文撮影

セワケガイ <i>Byssobomia adamsi</i> (Yokoyama, 1924) マルスダレガイ目 ウロコガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

内湾の中・低潮帯の泥礫底、ユムシ類の巣穴に見られ、共生関係が考えられる。貝殻はやや厚く扁平、白色。殻長 15 mm。房総半島以南の太平洋岸、奄美大島、沖縄、先島諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、田辺市新庄町滝内、白浜町富田対ノ浦、串本町田並に分布。

選定理由

和歌山では 5 地点から確認しており、田辺湾奥部では半ば埋もれた転石下に生息が見られる。近隣地域（岡山県、大阪府、三重県、愛知県）でも記述はなく、現在の主分布域は南西諸島と見られ、この地域でも環境悪化により生息地、個体数が減少している。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 久保弘文. 2012. セワケガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 156. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1): 73-78.
- 写真: 三長秀男提供

フジタニコハクノツユ <i>Tellimya fujitaniana</i> (Yokoyama, 1924) マルスダレガイ目 ウロコガイ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

内湾奥部の砂泥質干潟の低潮帯表層から潮下帯に生息。殻長 7 mm。貝殻は長楕円形、薄質、白色の半透明、殻表は平滑で光沢を帯びる。陸奥湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜に分布。

選定理由

和歌山県では 2 地点でのみ確認。かつて名草ノ浜で新鮮な合弁個体 10 数例を採集しているが、近年の確認例は、いずれも死殻（半片）で単一個体であり、加太産の個体は 1977 年の採集である。本種の確認例は全国的に極めて少なく、近隣地域（岡山県、大阪府、三重県、愛知県）でも記述はない。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 福田 宏. 2012. フジタニコハクノツユ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 157. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 江川和文撮影

チゴマテ *Solen kikuchii* Cosel, 2002 マルスダレガイ目 マテガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾の低潮帯からに生息。水深 90 m までの泥底・砂泥底に生息。貝殻は小型で薄質、殻長 23 mm。瀬戸内海、有明海、八代海北部、中国大陸（渤海から南シナ海）に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜（単一産地）に分布。

**選定理由** 和歌山県では名草ノ浜から合弁個体 3 例、半片数個体を確認。周辺地域では兵庫、広島、愛媛各県で確認されているが、個体数は限定的である。ただし、アサリ等に混在した移入種の可能性も否定できない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 倉持卓司・厚井昌子・永沼 毅. 2013. 瀬戸内海備讃瀬戸から採集されたチゴマテ（軟体動物門、二枚貝綱、マテガイ科）. 南紀生物, 55 (2) : 128-129.
  - 土岐頼三郎・野田圭典. 2004. 和歌山県から記録されたチゴマテ（軟体動物門、二枚貝綱、マテガイ科）. 南紀生物, 46 (2) : 123-125.
  - 山下博由. 2012. チゴマテ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 170. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真：三長秀男提供

ウミタケ *Barmea japonica* (Yokoyama, 1920) マルスダレガイ目 ニオガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾の干潟、中潮帯から水深 20 m までの泥・砂泥底に生息。食用種。貝殻は薄質、白色、殻の膨らみは強く、殻表は前方に粗い成長脈が、後方にはやや強い刺が並ぶ。殻長 120 mm。日本（北海道南部から九州）、ロシア日本海沿岸、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市初島町に分布。

**選定理由** 和歌山県では名草ノ浜で新鮮な死殻が確認されているが、個体数は少なく、殻長 50 mm 程度の幼貝である。また近年、初島町から殻長 68 mm の個体が確認された。近隣地域では、大阪市湾岩屋沖の水深 20~30 m で生貝が記録されたが、現在では情報不足（DD）に区分される。また三重県では、かつて伊勢湾 2 地点の潮下帯からの記録があったが、現在、新しい死殻が確認されるものの生貝は未確認である。なお愛知県では近年、汐川干潟で生貝 2 例が確認されている。かつて本種は有明海の有名な食用貝で福岡県大牟田の魚店に並べられていたが、近年は目にしない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. かたをなみ, 6 : 4-9.
  - 岡村親一郎・児島 格. 1986. 大阪市湾の貝類 Ⅲ. 巻貝類の生息記録（その 2）. 南紀生物, 28 (1) : 59-65.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 山下博由・木村昭一. 2012. ウミタケ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 166. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真：江川和文撮影

ヒメマスオガイ *Cryptomya busoensis* Yokoyama, 1922 オオノガイ目 オオノガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

内湾の干潟から水深 50 m の泥底に生息。貝殻は薄質、卵形、白色、膨らみはやや強く後端は開く。殻長 20 mm。北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、串本町潮岬に分布。



**選定理由** 和歌山での近年の確認例は名草ノ浜での 1984 年の採集個体（死殻、新鮮な合弁個体）で、産地や個体数は非常に稀。近隣地域でも三重県では既知生息地が 5 地点以下で伊勢湾内の水深 10 m 以深に生息が確認されるものの、生息場所、生息数減少し生貝の確認例は僅かである。また、愛知県では 1990 年から 2005 年頃まで生息が確認できなかったが、近年、伊勢湾、三河湾で生貝確認。ただ、生息地、個体数とも非常に少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 木村昭一. 2012. ウミタケ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 166. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1), 134-139.  
写真: 三長秀男提供

オフクマスオガイ *Distugonia decuevata* (A. Adams, 1851) オオノガイ目 オオノガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

河口域や上部浅海帯の水深 10 m 付近の泥底に生息。貝殻は薄質、よく膨らみ、殻頂から後腹隅に稜をもつ。殻長 25 mm。紀伊半島以南、南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、串本町橋杭に分布。



**選定理由** 和歌山県では近年では橋杭からの記録が唯一の確認地で、1975 年の採集例である。本来の生息地が奄美大島以南であり、和歌山県での記録は本州最南端の地であり偶因分布の一例と見られる。近隣地域での確認例はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 久保弘文. 2012. オフクマスオガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 167. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 池辺進一標本



ツボミ *Patelloida conulus* (Dunker, 1861) カサガイ目 ユキノカサ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

内湾の砂泥干潟や河口汽水域に生息する。ウミナ類の殻に着生する生態を持つ。貝殻は小形、笠形、殻頂が顕著に隆起した高円錐形となる。陸奥湾北部・山口県北長門海岸以南、九州、沖縄、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、白浜町番所崎に分布。



本種の特異な形状は、かつて着生部位の狭小さから殻頂が隆起したヒメコザラの生態型とされてきた。最近、本種は遺伝子解析から独立した別種とされた。なお、近隣地域の愛知県では産地や個体数が多く確認できることから、準絶滅危惧種から除外されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. ツボミ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 16. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172
  - 3 波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準原色図鑑全集 3 貝類. xviii, 223pp., 64 pls. 保育社, 大阪.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
  - 5 Nakano, T. & Ozawa, T. 2005. Systematic revision of *Patelloida pygmaea* (Dunker, 1860) (Gastropoda, Lottidae), with a description a new species. Journal of Molluscan Studies, 71 : 357-370.
  - 6 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1) : 59-63.
- 写真：江川和文撮影（ウミナノの殻上に着生）

貝類

スカシエビス *Sukashitrochus carinatus* (A. Adams, 1862) 古腹足目 クチキレエビス科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾湾口部等の海岸礫地の高潮帯から潮下帯で転石下に生息。貝殻は微小、半透明、体層に3本の太い螺肋を持ち、肩部に切れ込みがあり、臍孔は狭く開く。殻高1.8 mm。北海道南部以南、熱帯西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田郡広川町西広海岸、御坊市名田、田辺市、白浜町、串本町、那智勝浦町宇久井に分布。



和歌山県では各地から死殻が少数例、確認できるが、生貝は未確認。ただ、加太では海岸礫地の転石下といった環境は残されており、今後、新たな生貝の確認が可能と考えられる。近隣地域で三重県では確認個体が稀で情報不足とされ、愛知県では記述がなく、また岡山県では現状不明で絶滅それに近い状態である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. スカシエビス 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 16. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 小山安生. 2008. 和歌山県の古腹足目貝類目録 (1) クチキレエビスガイ科・オキナエビスガイ科・ミミガイ科・スカシガイ科. 南紀生物, 50 (2) : 253-260.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.
- 写真：三長秀男提供

**イボキサゴ** *Umbonium moniliferum* (Lamarck, 1822) 古腹足目 ニシキウズ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

河口域や内湾干潟の砂泥底に生息。貝殻は堅固、そろばん玉状、淡褐色から淡緑色、白色まで色彩変異が多く、殻表背面には螺肋をめぐらし縫合付近に疣状突起を持ち、腹面中央には重厚な臍盤をもつ。殻長 15 mm。東北地方から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、和歌川（和歌浦）、片男波、名草ノ浜、海南市琴ノ浦、有田市、有田郡広川町西広、白浜町番所崎に分布。



**選定理由** 和歌山県では一時、片男波や名草ノ浜では波打際の砂中に重なるほどに生貝が確認できた。本種には消長があり、和歌川河口奥部（和歌浦湾）では 2004 年、幼貝が少数例、確認されたが、2016 年、成貝が普通に確認できた。また、磯ノ浦では 1970 年代、浜辺に带状となる死殻の打ち上げがあり、西広では 2005 年頃まで多数の死殻が見られたが、ともに近年では死殻さえ稀である。大阪湾南岸の男里海岸では古い死殻のみが確認される。三重県では生息地、個体数が減少し、良好な干潟でも生息が確認できない。また、愛知県の汐川干潟では生貝が 1990 年代半ばから 2010 年前後まで確認されず、2015 年頃に生貝が再確認されるようになった。原因が不明なまま、生息状況に消長が確認できる例である。

執筆者（江川和文）

**参考文献  
・情報**

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
- 2 木村昭一・山下博由. 2012. イボキサゴ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 17. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.
- 7 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1) : 59-63.

写真：三長秀男提供

**キサゴ** *Umbonium costatum* (Valenciennes, 1838) 古腹足目 ニシキウズ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

潮間帯から水深 10 m の砂底に生息。貝殻はイボキサゴに酷似し、背面の螺肋は黒色と黄色の交互の模様となり、腹面中央に肉色の臍盤をもち、臍盤はイボキサゴより小さい。殻長 15 mm、個体によっては 30 mm の老成個体もある。北海道南部以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、和歌浦湾（片男波）、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、白浜町番所崎、畠島に分布。



**選定理由**

和歌山県ではイボキサゴが多産した地域でも本種の確認例は少ない。環境省カテゴリーではイボキサゴが準絶滅危惧種であるのに対し、本種は対象外であり、和歌山県内の産出状況からは疑問を感じる。イボキサゴ同様、海水中の懸濁物を水管で濾して摂食する習性をもつが、生息範囲がイボキサゴより限られている可能性もある。なお、岡山県では本種は絶滅危惧 I 類に区分されている。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山.
  - 2 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田 圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
- 写真：三長秀男提供

**タイワンキサゴ** *Umbonium suturale* (Lamarck, 1822) 古腹足目 ニシキウズ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

細砂底の潮間帯下から水深 10 m に生息。貝殻はキサゴ状、堅固、背面は平滑、稀に縫合下に小さな疣状突起をもち、灰色と白色のジグザグ模様を密に繰り返し、腹面の臍盤は赤みを帯びる。殻径 20 mm。和歌山県以南から南西諸島、台湾に分布。和歌山県内では有田郡広川町西広、白浜町江津良、番所崎、白良浜、串本町上浦、那智勝浦町湯川に分布。



和歌山県では西広を北限に 2005 年に多数個体を確認。

本種の模様変異は少ないが、西広産個体には従来、確認されない変異例があり、イボキサゴとの交雑が生じた可能性もある。本種は奄美、台湾等が主生息域であり、かつて和歌山県では産出さえ否定されていた。現在、和歌山県内では上浦で打ち上げ個体が確認されるが、個体数は少なく、また現在、西広では稀である。

執筆者 (江川和文)

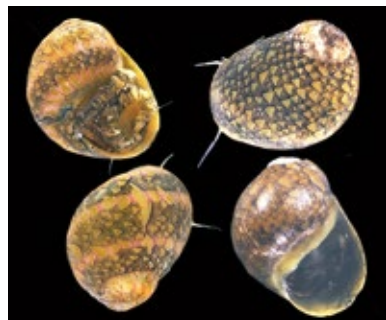
参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2012. 和歌山県北部産タイワンキサゴに見られた色彩変異. かきつばた, 37: 12-16.
  - 2 久保弘文. 2012. タイワンキサゴ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 18. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 宗方 浩. 1958. タイワンキサゴ採集余談—台湾基隆産と串本産キサゴの比較図—, ゆめ蛤 (謄写), 94: 25.
- 写真：三長秀男提供

**ヒメカノコ** *Clithon oualaniensis* (Lesson, 1831) アマオブネガイ目 アマオブネガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾、河口域の汽水環境の砂泥上に生息。貝殻は小型で堅固、ほぼ球形の卵形、殻表は平滑、模様変異は多様で三角形が組み合わさった模様が多い。殻径 10 mm。房総半島以南、東南アジア、インド洋、オーストラリア北部に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事により消失)、和歌川 (和歌浦)、名草ノ浜、有田郡広川町西広海岸、御坊市日高川、田辺湾奥部に分布。



本邦本土での本種の産出状況は稀少とされ、実際、和歌山県でも 2000 年に初めて 2 例の死殻が確認できたのみであった。その後、和歌浦、紀の川河口では多数個体の生貝が確認され、コゲツノブエの殻上には本種のものと思われる卵囊が産卵されていた。近隣地域では、三重県で死殻は確認できるが、生息は見られない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 1996. 6 軟体動物 腹足綱 WWF Japan Science report 3. (和田恵次編): 11-52.
- 2 木村昭一・福田 宏. 2012. ヒメカノコ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). p. 18. 東海大学出版会, 秦野.



参考文献  
・情報

- 小菅丈治. 2012. ベトナム南部ビントアン省フックテーの転石海岸におけるヒメカノコ個体群の季節的消長 (軟体動物門: 腹足綱: アマオブネ科). 南紀生物, 54 (2): 120-124.
  - 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生物, 50 (1): 91-95.
  - 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 II. かきつばた, 40: 2-16.
  - 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山で採集したアマオブネガイ科、フネアマガイ科の貝類. かたをなみ, 3: 12-23.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
  - 野田圭典. 2006. 和歌山市におけるヒメカノコの生息記録 (軟体動物門、腹足綱、アマオブネガイ科). 南紀生物, 48 (2): 165-167.
  - 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1): 91-94.
- 写真: 三長秀男提供

レモンカノコ <i>Clithon souverbiana</i> (Montrouzier, 1866) アマオブネガイ目 アマオブネガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

奄美大島、沖縄、先島諸島、南太平洋に分布する種で、全体の形状はヒメカノコに近似するが、螺塔は高まり、蓋がレモン色を呈する。殻高9 mm。湧水や伏流水が染み出す渚付近の礫砂底に生息。和歌山県内では串本町に分布。

和歌山県からの記録は唯一、本州最南端の串本町からの産出例が記録される。本種は奄美大島等が主生息域と見られ、偶因分布の可能性が強い。ただ、本種の主生息域は生息条件の悪化から、激減の傾向が示されている。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生物, 50 (1): 91-95.
  - 久保弘文. 2012. レモンカノコ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 18. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 池辺進一標本

ヒロクチカノコ <i>Neripteron</i> sp. A アマオブネガイ目 アマオブネガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾や河口汽水域のヨシ原湿地周辺に生息。貝殻は堅固、黄褐色から黒色、半球形で殻口は内外唇とも外縁が連続して外方に広がる。殻径20 mm。東京湾・山口県北長門以南、九州、中国大陸に分布。なお従来、本種に *Neripteron cornucopia* Benson, 1791 の学名が当てられてきたが、この種はフィリピン方面から沖縄に分布する種で、本土産の個体とは遺伝的に異なる。和歌山県内では和歌山市紀の川、名草ノ浜、和歌浦湾、すさみ町日置川に分布。

和歌山県では名草ノ浜で死殻を約50個体、確認。近年、生貝の採集例は和歌浦干潟、日置川河口で各1個体が記録されるに過ぎない。近隣地域では大阪で絶滅、三重県では伊勢湾沿岸に10地点に生息地が確認された。また、愛知県では庄内川、矢作川河口域で健全な個体群が残るものの、生息地域は著しく減少した。



執筆者 (江川和文)



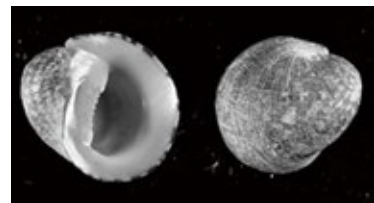
参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. ヒロクチカノコ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 20. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で確認された希少貝類. 南紀生物, 45 (1): 7-12.
  - 3 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生物, 50 (1): 91-95.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類. かたをなみ, 3: 12-23.
  - 5 三浦知之. 2008. 干潟の生きもの図鑑. 198pp. 南方新社, 鹿児島.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
- 写真: 三長秀男提供

ニセヒロクチカノコ *Neripteron siquijorensis* (Recluz. 1843) アマオブネガイ目 アマオブネガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

干潟のアマモ場の葉上、マングローブ周辺の泥礫干潟に生息。貝殻はヒロクチカノコに近似して小型で、殻口内に刻み状の溝を持つ。殻径 10 mm。奄美、沖縄からインド、太平洋等の熱帯域を主分布域とし、和歌山県での記録は偶因分布と見られる。和歌山県内では和歌山市和歌浦湾；有田市河口に分布。



選定理由

和歌山県からは和歌川河口域（和歌浦湾）から生貝 1 個体を採集し動物体、歯舌を記録した。他に有田川から幼個体の死殻を確認しており、現在、和歌山県内の確認例はこの 2 例のみである。既知の分布域は奄美、沖縄、先島諸島、台湾、インド、太平洋であり、本種もレモンカノコ同様、偶因分布の可能性もある。なお、沖縄中南部では生息域が消失し、減少の傾向がある種とされる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・野田圭典. 2010. 和歌川河口奥部におけるニセヒロクチカノコの産出記録 (軟体動物門、腹足綱、アマオブネ科). 南紀生物, 52 (1): 72-74.
  - 2 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1): 59-63.
  - 3 久保弘文. 2012. ニセヒロクチカノコ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 22. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 江川和文撮影

キンランカノコ *Smaragodia paulucciana* Gassies, 1870 アマオブネガイ目 アマオブネガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の干潟で潮下帯のアマモ場の葉上に生息。貝殻は微小、堅固、ウミヒメカノコに近似するが、細長でレモン色の細い色帯をめぐらす。殻径 5 mm。三浦半島以南から南西諸島、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、有田郡西広海岸、田辺湾奥部、元島、串本町上浦、橋杭に分布。



選定理由

和歌山県では、各地から新鮮な死殻が確認される。田辺湾奥部や橋杭ではアマモ場が形成され、この葉上に生息すると見られる。本土での確認例は稀少であり、三浦半島では生貝 1 個体の採集例が、三重県では死殻の記録がある。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 木村昭一. 2012. キンランカノコ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 24. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

参考文献  
・情報

- 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生物, 50 (1): 91-95.
  - 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類. かたをなみ, 3: 12-23.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

ミヤコドリ <i>Phenacolepas pulchella</i> (Lischke, 1871) アマオブネガイ目 ユキスズメ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾や河口域で還元環境の低酸素状態の深く埋没した転石下に着生。貝殻は薄質、傘形で、貝殻の後方が隆起し、殻頂から微細な顆粒をもつ放射状が伸びる。殻長 10 mm、殻高 5 mm。関東地方から沖縄、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市琴の浦湾、有田市、有田郡江上川、田辺湾、鳥ノ巣、白浜町袋、串本町上浦、那智勝浦町ゆかし潟に分布。



選定理由

和歌山県ではほぼ全域から生息が確認され、生息地では転石下に複数個体が集合することが多い。ただ、本種の生息例は全国的に少ない。三重県では 10 地点が確認されているが、愛知県では 2 地点のみが、更に相模湾では絶滅し、岡山県では過去、数個体が確認されているのみである。内湾、河口域は人為的に改変されやすく、常に絶滅の危惧がある。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

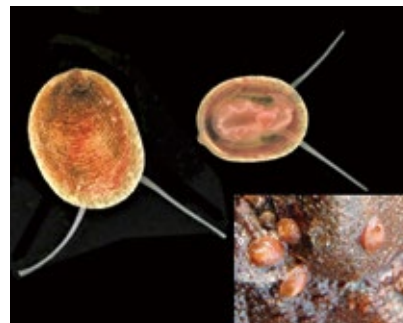
- 福田 宏・木村昭一. 2012. ミヤコドリ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 26. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46: 167-172.
  - 環境省自然環境局生物多様性センター. 2009. 平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
  - 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). 南紀生物, 46 (1): 31-36.
  - 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31: 1-7.
  - 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1): 59-63.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
  - 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2011. 田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類. くろしお, (30): 50-54.
  - 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2): 191-196.
  - 渡部哲也. 2001. 和歌山県白浜町から得られたミヤコドリ (ユキスズメ科貝類). 南紀生物, 43 (1): 61-62.
- 写真: 三長秀男提供

ヒナユキスズメ *Phenacolepas* sp. アマオブネガイ目 ユキスズメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

内湾干潟や河口等、汽水域の還元環境の深く埋もれた転石下に生息する。山口県産個体をもとに和名のみが提唱された未記載種。貝殻はミヤコドリに近似するが、やや小型で放射肋は顕著ではなく、同心円状の成長脈が明瞭となる。殻長 5 mm。三浦半島以南、瀬戸内海から九州に分布。和歌山県内では和歌山市和歌川（和歌浦干潟）、海南市琴ノ浦、冷水、有田郡江上川、田辺市田辺湾、田辺湾奥部、串本町上浦、那智勝浦町ゆかし潟に分布。



和歌山県では生貝は有田郡江上川河口を最初に、新庄町滝内等、ほぼ全域から確認されている。全国的には個体数、産地例が少ないが、三重県では 10 地点が確認されている。愛知県では 3 地点が、岡山県では 1 地点のみが記録される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- Hosaka, K. & Fukuda, H. 1996. Discovery of a population of an endangered brackish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda Neotaenioglossa Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguchi Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. *The Yumehamaguri*, 4 : 65-95.
- 木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で確認された希少貝類. *南紀生物*, 45 (1) : 7-12.
- 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). *南紀生物*, 46 (1) : 31-36.
- 木村昭一. 2012. ヒナユキスズメ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 27. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 大古場 正・三長秀男. 2002. ヒナユキスズメの新産地. *かいなかま*, 36 (1) : 13-14.
- 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. *かきつばた*, 32 : 1-14.
- 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. *かきつばた*, 31 : 1-7.
- 三長孝輔・三長秀男. 2012. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類 II. *かきつばた*, 37 : 22-27.
- 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. *南紀生物*, 51 (1) : 59-63.

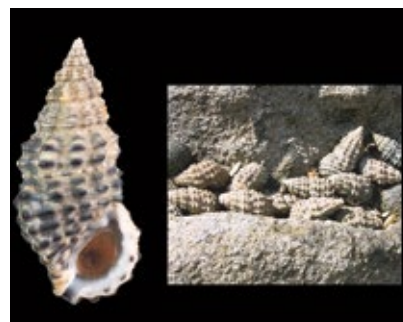
写真：三長秀男提供

カヤノミカニモリ *Clypeomorus bifasciata* (Sowerby, 1885) 新生腹足目 オニノツノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

岩礁の高・中潮帯に見られ、岩盤や砂礫底に生息。貝殻は太い紡錘形、堅固、殻表には黒い疣状の突起が並ぶ。殻高 20 mm。房総半島・山口県北長門以南、南西諸島、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、御坊市上祓井戸、南塩屋、田辺湾天神崎、白浜町袋川、富田対ノ浦、串本町潮岬、那智勝浦町ゆかし潟に分布。



和歌山県ではかつて、紀南では普通種であった。現在でも対ノ浦では潮間帯上部の岩礁や間隙の窪みに多産する。他に上祓井戸でも記録される。一方で同様な海岸でも確認できない地もあり、局地的に生息のない地域が生じている可能性もある。近隣地域では三重県では従来県南部の 3 地点に生息記録があり、近年では生貝

の記録がなく、また岡山県では古い記録があるものの以後、確認できず、絶滅したと考え  
選定理由 られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. カヤノミカニモリ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 28. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 福田 宏・柏尾 翔. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化局, 岡山.
- 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2011. 田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類. くろしお, (30) : 50-54.
- 6 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
- 7 三長孝輔・三長秀男. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類. かきつばた, 36 : 15-23.
- 8 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 II. かきつばた, 40 : 2-16.
- 9 大垣俊一・田名瀬英朋. 1984. 島島磯観察記録、1949-1983 その 1. 南紀生物, 26 (1) : 56-61.  
写真：三長秀男提供

コゲツノブエ *Cerithium corallium* Kiener, 1841 新生腹足目 オニノツノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

内湾干潟や河口汽水域に生息。貝殻は堅固、塔型で黒褐色、螺層は3本の螺肋をめぐらし、縦肋と交差し疣状突起となる。殻高 25 mm。房総半島から南西諸島、インド、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960年代、造成工事で消失)、和歌川 (和歌浦)、片男波、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、御坊市日高川、田辺湾に分布。

本種は本土ではほぼ絶滅とされ、このため稀少種とされるが、和歌山県では田辺市文里湾での多産が記録されている。近年でも有田川、江上川等、確認地点では多産が確認される。鹿児島県揖宿郡の愛宕川では河口護岸に夥しい個体が確認され、黒潮の接近、海水温等、環境の影響も考慮される。



貝類

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
- 2 福田 宏. 1996. WWF サイエンスレポート 3. 6. 軟体動物 腹足綱. 11-52 pls. 1-11.
- 3 福田 宏・木村昭一. 2012. コゲツノブエ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 27. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 黒田徳米. 1945. 和歌山県貝類目録 (未定稿). 西宮市貝類館所蔵.
- 5 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1) : 59-63.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物. 48 (1) : 21-26.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. (春の自然観察会) 日高川河口周辺で観察した貝類. くろしお, (24) : 44-46.
- 8 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.
- 9 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.  
写真：三長秀男提供



ウミニナ *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869) 新生腹足目 ウミニナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾、河口域の汽水域で砂泥表層に生息。多数の個体群を形成する。貝殻は堅固、塔型、黒褐色、ごく稀に白色、殻口内唇に滑層瘤をもつ。殻高 35 mm。北海道南部から九州までに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川（和歌浦干潟）、海南市琴の浦湾、有田市、有田郡広川町江上川、西広海岸、御坊市日高川、田辺湾、那智勝浦町湯川ゆかし瀨に分布。

選定理由

和歌山県では和歌浦の干潟域に多数の個体群が確認される。同科のホソウミニナに次ぐ多数の個体群を形成する。しかし、生息地は人為的な影響を受けやすく、従来、普通に見られた有田川河口域では、近年、生息例はない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 Adachi, N. & Wada, K. 1998. Distribution of two intertidal gastropods, *Batillaria multiformis* and *B. cumingi* (Batillaridae) at a co-occurring area. *Venus*, 57 : 115-120.
  - 2 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 3 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (I). 南紀生物, 46 (1) : 31-36.
  - 4 木村昭一・福田 宏. 2012. ウミニナ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 31. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. (春の自然観察会) 日高川河口周辺で観察した貝類. くらしお, (24) : 44-46.
  - 7 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1) : 59-63.
  - 8 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1) : 91-94.
- 写真：三長秀男提供

フトヘナタリ *Cerithidea moerchii* (A. Adams in Sowerby. II, 1855) 新生腹足目 キバウミニナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の奥部や河口干潟の汽水域、ヨシ原周辺に生息。貝殻は堅固、多くの個体では殻頂が欠落し、先端を欠いた塔型となる。殻高 30 mm。殻表には白色の殻地に黒灰色の色帯をめぐらし、螺層に 7 本の螺肋をもち縦肋と交差する。満潮時、護岸壁やヨシの茎に這い上がる。東京湾以南から九州に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川、名草ノ浜、有田市、広川町江上川、御坊市日高川に分布。

選定理由

和歌山県では江上川（有田郡）に安定した個体群を確認。和歌川では 2004 年に多数の個体群あったが、2016 年には顕著に減少していた。日高川では河口域のヨシ原に少数個体が見られ、更に紀の川及び有田川では稀に確認されたものの、現在、生息は不明である。本種は、かつて全国的に普通に見られたが、東京湾、三浦半島では絶滅に近い状況である。なお、日高川河口からシマヘナタリの記録があるが、これは本種の殻表摩滅個体の誤認と見られる。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 2 江川和文. 2010. 日高川産「シマヘナタリ」はフトヘナタリの摩滅個体. くろしお, (29) : 23-25.
  - 3 江川和文・坂下泰典. 2003. 鹿児島県揖宿郡愛宕川河口域の貝類相. 九州の貝, 61 : 13-28.
  - 4 福田 宏・木村昭一. 2012. フトヘナタリ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 29. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.
  - 6 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. 日高川河口周辺で観察した貝類. くろしお, (24) : 44-46.
  - 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 9 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 I. 南紀生物, 51 (1) : 59-63.
  - 10 田中直・佐々木賢太郎. 1993. 日高川河口の貝類調査. くろしお, (12) : 57.
  - 11 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.
- 写真：三長秀男提供

ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i> Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016	新生腹足目	キバウミナ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾干潟や河口域、汽水域の潮間帯下の泥砂底に生息。貝殻は塔型で淡褐色、高い円錐形で堅固、殻高 30 mm。殻表には螺肋をめぐらし、この螺肋は縦肋と交差し、顆粒状となる。殻口外唇は強く張り出し、外唇下端は牙状となる。房総半島以南から九州、中国北部、朝鮮半島、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事のため消失)、和歌川河口 (和歌浦)、名草ノ浜、海南市琴の浦、有田市、広川町江上川、御坊市日高川、田辺市内之浦、田辺湾奥部、那智勝浦町湯川ゆかし潟に分布。



貝類

和歌山県では和歌川河口に安定した個体群が見られ、他に海南市琴の浦、田辺市内之浦が記録される。一方、有田川河口域では 2000 年代初めで既に稀で、広川町江上川、日高川も稀な状況であった。かつては全国的な普通種であった。生息域は減少し、東京湾、瀬戸内海中央部では絶滅状態である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 2 福田 宏・木村昭一. 2012. ヘナタリ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 29. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). 南紀生物, 46 (1) : 31-36.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.
  - 5 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. 日高川河口周辺で観察した貝類. くろしお, (24) : 44-46.
  - 7 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種. 南紀生物, 43 (2) : 102-108.
  - 8 和田恵次. 私信.
- 写真：三長秀男提供

モロハタマキビ *Lacuna carinifera* (A. Adams, 1853) 新生腹足目 タマキビ科

県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) 旧県 2012 - 国 準絶滅危惧 (NT)

内湾砂泥底のアマモ、コアマモ等の藻場に生息。貝殻は微小、薄質、半透明、黄褐色の殻皮を持ち、体層の周縁と臍孔の周りに強い角をもつ。殻高 5 mm。セトウチヘソカドタマキビは臍孔の狭い地方型。北海道南西部から九州北部、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市布引、名草ノ浜、広川町西広に分布。



和歌山では西広でセトウチヘソカドタマキビ型の個体が確認されているが、県内での個体数は稀で、多くは打ち上げ砂に混入した死殻が確認される。近年、瀬戸内海で個体群の著しい減少が確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 波部忠重. 1958. 巻貝類 10 新種. 貝類学雑誌, 20 (1): 32-42, Text-figs. 1-14.
  - 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 16pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 4 福田 宏. 2012. モロハタマキビ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 34. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.
- 写真: 池辺進一標本

ヌノメチヨウジガイ *Rissoina pura* (Gould, 1861) 新生腹足目 リソツボ科

県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) 旧県 2012 - 国 準絶滅危惧 (NT)

内湾から外洋の中・低潮帯から水深 20 m の砂底や岩礫裏に生息。貝殻は微小、堅固、白色の殻地に極めて薄い淡黄色の殻皮を持つ。殻表には螺肋と縦肋が交差し布目模様を呈する。殻高 5.5 mm。北海道南部から九州、奄美大島、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌浦湾、名草ノ浜、水軒浜 (1960 年代。造成工事のため消失)、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、鳥ノ巣、白浜町対ノ浦、すさみ町江須崎に分布。



和歌山県では近年、生貝は、鳥ノ巣で転石上の岩裏から 20 個体以上が、また田辺湾奥部、富田対ノ浦で普通に見られる。従来、普通に見られた貝で死殻は紀伊半島各地から確認される。周辺地域でも生貝は、三重県では 1979 年以降、現状不明の状況であり、愛知県では三河湾での生貝 3 個体が近年の唯一の採集記録である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, (33): 1-7.
- 2 早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久. 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. かきつばた, 44: 1-15.
- 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 4 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. 8. 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 5 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
- 6 三長孝輔・三長秀男. 2012. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類 II. かきつばた, 37: 22-27.
- 7 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 (II). かきつばた, (40): 2-16.
- 8 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類. くろしお, (30): 50-54.

参考文献  
・情報

- 9 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
- 10 山下博由・久保弘文. 2012. スノメチョウジガイ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 35. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 三長秀男提供

タニシツボ <i>Voorwindia cf. paludinoidea</i> (Yokoyama, 1927) 新生腹足目 リソツボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾潮下帯の水深2~10 mの細砂底や泥底に生息。貝殻は微小、タニシ型、薄質、半透明、螺層は膨らむが縫合が浅い。殻高2 mm。東京湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜 (1960年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、広川町西広、すさみ町江須崎に分布。

和歌山県では加太から砂礫の堆積中より新鮮な死殻を確認、他の確認地とも確認個体は少数である。近隣地域で三重県では記録例が少数で現状不明である。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. タニシツボ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 36. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.
- 4 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.
- 写真: 三長秀男提供

ジーコンボツボ <i>Chevallieria</i> sp. 新生腹足目 ワカウラツボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾干潟の潮間帯の礫の堆積下に生息。山口県日本海沖、見島からの未記載種、和名は同島の古墳遺跡名に由来。貝殻は微小、塔型で半透明のガラス質状。殻高2 mm。三浦半島以南、瀬戸内海湾口部 (大阪湾、豊後水道北端)、九州西岸、南西諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、白浜町対ノ浦、すさみ町江須崎、串本町潮岬に分布。

和歌山県は和歌山市から串本までの4地点から確認され、串本町潮岬では潮間帯上部転石裏から生貝を確認、他に対ノ浦では死殻が比較的、普通に見られる。周辺地域では愛知県、三重県、岡山県からの記録はない。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF サイエンスレポート, 3 : 182.
- 2 福田 宏. 2012. ジーコンボツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 37. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 江川和文・中本博之. 2014. 白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類. くろしお, (33) : 1-7.
- 4 三長孝輔・三長秀男. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類. かきつばた, 36 : 15-23.
- 5 三長孝輔・三長秀男. 2013. 和歌山県におけるジーコンボツボの生息記録. かきつばた, 38 : 5.



参考文献  
・情報

- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2014. 和歌山市加太周辺の貝類相 VII. 南紀生物, 56 (1): 66-71.  
7 中本博之・野田圭典・三長秀男・江川和文. 2017. すさみ町江須崎で観察した貝類. くろしお, (36): 49-60.  
写真: 三長秀男提供

ニセゴマツボ <i>Iravadia reflecta</i> (Laseron, 1956) 新生腹足目 ワカウラツボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾奥部や河口汽水域に生息。貝殻はやや堅固、新鮮個体は黒褐色、細長く、殻表には多数の螺肋をもつ。殻高 3 mm。紀伊半島（田辺市）、南西諸島、北オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、有田郡西広海岸、御坊市上祓井戸、田辺市田辺湾、白浜町対ノ浦に分布。

和歌山県では田辺湾奥部から生貝を確認。本種は初産出例として奄美大島から記録した種で、原記載は北オーストラリア産の種である。偶因分布の可能性が高く、近隣地域での記録はない。

執筆者（江川和文）



参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 1993. 奄美大島産リソツボ科 Rissoidae 貝類の図説. 九州の貝, 40/41: 75-117.  
2 福田 宏・久保弘文. 2012. ニセゴマツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 38. 東海大学出版会, 秦野.  
3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 16pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.  
4 Laseron, C. F. 1956. The families Rissoidae and Rissoidae (Mollusca) from the Solanderian and Dampierian Zoogeographical Provinces. Australian Journal of Marine and Freshwater Research, 7 (3): 384-484.  
5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.  
6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2014. 和歌山市加太周辺の貝類相 VII. 南紀生物, 56 (1): 66-71.  
写真: 三長秀男提供

貝類

カワグチツボ <i>Iravadia elegantula</i> (A. Adams, 1861) 新生腹足目 ワカウラツボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

河口奥部や河川下流域の軟泥底表面に生息、貝殻は微小、薄質、淡褐色。殻高 4 mm。北海道以南から九州、朝鮮半島、中国大陸、ロシア沿海州。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦干潟）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では紀の川河口域で 2008 年頃まで死殻が普通に見られたが、近年、河底の浚渫の影響が確認できていない。他地域で江戸川河口（千葉県）では、エドガワミズゴマツボとともに河口泥層上に多産する。注目されるのは寄生虫の存在で、ほとんど個体が吸虫に寄生されており、中腸腺全体がこの吸虫に置き代わり、個体の生息維持にも影響すると見られる。なお、東京湾の河口からの採取水には多数のセルカリア幼生が含まれていた。

執筆者（江川和文）



参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. カワグチツボ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 38. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1): 21-26.

参考文献  
・情報

- 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 和歌川河口奥部の貝類相 Ⅲ. 南紀生物, 52 (1) : 27-32.
  - 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.
  - 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2015. 和歌山市紀の川産コハギガイについて. くろしお, (34) : 43-46.
- 写真：三長秀男提供

<b>サザナミツボ</b> <i>Nozeba ziczac</i> (Fukuda & Ekawa, 1997) 新生腹足目 ワカウラツボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

河口域の泥質干潟上の転石下に生息。貝殻は微小、半透明のガラス質状で紡錘形、殻表に鋸歯状の螺溝をめぐらす。殻高 2 mm。陸奥湾・男鹿半島から南西諸島、韓国、中国（浙江省）、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川に分布。



選定理由

和歌山県では紀北域の河口等、汽水域から確認。和歌山市名草ノ浜を模式産地とする種で、記載当時、生息地は不明であったが、江上川で潮間帯の泥に深く埋没した転石下から生貝が確認されている。近隣地域で三重県では英虞湾等、数箇所です死殻が採集され、また愛知県では三河湾等、4地点で死殻が確認されるが、ともに生貝は非常に稀という。なお記載当時、本種はサザナミツボ科とされたが、現在、ワカウラツボ科に改められている。

執筆者（江川和文）

貝類

参考文献  
・情報

- 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 福田 宏. 2012. サザナミツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 40. 東海大学出版会, 秦野.
  - Fukuda, H. & Ekawa, K., 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda : Rissoidea) from Japan. The Yuriyagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi, 5 (1/2) : 69-88.
  - 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 Ⅰ. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.
- 写真：三長秀男提供

<b>シラギク</b> <i>Pseudoliotia pulchella</i> (Dunker, 1860) 新生腹足目 イソコハクガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾河口域で砂泥表面の還元環境の転石下に生息。貝殻は微小、円盤状で堅固、白色、背面は太い螺肋と縦肋が交差して格子状となり、臍孔は広く、殻表には黒い硫化鉄が沈着する。殻径 3 mm。三陸海岸・男鹿半島以南九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事により消失)、名草ノ浜、和歌川 (和歌浦湾)、海南市琴ノ浦、有田市、広川町江上川、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。



選定理由

和歌山県では和歌山市から白浜町までの内湾河口域から確認。有田川河口域の確認例で

は干潮時の露出域の泥底に半ば埋没した古タイヤの下面に密集した着生個体群があり、持ち上げると『蜘蛛の子を散らす』といったように、素早く移動する様子が認められた。近隣地域では三重県では1979年以前に4地点が確認され、また愛知県では以前、生貝の採集例は未確認であったが、近年、三河湾沿岸で回復傾向が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
- 2 福田 宏. 2012. シラギク 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 42. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). 南紀生物, 46 (1) : 31-36
- 4 木村昭一. 2009. 愛知県の絶滅のおそれがある野生生物. デッドデータブックあいち 2009. 貝類. 456-606pp. 名古屋.
- 5 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 6 木村昭一. 2020. (8) 貝類 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. 489-726pp. 名古屋.
- 7 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して. かたをなみ, 2 : 7-11.
- 8 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
- 9 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
- 10 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1) : 41-46.
- 11 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 154-167.
- 12 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.

写真：三長秀男提供

ナギツボ	<i>Vitrinella</i> sp.	新生腹足目	イソコハクガイ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾湾口部、岩礫地の潮間帯下の転石に着生。貝殻は微小、紡錘形、ガラス状で薄質、透明、殻表に螺溝はなく平滑。和名のみが提唱された未記載種。殻高 1.5 mm。和名は近似種のサザナミツボが殻表にさざ波状の螺溝を持つのに対し、本種はこれを欠き平滑で凧状なことに由来する。伊豆半島、浜名湖、英虞湾、紀伊水道、瀬戸内海、九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事により消滅）、名草ノ浜、田辺市田辺湾奥部に分布。



和歌山県では田辺湾奥部で生貝 5 個体を確認、他の産地でも新鮮な死殻を採集。近隣地域では三重県では英虞湾より生息を確認、愛知県では 2013 年に三河湾で初めて確認、その後、知多湾他でも知られている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. ナギツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 43. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 早瀬善正・大貫貴清・吉川 尚・松永育之・社家間太郎. 2015. 前島 (三河湾) の転石地潮間帯の貝類相. ちりぼたん, 45 (3) : 105-122.
- 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32) : 1-14.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.

参考文献  
・情報

- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.  
写真：三長秀男提供

エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ) <i>Stenothyra edogawaensis</i> (Yokoyama, 1927) 新生腹足目 ミズゴマツボ科	
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT) 旧県 2012 学術的重要 (SI) 国 準絶滅危惧 (NT)

河口、内湾干潟に広く分布するが、環境悪化により、和歌山県では生息しなくなったところもある。

貝殻は微小（殻高2 mm）、殻口は狭まって小さくなる。殻邸に微細な刻点状の螺溝がある。

和歌山県内では和歌山市中之島、紀の川、三葛、和歌川、和歌の浦、海南市船尾、有田市、田辺市文理湾から記録がある。



**選定理由** 河口域の汽水域、干潟の泥地に見られるが、従来、多産した紀の川河口域では浚渫工事のためか、近年、確認できない。

田辺湾種は小型で、ミジンウミゴマツボ *S. tanabeensis* Kuroda, 1962 として記載されたが、本種と同種、他にミヤジウミゴマツボ、ミヤジマウミゴマツボも本種の異名と見られる。

日本産の本類では最も小型である。別名にウミゴマツボ、ミヤヂエドガワミズゴマツボがある。

執筆者（池辺進一）

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米. 1962. 日本並びに隣接地域産ミズゴマツボ類に就いて. *Venus*, 22 (1) : 59-89. pl. 4.  
2 野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義. 2002. 有田川河口汽水域の大型底生動物相. *南紀生物* (2), 44 : 115-121.  
写真：三長秀男提供

クリイロカワザンショウ <i>Angustassiminea castanea</i> (Westerlund, 1883) 新生腹足目 カワザンショウ科	
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT) 旧県 2012 - 国 準絶滅危惧 (NT)

内湾奥部河口汽水域の葦原周辺の泥底表面や転石下に生息。貝殻は微小、螺塔が高く、濃い栗色、殻表は平滑。殻高5 mm。日本固有種、陸奥湾以南、種子島に分布。

和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960年代、造成工事により消失）、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川河口、御坊市日高川、塩屋に分布。

**選定理由** 和歌山県では江上川では群生個体が記録され、これは有田川でもかつて同様であったが、近年、同所的に生息していたカワザンショウとともに確認できない。近隣地域では大阪湾南部では男里、落合海岸で河口感潮域の転石や流木に着生が確認されている。また、愛知県では約20地点の生息地があるが、護岸工事等で生息地、個体数とも著しく減少している。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. *南紀生物*, 46 (2) : 167-172.  
2 福田 宏. 2012. クリイロカワザンショウ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 46. 東海大学出版会, 秦野.  
3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県自然博物館, 海南.  
4 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.  
5 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類. *かきつばた*, 31 : 1-7.  
6 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. 日高川河口周辺で観察した貝類. *くろしお*, (24) : 44-46.



参考文献  
・情報

- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.  
8 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.  
写真: 三長秀男提供

**ヨシダカワザンショウ** *Angustassiminea yoshidayukioi* (Kuroda, 1959) 新生腹足目 カワザンショウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

河口域の草原の礫下に生息。貝殻はやや薄質、淡褐色、螺塔は高く、クリイロカワザンショウに近似するが、臍孔が狭く開き螺層の膨らみは弱い。殻高 3 mm。東京湾から九州に分布、日本固有種。和歌山県内では和歌山市紀の川、粟、有田市箕島、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では生貝を紀の川のヨシ原から 1 個体を確認、以後、同地では再確認できない。近年では 2020 年 7 月、那智勝浦町ゆかし潟の確認例がある。本科の諸種は群生する傾向があるが、本種にはその傾向はなく、また個体数も少ない。隣接地域で三重県では 1999 年に伊勢湾沿岸の 6 地点で記録され、現在、伊勢湾、英虞湾に分布が知られる。また愛知県では、生息地、個体数とも著しく減少し、本科で最も絶滅の可能性が高い。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. ヨシダカワザンショウ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編), p. 46. 東海大学出版会, 秦野.  
2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 自刊. 和歌山.  
3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.  
4 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.  
5 黒田徳米. 1959. カワザンショウガイ新種今一種. 貝類学雑誌, 20 (4) : 335-338.  
6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.  
写真: 三長秀男提供

**アダムスタマガイ** *Cryptonatica adamsiana* (Dunker, 1860) 新生腹足目 タマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

内湾干潟の潮間帯下、アマモ場周辺に生息。貝殻は小型、淡褐色、堅固で球形、蓋は石灰質で平滑、臍盤は小さい。殻高 20 mm。房総半島・能登半島以南、九州、日本固有種に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代の造成工事により消滅)、和歌川 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市、辰ヶ浜、湯浅町栖原、広川町西広、御坊市日高川、名田町上祓井戸、田辺湾奥部に分布。

このうち生個体は加太、上祓井戸、西広海岸で確認、死殻は各地から採集されている。近隣地域では三重県では現状、生貝の確認例はなく、過去、伊勢湾からの 1 例が知られ、また愛知県では、過去、三河湾奥部で普通であったが、近年、少数個体のみが生息が確認されている。

なお、本種の和名は一部にアダムスタマガイの表記が用いられるが、本稿では慣用名を用いている。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
- 2 早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久. 2019. 日間賀島(三河湾)の潮間帯貝類相. かきつばた, 44 : 1-15.
- 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県自然博物館, 海南.
- 4 木村昭一. 2012. アダムスタマガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑(日本ベントス学会編). p. 57. 東海大学出版会, 秦野.
- 5 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 6 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜(和歌山県御坊市名田町野島)の貝類(1). かたをなみ, 2 : 12-35.
- 7 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32) : 1-14.
- 8 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. 日高川河口周辺で観察した貝類. くろしお, (24) : 44-46.
- 9 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
- 10 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2) : 155-160.
- 11 中山 清. 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6 : 10-12.
- 12 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 II. 南紀生物, 51 (2) : 83-88.

写真：江川和文撮影

ネコガイ	<i>Eunaticina papilla</i> (Gmelin, 1791)	新生腹足目	タマガイ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

湾干潟の潮間帯下、水深 20 m までの細砂泥上に生息。貝殻は洋梨型、やや薄質、白色で生貝は薄い殻皮に覆われ、殻表には浅い螺溝を全体にめぐらす。殻高 30 mm。本科諸種は二枚貝等、他の貝類に丸孔を穿ち摂食する習性をもつ。房総・男鹿半島以南から南西諸島、朝鮮半島、中国大陸、インド、太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、雑賀崎、水軒浜(1960年代、造成工事により消失)、和歌川河口(和歌浦湾)、片男波、名草ノ浜、有田市宮崎町(辰ヶ浜)、御坊市上祓井戸、塩屋、田辺湾奥部、白浜町臨海、富田町対ノ浦、串本町串本に分布。



選定理由

和歌山県ではかつて水軒浜では普通であったが、近年、生貝は田辺湾奥部、名草ノ浜、毛見崎等の少数例が知られる。隣接地域で三重県では 1979 年以前、3 地点が記録されているが、近年、生貝の確認例は限られる。また愛知県では、1960 年代に普通に見られたが、その後、生貝は稀とされる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・野田圭典・土岐頼三郎. 2010. 和歌山市産ネコガイ(軟体動物門、腹足綱、タマガイ科)の歯舌の観察例. 南紀生物, 52 (2) : 151-152.
- 2 江川和文. 2011. ネコガイと「タマネコガイ」. かいなかま, 45 (1) : 7-13.
- 3 池辺進一. 2012. 和歌山市・毛見崎の貝類. かたをなみ, 8 : 15-19.
- 4 木村昭一. 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26 : 18-20.
- 5 木村昭一. 2005. 蒲生市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, 31 : 29-31.
- 6 木村昭一. 2012. ネコガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑(日本ベントス学会編). p. 57. 東海大学出版会, 秦野.
- 7 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 8 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2) : 147-153.
- 9 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜(和歌山県御坊市名田町野島)の貝類(1). かたをなみ, 2 : 12-35.

参考文献  
・情報

- 10 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32): 1-14.  
 11 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2): 155-160.  
 12 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2): 159-164.  
 写真: 三長秀男提供

ツツミガイ <i>Sinum planulatum</i> (Récluz, 1843) 新生腹足目 タマガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾の潮下帯から水深 20 m の砂泥底に生息。動物体は大きく、貝殻内に収容されない。貝殻は白色、淡黄褐色の殻皮を持ち、平巻状で扁平、殻表には浅い螺溝を密にめぐらす。殻径 30 mm。房総半島以南沖縄、中国大陸、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市毛見崎、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、御坊市上祓井戸、みなべ町堺、田辺市新庄町跡之浦、白浜町、串本町串本・橋杭に分布。



和歌山県では近年、生貝は田辺市新庄町からの記録が唯一と見られる。細砂海岸で死殻が打ち上げ個体として記録される。他地域での記録は少なく、三重県では同県南部、3 地点の潮下帯から記録があり、現在、生貝の採集記録は非常に稀である。また、愛知県では採集記録があるものの、個体数は稀で、情報不足である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2012. 2011 年に和歌山県立自然博物館に収蔵された貝. かたをなみ, 8: 41-42.  
 2 池辺進一. 2013. ツガイについて. かたをなみ, 9: 4-5.  
 3 木村昭一. 2012. ツツミガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 61. 東海大学出版会, 秦野.  
 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.  
 5 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.  
 6 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2): 147-153.  
 7 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.  
 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2): 159-164.  
 写真: 三長秀男提供 (池辺進一採集)

ツガイ <i>Sinum incisum</i> (Sowerby, 1864) 新生腹足目 タマガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾の潮間帯下から水深 20 m の砂泥底に生息。動物体はツツミガイ同様、大きく、貝殻内に収納されない。貝殻は白色、平巻状で扁平、殻表には浅い螺溝を密にめぐらす。殻径 25 mm。房総半島以南沖縄、中国大陸、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦湾）、田野、名草ノ浜、有田市宮崎町（辰ヶ浜）、由良町白崎、御坊市塩屋町、御坊市上祓井戸、串本町大水崎、橋杭に分布。



このうち生貝は、近年、和歌山市田野、由良町白崎、串本町大水崎から知られる。本種の採集例は他県では稀で、三重県では 2 地点、水深 30 m からの記録があり、近年では伊

勢湾中央部より生貝が記録されるが、個体数は非常に稀である。また、愛知県では採集記録があるものの、個体数が非常に稀で情報不足である。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2013. ツガイについて. かたをなみ, 9: 4-5.
  - 2 木村昭一. 2012. ツガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 61. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 4 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2): 147-153.
  - 5 松本幸雄. 1979. 三重の貝類 (三重県産貝類目録). 179pp. 鳥羽水族館, 鳥羽.
  - 6 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2): 155-160.
- 写真: 三長秀男提供

オリレシラタマガイ <i>Sigatica bathyrarpe</i> (Pilsbry, 1911)		新生腹足目	タマガイ科
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012
			-
		国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾干潟域の細砂底の潮間帯下に生息。貝殻は小型、堅固、球形で白色。殻高 8 mm。駿河湾・秋田県から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市宮崎町辰ヶ浜、広川町西広、御坊市上祓井戸、みなべ町塚、田辺湾奥部、白浜町江津良、串本町に分布。

和歌山県での生貝の確認例は田辺湾奥部の 1 例が記録される。西広はじめ、確認地点では打ち上げ個体 (死殻) が確認されるが、個体数は少ない。隣接地域でも三重県では死殻さえほとんど採集されておらず、愛知県では記録がなく、岡山県では絶滅したとされる。



貝類

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山.
  - 2 福田 宏・久保弘文. 2012. オリレシラタマ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 60. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 4 小山安生. 2001. 和歌山県のタマガイ科貝類. 南紀生物, 43 (2): 147-153.
  - 5 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2): 159-164.
  - 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 I. 南紀生物, 53 (1): 41-46.
- 写真: 三長秀男提供



**オダマキ** *Depressiscula aurita* (Sowerby, 1844) 新生腹足目 イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

水深 20 m までの砂泥底に生息。貝殻は高い塔型、淡褐色、3本の褐色帯をもち、細い縦肋に混じり部分的に太い縦肋をもつ。殻高 20 mm。房総半島・佐渡島以南、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、田辺湾奥部に分布。



選定理由

和歌山県では近年、生貝は田辺湾奥部の1個体が記録され、他に各地から死殻が確認されるが個体数は少ない。1970年代、磯ノ浦では海岸にイボキサゴの夥しい打ち上げ個体中に普通に確認できたが、近年、死殻さえ稀である。隣接地域でも三重県では1970年代、伊勢湾で死殻が多数確認されたが、近年は死殻も稀で、湾口で稀に生貝が確認される程度である。また、愛知県では三河湾の湾口部、知多半島沖で生貝が採集されているが、個体数は非常に稀で、絶滅の可能性が高い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 木村昭一. 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類. かきつばた, 26: 18-20.
  - 2 木村昭一. 2012. オダマキ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 62. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32): 1-14.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草ノ浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2): 159-164.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2): 155-160.
- 写真: 三長秀男提供

**セキモリ** *Papyriscula yokoyamai* (Suzuki & Ichikawa, 1936) 新生腹足目 イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾奥部の潮間帯下の砂泥底に生息。貝殻は低い塔型、灰白色で褐色の2本の色帯をめぐらし、縦肋をめぐらす。殻高 15 mm。房総半島・佐渡島以南、九州、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県では、かつて水軒浜で普通に見られたが、近年、本種の確認例はごく稀である。隣接地域で三重県では1979年以前に5地点から生息例が確認されていたが、近年、伊勢湾から少数例の生貝が記録されるのみである。また、愛知県では豊川河口域、三河湾奥で生貝が採集されているが個体数は非常に少なく生息場所、個体数とも明らかに減少している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 木村昭一. 2012. セキモリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 63. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.

参考文献  
・情報

- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2) : 155-160.

写真：三長秀男提供

クレハガイ <i>Papyriscala clementia</i> (Grateloup, 1940) 新生腹足目 イトカケガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾奥部の干潟、水深 10 m の砂泥底に生息。貝殻は低い塔型、3 本の褐色の色帯をめぐらし、細い縦肋をもつ。殻高 15 mm。房総半島・佐渡島以南、九州、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、有田市、田辺湾奥部に分布。



選定理由

和歌山県では近年、死殻が少数個体、確認地できる程度で、生貝は唯一、田辺湾奥部での確認例のみである。

近隣地域では伊勢湾沿岸の河口域等で生貝が確認されるものの、生息地、個体数は非常に少ない。また、愛知県でも生息地、個体数の状況は同様である。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 木村昭一. 2012. クレハガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 62. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~, 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32) : 1-14.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2) : 155-160.

写真：三長秀男提供

キヌイトカケ <i>Epitonium ummaculatum</i> (Sowerby, 1844) 新生腹足目 イトカケガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-

水深 10~40 m の砂底に生息。殻高 20 mm。紀伊半島以南、九州、フィリピン、オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広に分布。



選定理由

和歌山県では名草ノ浜、西広の 2 地点のみが記録され、近隣の三重県、愛知県にも記録がない。偶因分布の可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.

写真：中本・土岐・野田・江川 (2006) 典拠

ハブタエセキモリ <i>Epitonium lyra</i> (Sowerby, 1844) 新生腹足目 イトカケガイ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

南西諸島ではサンゴ礁周辺の干潟の渚線付近の砂泥底に生息。貝殻は一見、クレハガイに近似し、やや薄質、低い塔型で淡褐色、2本の褐色の色帯をめぐらし、密になった細い縦肋と交差する。殻高 15 mm。奄美大島、沖縄、先島諸島、インド、太平洋に分布。

和歌山県では、加太海岸の堆積砂から 1 個体のみを確認、これが和歌山県、あるいは本土最初の確認例と見られる。本来、奄美以南に分布する種で、1980 年代、奄美・加計呂麻島の真珠養殖場周辺で確認したが、近年、同地でも未確認である。加太は紀伊水道北端に位置し、黒潮の影響が少ない地であるが、ヒメカノコ、ニセヒロクチカノコ等、南方域が主生息地の種が確認されるようになっている。沖縄周辺の干潟でも本種の確認が困難な状況にあり、和歌山県での本種は偶因分布の 1 例と考えられる。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2): 155-160.
- 2 久保弘文. 2012. ハブタエセキモリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 62. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

カシパンヤドリニナ <i>Hypemastus peronellicola</i> (Kuroda & Habe, 1950) 新生腹足目 ハナゴウナ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

貝類

選定理由

潮間帯～潮下帯の砂底に生息するヨツアナカシパンを宿主として外部寄生する。貝殻は光沢があり半透明白色、真っすぐでやや薄質、外唇縁やや上方が腹側に突出する。殻高 4.3 mm。鹿島灘・能登半島以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、田辺市江川、串本町橋杭に分布。

和歌山県ではかつて田辺市江川の底曳網漁で確認され、ヨツアナカシパンを宿主とし、腹面側の口側面の周辺に 3~4 個が着生し、この着生部位周辺は宿主の短棘が脱落し、表皮粘膜を食害した結果と見られる。和歌山県内では加太から死殻を確認しているが、近年、ヨツアナカシパン自体の個体数が少なく、本種を確認する機会も少ない。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. カシパンヤドリニナ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 63. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. 南紀生物, 53 (2): 155-160.
- 3 山本虎夫. 1963. 田辺湾産生物メモ [II]. 田辺文化財, 7: 80-92.  
写真: 江川和文撮影

トクナガヤドリニナ *Hypemastus tokunagai* (Yokoyama, 1922) 新生腹足目 ハナゴウナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

ハスノハカシパンを宿主とし外部寄生する。貝殻はカシパンヤドリニナに近似するが、縫合のくびれが弱く、螺層の側面がほぼ平らとなる。殻高 6.5 mm。能登半島、瀬戸内海西部に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）に分布。

本種は長らくカシパンヤドリニナと混同され、田辺江川産のカシパンヤドリニナの宿主ヨツアナカシパンは水軒浜では稀で、逆にハスノハカシパンが多産した。このため、かつて産地によって、貝が宿主を代えているとの疑問が呈されていた。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. トクナガヤドリニナ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 64. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 山本虎夫. 1963. 田辺湾産生物メモ [II]. 田辺文化財, 7:80-92.  
写真: 池辺進一標本

テングニシ *Pugilina tuba* (Gmelin, 1791) 新生腹足目 テングニシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

外洋・内湾干潟の潮間帯下の砂泥底、水深 50 m までに生息。貝殻は堅固、紡錘形、褐色の厚い殻皮をもち、殻口は大きい。かつて食用貝として全国で大量捕獲されていた。殻高 150 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾名草ノ浜、有田市宮崎町（辰ヶ浜）、御坊市名田町上楠井、下楠井、印南町津井、みなべ町一本松、堺、串本町串本、古座町津荷に分布。

かつてバイ同様、全国的に食用貝として採捕され、一部地域では「甲貝」の名で流通していた。和歌山県ではほぼ全域から確認されるが、生貝は和歌浦湾では 1960 年代以降、生息記録はない。日本海側では現在も食用貝として採捕される。隣接地域では、三重県で 1979 年以前に 6 地点の生息が記録されたものの、個体数は激減した。また、愛知県では干潟域での生貝の採集例はなく、将来的に絶滅危惧の危険性がある。本種の激減には船底の防汚塗料に含まれる有機スズによる生殖不能が要因と見られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. テングニシ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 72. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
- 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 5 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 6 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1):73-78.





参考文献  
・情報

- 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 III. 南紀生物, 54 (1): 61-66.  
写真: 池辺進一標本

オニサザエ <i>Chicoreus asianus</i> Kuroda, 1942 新生腹足目 アッキガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾干潟や潮間帯下の岩礁に生息。他の貝類等を摂食する肉食性で、貝殻は堅固、120°ごとに縦張肋をめぐらし、刺状の突起をもつ。殻高 100 mm。房総半島・能登半島以南、九州、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960年代、造成工事のため消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、有田市宮崎町、御坊市名田町に分布。



選定理由

和歌山県では、かつて海老刺網漁で普通に得られたが、近年、有田市等、北部域では激減、和歌浦湾では 1970 年代以降、生貝が確認されていない。近隣地域でも愛知県では本来、個体数が少なく、高ランクの絶滅危惧種とされている。岡山県では現在、生息の確認例はない。更に山口県西部でも本種は激減している。本種の個体数の激減の要因は、テングニシ同様、船底塗料による生殖不能によると見られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. オニサザエ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 65. 東海大学出版会, 秦野.  
2 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.  
3 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.  
4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2): 159-164.  
5 杉村智幸. 2021. 山口県の貝類 角島周辺の海産貝類相. 110pp. 豊北町自然観察指導員会, 豊北.  
写真: 三長秀男提供

貝類

カニノテムシロ <i>Nassarius bellulus</i> (A. Adams, 1852) 新生腹足目 オリイレヨフバイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾の中・低潮帯の泥底・砂泥底に生息。魚類等の腐肉摂食性。貝殻は堅固、太い紡錘形、褐色、殻口は滑層が発達し、カニの鋏脚を連想する。殻高 15 mm。紀伊半島以南、九州、奄美大島、沖縄、インド、太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、海南市船尾、御坊市名田町、田辺市内之浦、田辺湾、白浜町白浜、串本町潮岬、那智勝浦町浦上・湯川に分布。



選定理由

和歌山県では和歌浦湾で生貝が潮間帯下から確認され、卵嚢内で卵から幼貝まで成長する様子が観察される。近隣地域で三重県では現在、1 地点から生息地が確認され、愛知県では記述がないことから、この地が本種の分布の北限、東限と見られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文・野田圭典. 2007. 和歌川河口におけるカニノテムシロの採集記録と個体の状況 (軟体動物門、腹足綱、オリイレヨフバイ科). 南紀生物, 49 (1): 23-26.  
2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.  
3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.

参考文献  
・情報

- 4 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1) : 7-12.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 (II). かきつばた, (40) : 2-16.
  - 6 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
  - 8 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 II. 南紀生物, 51 (2) : 83-88.
  - 9 山下博由. 2012. カニノテムシロ 干潟の絶滅危惧種図鑑 (日本ベントス学会編). 69. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 10 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種. 南紀生物, 43 (2) : 102-108.
- 写真：三長秀男提供

<b>ムシロガイ</b> <i>Niotha livescens</i> (Philippi, 1849) 新生腹足目 オリイレヨフバイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾・外洋の潮間帯下の砂泥底に生息、腐肉食性の種。貝殻は卵形、貝殻は堅固、褐色、太い縦肋をめぐらし、これと交差する螺溝で殻表は石畳状となる。殻高 20 mm。大槌湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、熱帯インド、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市、御坊市日高川、塩屋、田辺湾奥部、みなべ町堺、白浜町臨、富田町対ノ浦、串本町潮岬、那智勝浦町宇久井に分布。



和歌山県では、本種の生貝の確認例は対ノ浦他、少数であったが、かつてはごく普通種であった。全国的に生息域、個体数が激減し、これは船底塗料の有機スズによる生殖不能が要因とされ、1991 年、有機スズ化合物が規制されたことで、一部地域では回復も確認される。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. ムシロガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 68. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1) : 7-12.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町瀧内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類. かきつばた, 36 : 15-23.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. 南紀生物, 48 (2) : 159-164.
  - 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 III. 南紀生物, 54 (1) : 61-66.
- 写真：三長秀男提供

バイ *Babylonia japonica* (Reeve, 1843) 新生腹足目 バイ科

県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
-------	------------	----	------	---	---	------------

食用貝として古くから知られた貝で、腐肉を摂食する習性を持つ。貝殻は堅固、厚い褐色の殻皮を持ち、褐色の斑紋をめぐらす。殻高 70 mm。北海道南部以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌浦湾、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、みなべ町堺に分布。

選定理由

本種は古くから盛んに採捕されてきた食用種で、和歌山県では和歌浦湾で 1970 年代を最後に生貝の記録はない。全国的な本種の激減は船底塗料含有の有機スズが要因とみられる。本種は、1970 年代まで全国的に多産し、その後、1980 年半ばから激減した。隣接地域では、三重県において 1979 年以前、3 地点から生息が記録された。現在、干潟での生息はなく、伊勢湾中部と湾口部で生貝が採集されており、回復傾向が見られ、本種を対象とした漁業も回復傾向にあるという。また、愛知県では 1960 年代に多産したものの、三河湾、伊勢湾沖では死殻さえ稀で、2000 年代半ば、渥美外海で生貝が確認された。



執筆者 (江川和文)

- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 2 木村昭一. 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類 (予報). かきつばた, 26:18-20.
- 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-, (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2:12-35.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1):73-78.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 III. 南紀生物, 54 (1):61-66.
- 7 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2):191-196.
- 8 山下博由. 2012. バイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 72. 東海大学出版会, 秦野. 写真:三長秀男提供

参考文献・情報

貝類

マクラガイ *Oliva mustelina* Lamarck, 1811 新生腹足目 マクラガイ科

県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
-------	------------	----	------	---	---	------------

内湾干潟、外洋の潮間帯下から水深 30 m の砂泥底に生息。肉食性。貝殻は堅固、円筒形で殻表は平滑。殻高 35 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島、に分布。中国大陸、インド・太平洋に分布。和歌山県では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代に消失)、和歌浦湾、広川町西広、御坊市上祓井戸、印南町に分布。

選定理由

和歌山県では 1970 年代、遊泳中、西広海岸で細砂底に多数の匍匐跡を確認し、その先端の砂中から本種を確認した。1980 年代以降、本種の生息跡や死殻の打ち上げ個体も激減した。本科マクラガイ科はバイ科とは近縁で、バイ科同様、有機スズによる生殖不能が生じたと見られる。近隣地域では、三重県で現在、生貝が伊勢湾口部や熊野灘で確認されるが、個体数は非常に少ない。また、愛知県では渥美外海で生貝が確認されているが、内湾干潟での採集例はない。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 木村昭一. 2005. 蒲都市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, (31): 29-31.
  - 3 木村昭一. 2012. マクラガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 73. 東海大学出版会, 秦野.
  - 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 5 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 6 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 III. 南紀生物, 54 (1): 61-66.
- 写真: 三長秀男提供

クリイロマンジ <i>Phibertia leuckarti</i> (Dunker, 1860) 新生腹足目 フデシャジク科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾から外洋の中・低潮帯から水深 20 m の砂底・砂礫底に生息。肉食性の摂食習性を持ち、貝殻は微小、堅固、褐色で紡錘形、殻表は縦肋と螺肋が交差し格子状目状となる。殻高 7 mm。岩手県・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太に分布。



選定理由

現在、加太海岸から少数個体、死殻の確認例がある。本科諸種はイモガイ上科に属し、他の動物を摂食する習性を持ち、餌の動物が生息状況に影響すると見られる。本科のチャイロフタナシシャジクはかつて北海道西南部以南に普通に見られる種であったが、現在、和歌山県では未確認である。近隣地域では、三重県で 1979 年以前に 3 地点からの分布記録があるものの、現在、伊勢湾中部から南部で死殻が確認されるが、生貝の生息例は限られる。一方、愛知県では 4 地点から生貝が採集され、健全な個体群が確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 2 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 III. 南紀生物, 54 (1): 61-66.
  - 4 山下博由. 2012. クリイロマンジ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 76. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 三長秀男提供

チャイロフタナシシャジク <i>Etremopa gainesii</i> (Pilsbry, 1895) 新生腹足目 ヌノメシャジク科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾、外洋の中・低潮帯から水深 20 m の砂底・砂礫底・岩礫底に生息。貝殻は微小、堅固、褐色で、塔型、太い縦肋に細い螺肋が横切る。殻高 8 mm。北海道西南部以南、九州、朝鮮半島に分布。

選定理由

和歌山県では近年、死殻さえ確認されていない。和歌山県では「和歌山県貝類目録」に本種が記録されるが、具体的な産地の記録はない。本種は明治中期、鎌倉から記載された種で、かつては瀬戸内海・博多湾等の内湾で普通に見られた。しかし、本種を含むイモガイ上科は肉食性の種で、餌動物相の影響を強く受け、東京湾周辺では本上科の諸種が姿を消している。

執筆者 (江川和文)



- 参考文献・情報
- 1 黒田徳米. 1945. 和歌山県貝類目録 (未定稿). 西宮市貝類館所蔵.
  - 2 山下博由. 2012. チャイロフタナシシヤジク 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 76. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 Pilsbry, H. A. 1895. Catalogue of Marine Mollusks of Japan. 196pp. 11pls. Detroit.

シチクガイ <i>Hastula rufopunctata</i> (E. A. Smith, 1877) 新生腹足目 タケノコガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由 砂底の水深 40 m に生息。ハワイ産の同属種は多毛類を捕食する習性が知られ、本種も同様な生態を持つと考えられる。貝殻は細長い塔型、堅固、淡紫色、殻表は平滑、縫合下に褐色の斑紋をめぐらす。殻高 35 mm。房総半島・男鹿半島以南、種子島、沖縄、小笠原、朝鮮半島に分布。和歌山県内では日高郡由良町大引、御坊市上祓井戸、串本町田原、那智勝浦町宇久井に分布。



かつて普通に見られた種であるが、全国的に産地、個体数の激減が知られている。房総半島では産地が著しく減少し、相模湾では 1980 年代以降、消滅、熊本県天草下島では現在、確認されていない。和歌山県では県中域から南部にかけて少数の産地が確認されているが、生貝は未確認である。隣接地域では、三重県南部に分布記録があるものの、現状は不明であり、愛知県、岡山県での記述はない。

執筆者 (江川和文)

- 参考文献・情報
- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 2 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
  - 3 山下博由. 2012. シチクガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 77. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 三長秀男提供

チビマキギヌ (シロヒメゴウナ) <i>Leucotina digitalis</i> (Dall & Bartsch, 1906) 汎有肺目 イソチドリ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由 潮間帯から水深 150 m の砂泥底に生息しハボウキに外部寄生。貝殻は堅固で白色、殻表全体に強い螺肋をめぐらし、明瞭な縦肋を持つ。殻高 15 mm。房総半島以南、九州に分布。殻高 15 mm。房総半島以南、九州に分布。和歌山県内では串本町潮岬に分布している。



執筆者 (江川和文)

- 参考文献・情報
- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 写真: 池辺進一標本

ヒメゴウナ *Monotygma eximia* (Lischke, 1872) 汎有肺目 イソチドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

潮間帯下部から潮下帯の細砂底に生息。細長い高円錐形で堅固、白色から黒色、殻表に細い等間隔の螺溝をめぐらす。殻高 20 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜に分布。



**選定理由** 和歌山県では 1970 年代、磯ノ浦海岸で死殻が普通に見られた。近年、全国的に生貝の採集例は少なく、和歌山市でも生貝の採集例は確認できない。隣接地域でも同様で、三重県では生貝が確認されるのは英虞湾を東限とし、個体数は非常に稀である。また、愛知県では 1980 年以降、生貝は確認されておらず、絶滅の危険性が非常に高い。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. ヒメゴウナ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 87. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2) : 149-154.
- 写真：三長秀男提供

イトカケゴウナ *Bacteridium vittatum* (A. Adams, 1861) 汎有肺目 トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の中・低潮帯から水深 20 m の砂泥底に生息。貝殻は微小、やや薄質、塔型で螺層には 2 本の褐色の細い色帯をめぐらす。殻高 7 mm。房総半島・響灘から九州、中国大陸に分布。



選定理由

和歌山県では本種は、加太海岸と潮岬の 2 地点でのみ確認され、特に加太産個体は新鮮な死殻である。本邦では生息情報はほとんどない。わずかに淡路島洲本沖、熊本県天草、有明海南部で確認されるのみで、死殻も極めて稀である。近隣地域（三重県、愛知県、岡山県）での確認例もない。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2) : 149-154.
  - 3 山下博由. 2012. イトカケゴウナ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 83. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真：江川和文撮影

エドイトカケギリ *Turbonilla teganumana* Yokoyama, 1927 汎有肺目 トウガタガイ科

県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) 旧県 2012 - 国 準絶滅危惧 (NT)

選定理由

潮間帯下の砂泥底に生息。貝殻は堅固、白色、高い塔型でほぼ垂直の縦肋が溝状に取り巻く。殻高 5 mm。本科諸種は他の無脊椎動物を宿主として体液を摂取するが、本種の宿主は不明。東京湾・能登半島以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、那智勝浦町宇久井に分布。

和歌山県では前記 3 地点から確認され、加太からは新鮮な死殻が多数得られ、生貝が存在する可能性が考えられる。ただ全国的に個体数は少ない。近隣地域でも三重県では採集記録があるものの、現状は不明であり、愛知県や岡山県では記述そのものがない。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. エドイトカケギリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 89. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 自刊, 和歌山.
  - 3 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 写真: 三長秀男提供

貝類

クラエノハマイトカケギリ *Turbonilla kuraenohamana* Hori & Fukuda, 1999 汎有肺目 トウガタガイ科

県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) 旧県 2012 - 国 準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾や河口域の砂泥質干潟の中・潮帯域に生息。和歌川から最初に確認された種であるが、和名は山口県萩市倉江ノ浜に由来する。貝殻は微小、やや薄質、針状に近い高い塔型、殻高 8 mm。紀伊水道、瀬戸内海、山口県北長門海岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川 (和歌浦湾)、名草ノ浜、広川町和田、江上川、田辺湾奥部に分布。

近隣地域では、三重県の英虞湾で生貝の採集例が確認されているが、愛知県、岡山県での記述はない。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. クラエノハマイトカケギリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 89. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 3 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して (2). かたをなみ, 3: 5-11.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42: 16-23.
- 5 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31: 1-7.
- 6 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
- 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 9 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 II. 南紀生物, 51 (2): 83-88.

参考文献  
・情報

- 10 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1) : 91-94.  
写真: 三長秀男提供

**カキウラクチキレモドキ *Brachystomia bipyramidata* (Nomura, 1936) 汎有肺目 トウガタガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾干潟、河口域のマガキの間隙に生息する種で、マガキの体液を摂取する。貝殻は微小、堅固、塔型で乳白色、淡い黄褐色の殻皮を持ち、殻表は平滑で殻口には1本の襷を持つ。殻高4 mm。三陸から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川河口 (和歌浦)、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、那智勝浦町湯川に分布。



選定理由

和歌山県では紀伊半島西岸から東岸の湯川まで確認される。マガキの堆積下に見られ、顕微鏡観察ではマガキの外套膜の外套触手の間に口吻を押し当て、体液を摂取することを確認。マガキは水質汚濁が進行した場所でも生息可能であるが、本種が確認されない場合もある。近隣地域では、愛知県で汐川干潟に健全な生息地が確認されているが、三重県や岡山県からは本種の記述はない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 1994. 有田川河口産クチキレガイモドキ類1種の諸知見. 南紀生物, 36 (1) : 39-42.  
2 江川和文. 2015. カキウラクチキレモドキの摂食行動. かいなかま, 48 (2) : 25-28.  
3 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.  
4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2) : 149-154.  
5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.  
写真: 三長秀男提供

**ヌカルミクチキレ "*Sayella*" sp. 汎有肺目 トウガタガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾奥部から河口汽水域の軟泥底の潮間帯下に生息。近年、確認された未記載種で、貝殻は微小、やや薄質で長い紡錘形、褐色。殻高3.5 mm。陸奥湾から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川 (和歌浦湾)、広川町江上川に分布。



選定理由

和歌山県では県北部から確認され、紀の川からは比較的新鮮な死殻が得られる。また、江上川や和歌川河口域からは生息が確認されている。隣接地域では、三重県で伊勢湾沿岸や県南部の河口域等で生貝が確認されているが、生息場所や個体数は少ない。また、愛知県では汐川干潟でのみ生息が確認され、岡山県では現存産地が1地点のみ確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 藤岡えり子・木村妙子. 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における低生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10 : 31-39.  
2 福田 宏. 1996. WWF サイエンスレポート, 3. (和田恵次編). (6) 軟体動物 腹足綱. : 11-52pp.  
3 福田 宏・久保弘文. 2012. ヌカルミクチキレ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 88. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.



参考文献  
・情報

- 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 5 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42:16-23.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川(和歌山県有田郡広川町)河口汽水域の貝類. かきつばた, 31:1-7.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54(2):149-154.
- 写真:三長秀男提供

シゲヤサイトカケギリ <i>Dunkeria shigeyasui</i> (Yokoyama, 1927) 汎有肺目 トウガタガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

河口汽水域や内湾奥部の低潮帯の砂泥底に生息。貝殻は微小、堅固、高い塔型で白色、殻表には縦肋をめぐらし、縦肋間には細い螺肋を密にめぐらす。殻高7mm。宿主は不明。宮城県万石浦以南、九州、沖縄、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川(和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市、田辺湾奥部に分布。



主に河口汽水域の生息種で、特に有田川河口域で多数の死殻を確認。近隣地域では三重県では死殻の確認例があるものの、現状は不明である。また、愛知県では情報不足であり、全国的に減少傾向にあるとみられる。

執筆者(江川和文)

貝類

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46(2):167-172.
  - 2 福田 宏・久保弘文. 2012. シゲヤサイトカケギリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑(日本ベントス学会編). 85. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45(1):7-12.
  - 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 5 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 -動物編-. (8)貝類. 489-726pp. 名古屋.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32):1-14.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49(1):73-78.
  - 8 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54(2):149-154.
  - 9 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2009. 和歌川河口奥部の貝類相 II. 南紀生物, 51(2):83-88.
  - 10 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47(2):191-196.
- 写真:三長秀男提供

ダウンケルクチキレ (エバラクチキレ) *Orinella ebarana* (Yokoyama, 1927) 汎有肺目 トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾干潟の前浜干潟低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息。貝殻は堅固、高い塔型、クチキレガイより殻がやや太く、殻表は平滑で光沢をもち、螺層下部に赤褐色の色帯をめぐらす。殻高 8 mm。三陸海岸・若狭湾以南、九州に分布。潮間帯から水深 90 m に生息。和歌山県内では和歌山市加太、和歌川（和歌浦湾）、田辺湾奥部に分布。



選定理由

和歌山県では 3 地点から生息が確認できるが、個体数は少ない。近隣地域では、三重県で死殻の採集例があるが、現状は不明である。また、愛知県、岡山県では記述がない。全国的には瀬戸内海沿岸や有明海に点在するものの、産地は少ない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. エバラクチキレ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 88. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 3 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 写真: 江川和文撮影

ウネイトカケギリ *Paramormula scrobiculata* (Yokoyama, 1922) 汎有肺目 トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の前浜干潟の潮間帯下の砂泥底に生息。貝殻は微小、堅固で白色、非常に高い塔型で僅かに傾斜した縦肋をめぐらす。殻高 7 mm。房総半島・兵庫県但馬地方以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川 (和歌浦湾)、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県では県北部、和歌山市の細砂海岸で確認。特に水軒浜 (現在、消失) からは多数の個体を確認。近隣地域 (三重県、愛知県) からの記述はない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2017. 和歌山市周辺のトウガタガイ科貝類 (3). かきつばた, 42: 12-29.
  - 2 福田 宏. 2012. ウネイトカケギリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 88. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42: 16-23.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.
- 写真: 三長秀男提供

オオシノミガイ <i>Japanacteon siebaldii</i> (Reeve, 1842) 低位異鰓目 オオシノミ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾、湾口部の砂質干潟低潮帯に生息。貝殻は小型、長卵形、薄質で殻表に細い螺溝と2本の褐色の色帯をめぐらす。殻高20 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、和歌川河口（和歌浦）、串本町串本に分布。



和歌山県では和歌山市、串本町の2地点から確認。個体数は稀で、加太からは新鮮な死殻が、和歌川河口では幼個体が、それぞれ確認されている。近隣地域では三重県では伊勢湾の

選定理由

2地点の潮下帯に分布記録があるが、分布域の縮小傾向が見られる。また、愛知県では知多半島沖で少数の生貝が確認されている。本種は年によって個体数の増減が顕著で、相模湾では一時、多数個体の産出が確認され、愛知県でもカテゴリが絶滅から絶滅危惧Ⅱ類に変更されている。なお、本種の種名は幕末期のドイツ人医師シーボルト Siebold に由来するが、種名 *siebaldii* は、新種記載時の誤綴りである。ただ、学名は仮に誤綴りであっても修正されず、今日に継承される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1): 7-12.
- 3 木村昭一. 2012. オオシノミガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 80. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 5 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42: 16-23.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
- 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2012. 和歌山市加太周辺の貝類相 IV. 南紀生物, 54 (2): 149-154.

写真: 三長秀男提供

貝類

ムラクモキジビキガイ <i>Japanacteon nipponensis</i> (Yamakawa, 1911) 低位異鰓目 オオシノミ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾の砂質干潟表面に生息。貝殻は長い卵形、螺層肩部に黒色の火災彩状模様をもち、殻表には微細な螺溝をめぐらす。殻高10 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、広川町西広海岸、御坊市上祓井戸に分布。



選定理由

和歌山県では、生貝が和歌川河口域で確認されている。近隣地域では、三重県で従来、1地点から確認されていたが、近年、志摩市大王町の河口域から確認された。また、愛知県では三河湾の1例のみ記録されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. ムラクモキジビキガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 80. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 石川 裕. 2009. ムラクモキジビキガイやコシノミガイと混同されていた貝. まいご (四国貝類談話会会誌), 19: 6-7.

参考文献  
・情報

- 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1) : 7-12.
- 木村昭一. 2015. 9 貝類 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~, 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
- 三長孝輔・三長秀男. 2006. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類. かたをなみ, 2 : 12-35.
- 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1) : 73-78.
- 野田圭典・土岐頼三郎・中本博之・三長秀男・江川和文. 2016. 和歌山市和歌浦・和歌浦干潟で観察した貝類. くろしお, (35) : 40-45.  
写真：三長秀男提供

コヤスツララ *Acteocina koyasensis* (Yokoyama, 1927) 真後鰓目 フダタマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾干潟や河口域の中、低潮帯の砂泥底、軟泥底に生息。貝殻は微小、細長い円筒形、褐色の殻皮を持ち、殻表は平滑。殻高 3.5 mm。陸奥湾以南、九州、南西諸島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川河口 (和歌浦)、田辺湾奥部に分布。

選定理由

和歌山県では紀の川河口域の岸から新鮮な死殻が普通に確認され、また生貝は和歌浦干潟より確認されている。近年、生貝の確認地は多くない。隣接地域でも、三重県では志摩市の 1 地点から生息が確認されるのみで、愛知県、岡山県では記述がない。



執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 福田 宏・久保弘文. 2012. コヤスツララ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 81. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1) : 7-12.
- 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~, 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42 : 16-23.
- 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
- 野田圭典・土岐頼三郎・中本博之・三長秀男・江川和文. 2016. 和歌山市和歌浦・和歌浦干潟で観察した貝類. くろしお, 35 : 40-45.
- 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1) : 91-94.  
写真：三長秀男提供

ホソタマゴガイ *Limulatus ooformis* Habe, 1952 真後鰓目 ブドウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾湾口部の砂質干潟の砂底表層に生息。貝殻は微小、白色、薄質、光沢を帯び、上下端に螺溝をめぐらす。殻高 10 mm。相模湾・北長門海岸以南、九州、南西諸島、小笠原諸島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜に分布。

選定理由

和歌山県では加太、名草ノ浜で死殻が確認されているが稀で、生貝は未確認。隣接地域 (三重県、愛知県、岡山県) での記録はない。



執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. ホソタマガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 82. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1): 73-78.

写真: 三長秀男提供

ヤマトキバサナギガイ *Vertigo japonica* Pilsbry & Hirase, 1904 汎有肺目 キバサナギガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

選定理由

全国的に報告された例が少ない。これは本種が微小種であって、採取することの困難さが要因と思われる。本県では海岸地域を中心にして3箇所から記録がある。

貝殻は微小 (殻長 2 mm、殻径 1 mm)、円筒形状、淡褐色。螺層は5層・殻口内に4歯 (内唇に1、軸唇に1、外唇に2) がある。

串本町田子・双島、由良町白崎、新宮市熊野川町鎌塚の3箇所しか和歌山県内には知られていないが、おそらくは調査の不足が原因と考える。

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、生息地はそう多くはない。近似種のキバサナギガイと混同されていて、再検討が必要である。

執筆者 (湊 宏)



参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 2005. 双島 (串本町) の陸産貝類, 特にミジンマイマイ類の分類について. 南紀生物, 47 (1): 37-42.
- 2 矢野重文. 2022. ヤマトキバサナギガイ属の分類についての再検討. まいご (四国貝類談話会), (29): 1-7.

写真: 矢野 (2022) 典拠

ホソヒメギセル *Megalophaedusa gracilispira* (Moellendorff, 1882) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

選定理由

キセルガイ科貝類の中では、小形の貝類。殻口の上部右側に小さな切れ込みがあるのを特徴として、本種をタイプとして亜属名が提唱されている。

貝殻は小形 (殻長 8~11 mm)、殻口の上部右側に切れ込みが認められる。

本種是那智勝浦町色川、新宮市高田、美浜町日ノ御崎、護摩壇山から少数確認されているだけである。本種のシノニムとして、那智から記載されたユウビギセル "*Clausilia*" *graciae* がある。

本種は古木の根元や朽ち木の割れ目、洞等に生息するが、相対的に個体数の少ない種類である。

執筆者 (湊 宏)



参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, Supplement 2, pl 10.
- 2 湊 宏. 1995. 那智山の陸産貝類. 南紀生物, 37 (2): 87-93.
- 3 湊 宏. 2007. 室生寺 (奈良県) で確認されたキセルガイ科貝類. 南紀生物, 49 (2): 151-156.

写真: 湊 (1994) 典拠

キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1900) 汎有肺目 シタラ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------

本種のタイプ産地は古座川町蔵土(くろず)。本種を基にしてハクサンベッコウ属 (*Nipponochlamys*) が設立された。広葉樹や杉林の朽ち木や厚く積もった落ち葉の中等に生息する。



選定理由

貝殻は小形(殻径 5 mm)、赤褐色で絹肌のような光沢がある(和名の由来)。螺塔はやや低く、体層の周縁は円い。殻底に明瞭な臍孔が開く。殻口の唇縁は薄い。

タイプ産地の古座川町蔵土はじめ、那智勝浦町等から少数が確認されている。しかし、小さい個体のために採取は難しい。

本種はハクサンベッコウ属の模式種として重要。本州(西部)と四国から分布の記録がある。

執筆者(湊 宏)

参考文献・情報

- 1 平瀬与一郎. 1907. 日本陸産貝類図説(七), キヌツヤベッコウ, *Macrochlamys semisericata* (Pilsbry, 1900). 介類雑誌, 1(2). pl. 12.
- 2 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24(2): 91-95.  
写真: 平瀬(1907) 典拠

ヒメタマゴマイマイ *Satsuma pagodula* (Ehrmann, 1900) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

近畿南部(主として和歌山県、奈良県)に分布。田畑、人家の周辺をめぐる林縁地域に生息するが、近年は人家周辺の環境整備等で生息地が失われている所が多くなってきた。



選定理由

貝殻は中形(殻長 14~18 mm)で円錐形状、淡黄褐色で殻表に常に色帯を欠く。体層の周縁は円い。臍孔は閉じる。

タイプ産地は奈良県五條市野原町。和歌山県中・北部に生息地が確認されている。自然度の高い地域の人家、田畑の周辺の低木、草木の林床等で生息する。

本州・中部地方、近畿地方、中国東部地方に生息するヤマタカマイマイに類似するが、それよりも小形で、その殻表に色帯が欠如するから識別は容易である。

執筆者(湊 宏)

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 2019. 陸産貝類研究備忘録(21). “タマゴマイマイ”(ヤマタカマイマイ無帯型)とヒメタマゴマイマイ. かいなかま, 53(1): 1-12.  
写真: 湊 宏撮影

クチマガリマイマイ *Aegista cavicollis* (Pilsbry, 1900) 汎有肺目 オナジマイマイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

選定理由

小形で殻口が下降し、オナジマイマイ科の中ではその形態が特異である。本県では田辺市以北で点々とその生息地が知られるが、その生息地は局限される。

貝殻は小形（殻径 6~7 mm）、黄褐色、円錐形状。螺管は密に巻く。殻表は細い殻毛がピロード状に覆う。殻口は下降し、臍孔は広くて深い。分布の中心は北近畿と紀南地方を除く、近畿地方に広く生息するが、和歌山城は最も代表的な生息地である。

本種の所属するクチマガリマイマイ亜属 4 種は西日本に分布するが、後の 3 種は四国東南部、九州中部、五島列島でしか確認されていない。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米・波部忠重. 1949. かたつむり, 74, 図 47. 三明社, 大阪.
- 2 湊 宏. 1985. 西日本産クチマガリマイマイ亜属の 4 種. ちりばたん, 16 (2) : 56-61. 写真: 黒田・波部 (1949) 典拠

ゴマオカタニシ *Georissa japonica* Pilsbry, 1900 アマオブネ上目 ゴマオカタニシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

貝類

選定理由

微小（殻長 2 mm）な本種は和歌山県内でも確認は極めて少なく、通常は落ち葉層に生息するが、好条件の湿潤性であれば、草本等に登っていることがある。

貝殻は微小（殻長 2 mm）で円錐形状、殻色は紅朱色を呈する。本種の蓋には突起があることも特徴。白崎石灰岩地帯では環境が破壊されて絶滅してしまったベニゴマオカタニシとは、体層に螺状脈が認められるので識別できる。

和歌山県内では広く分布すると考えられるが微小のために記録が少ない。比較的によく記録のあるのは、すさみ町市原、由良町黒島である。

和歌山県では白崎石灰岩地に生息していて絶滅したベニゴマオカタニシとともに記録されているが、本種だけが生存している。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1980. 日本産ゴマオカタニシ科の種類. ちりばたん, 11 (1) : 3-5. 写真: 湊 宏標本

ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1900) 汎有肺目 オカモノアラガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

湿潤環境を好む本種は、和歌山県内での生息地の確認は少ない。本科の貝類には、触角が異常に太くなるロイコクロリディウム属のスポロキスト（袋状の幼虫）吸虫が寄生しているが、串本町田原では初めて本種が確認された。

貝殻の殻長 12 mm 程度、体層が特に大きく、貝殻は不透明で薄い。

和歌山県での確認地は、新宮市、串本町田原、白浜町平、富田川河口、和歌山市、紀の川市等であるが、湿潤環境は他にも存在するので今後は記録が増えると思われる。



オカモノアラガイの仲間には、ロイコクロリディウム属の吸虫が寄生するが、串本町田原でナガオカモノアラガイからもこの吸虫が確認された（後藤，1997）この事実は重要である。

執筆者（湊 宏）

- 参考文献・情報
- 1 後藤岳志. 1997. 珍しい寄生虫のこと. くろしお, (16) : 36.
  - 2 湊 宏. 1993. オカモノアラガイに寄生する奇妙な寄生虫. みたまき, (27) : 10-11. 相模貝類同好会会報, 横須賀.
  - 3 湊 宏. 2004. ナガオカモノアラガイの“田原湿地”（古座町）からの記録と日本産オカモノアラガイ科貝類の検索表. 南紀生物, 46 (2) : 115-118.
  - 4 湊 宏・内山りゅう. 2007. 富田川河口域のナガオカモノアラガイの生息記録. 南紀生物, 49 (2) : 119. 写真：湊 宏撮影

ミジンマイマイ *Vallonia costata* (O. F. Müller, 1774) 汎有肺目 ミジンマイマイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

和名の「ミジン」とは、細かいほこりを意味する。貝殻は微小であるが、日本産ミジンマイマイ科は1属3種類が知られ、和歌山県では2種類が記録されている。

貝殻は極めて微小（殻長1 mm、殻径2 mm）、灰白色、円盤状で、殻表には規則的に成長脈をめぐらす。臍孔は開口している。

選定理由

白浜町、みなべ町、由良町等の海岸地域の落ち葉と砂の混じった中に生息するが、生息地は局限する。

微小種のために採取は容易ではない。本県では2種が記録されている（湊，2003）が、本種のほかに、串本町田子・双島では殻表が極めて微細で、ほとんど平滑な“ソウジマミジンマイマイ”が見つかっている（湊，1970，2005）。



執筆者（湊 宏）

- 参考文献・情報
- 1 湊 宏. 1970. *Vallonia* 属の日本未記録種ソウジマミジンマイマイ（新称）について. 南紀生物, 12 (1) : 16. 写真：湊 宏標本

ウスコミミガイ *Laemodonta exaratooides* Kawabe, 1992 汎有肺目 オカミミガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾のやや潮上帯転石地の埋没した石の下面や間隙に生息。貝殻は卵形、殻表には微細な螺肋を密にめぐらし、短い針状突起の殻皮でおおわれ、殻口内唇には歯状突起を2個持つ。殻高5 mm。東北地方以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜（亀ノ川）、広川町西広、那智勝浦町ゆかし瀧に分布。

選定理由

和歌山県では生貝が加太、和歌浦湾周辺等で確認されているが、個体数は少ない。生息域が陸地に隣接する地域が多く、護岸工事の影響を受けやすく、実際、名草ノ浜に流入する亀ノ川では河口壁の石垣がコンクリート舗装され、生息が見られなくなった。

近隣地域では、愛知県で2001年に最初に記録、以後、三河湾島嶼域で確認されたが、全体に個体数は非常に少ない。



執筆者（江川和文）

貝類



参考文献  
・情報

- 1 木村昭一. 2012. ウスコミミガイ. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 96. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 3 腹足綱③. 南紀生物, 49 (1): 73-78.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1): 73-78.
- 4 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典. 1998. 和歌浦市産ウスコミミガイの観察例. 南紀生物, 40 (2): 183-184.
- 5 和田恵次. 私信.  
写真: 三長秀男提供

**キヌタレガイ** *Petrasma pusilla* (Gould, 1861) **キヌタレガイ目** **キヌタレガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の潮間帯から水深 20 m 程度のアマモ場の砂泥底に生息。貝殻は薄質、殻長 15 mm。北海道以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、広川町西広に分布。



選定理由

和歌山県では近年、西広が唯一の確認地であり、個体数も稀である。アサヒキヌタレと同様な環境下に生息する種とされるが、生息域も狭いと見られる。近隣地域では、三重県伊勢湾中部で死殻が得られるが、生貝は確認されていない。また、岡山県では倉崎市から半片の確認例があるが、以降は再発見されず、消滅した可能性がある。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 木村昭一. 2012: キヌタレガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 106. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

**ヤマホトトギス** *Arcuatula japonica* (Dunker, 1857) **イガイ目** **イガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾湾口部の低潮帯から水深 40 m 程度の泥底・砂泥底に生息し、足糸で泥マットを作る。貝殻は薄質、扁平、後方に広がる長円形。殻長 20 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜に分布。



選定理由

和歌山県では紀北域の細砂海岸から確認され、1980 年代には一時、生貝 100 個以上の産出も見られたが、近年、個体数は少ない。和歌浦湾には近似種のホテルギスが確認され、複数個体が足糸で結合されたホテルギス・マットの形成が本種にも確認される。近隣地域では、大阪湾南部の男里海岸で 1950 年代に採集できたが、一度、姿を消し、2003 年に再発見された。三重県では、生浦湾、英虞湾のアマモ場より生貝を確認したが、個体数は非常に稀とされている。また、愛知県では三河湾湾口部より 1995 年、生貝が採集されたが、個体数は非常に少なく、以降、死殻も確認されない。

執筆者 (江川和文)

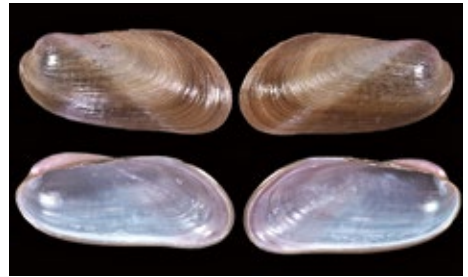
参考文献  
・情報

- 1 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
  - 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.
  - 4 山下博由・木村昭一. 2012. ヤマホトトギス 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 106. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真：三長秀男提供

サザナミマクラ *Modiolus flavidus* (Dunker, 1857) イガイ目 イガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

低潮線から水深 10 m 程度のアマモ場の砂場に埋没し生息。貝殻は薄質、膨らみ、細長い亜方形となる。殻長 25 mm。紀伊半島以南、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、みなべ町堺、田辺湾奥部、白浜町臨海、串本町潮岬に分布。



選定理由

和歌山県では、田辺湾奥部でアマモ場の砂泥底に少数個体の生息を確認、他は死殻の確認例が多い。近隣地域では、大阪府、三重県、愛知県には記述されず、岡山県では 2018 年に倉敷市高洲の細砂底アマモ場で 1 個体が確認され、これが唯一の記録である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 久保弘文. 2012. サザナミマクラ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 107. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.
- 写真：三長秀男提供

リシケタイラギ (タイラギ) *Atrina lischkeana* (Clessin, 1891) ウグイスガイ目 ハボウキガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の低潮帯から水深 30 m の泥底、粗泥底に生息。「タイラギの有鱗型」で、かつては無鱗型のズベタイラギの種内変異とされ、近年、遺伝子解析により別種とされた。海底に後端を露出した状態で埋没する。貝殻は大きく長い三角形、茶褐色、やや薄質で脆く、殻表の彫刻は小さい。殻長 250 mm。本州から九州に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川河口 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市、みなべ町堺、田辺湾奥部に分布。



選定理由

和歌山県では田辺湾奥部で少数個体の生息が確認されている。和歌山県内では各地から他に死殻が確認されるが、その産地はズベタイラギより多数である。本種は、かつて水軒浜 (造成工事で消失) で多数個体が採集されていた。近年は和歌浦干潟で少数例見られ、露出した貝殻後端にアカニシが着生している例も確認している。近隣地域では、三重県伊勢湾で新鮮な死殻や生貝が採集されているが、個体数は減少している。また、愛知県では現在も三河湾、伊勢湾知多半島南部で漁獲対象とされている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 4 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 5 山下博由・木村昭一. 2012. ズベタイラギ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 114. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 6 横川浩治. 1996. タイラギ2型の遺伝的分化. Venus, 55 : 25-39.  
写真: 三長秀男提供

ズベタイラギ <i>Atrina japonica</i> (Reeve, 1858) ウグイスガイ目 ハボウキガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾の低潮帯から水深 30 m の泥底、砂泥底に生息。重要な漁獲対象種、かつて貝柱が缶詰にも加工されていた。貝殻は大きく長い三角形、茶褐色、やや薄質で脆く、殻表の彫刻は小さい。殻長 300 mm。本州から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川河口 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市河口に分布。

和歌山県では和歌山市を中心とした紀北域から少数、確認される。かつてタイラギには 2 型があり、殻表が平滑な型と鱗状突起を持つ型である。従来、種内変異と扱われ、後者には特にリシケタイラギの名称があった。近年、遺伝子解析からこの 2 型は別種で、「無鱗型」は新たにズベタイラギと称されるようになった。近隣地域では、三重県では現在も伊勢湾中部で生貝や新鮮な死殻が採集されるが、個体数は著しく減少している。また、愛知県では 1960 年代、三河湾奥部で多産していたが、近年、死殻の採集例もない。三河湾湾口部では現在も漁業対象種であるが、個体数は年々、減少している。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 3 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 4 山下博由・木村昭一. 2012. ズベタイラギ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 114. 東海大学出版会, 秦野.
- 5 横川浩治. 1996. タイラギ2型の遺伝的分化. Venus, 55 : 25-39.

ハボウキガイ <i>Pinna attenuata</i> Reeve, 1858 ウグイスガイ目 ハボウキガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾湾口部からやや外洋の低潮帯から水深 30 m の砂泥底、砂礫底、アマモ場周辺に生息。殻の後端を出し、海底に埋没。貝殻は細長い三角形。殻長 300 mm。房総半島・男鹿半島以南、中国大陸、東南アジアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田川河口、田辺湾奥部、白浜町島島、富田対ノ浦、串本町須江に分布。

選定理由

和歌山県では、田辺湾奥部のアマモ場で生息が普通に確認され、かつては県内各地でも普通に見られた種である。近年、確認地点での再採集例は少なく、減少傾向にあると見られる。近隣地域では、三重県英虞湾で生貝が確認されたものの個体は数少なく、伊勢湾内



で生貝は確認されない。また、愛知県では渥美半島太平洋岸で死殻を少数確認したのみで  
選定理由 ある。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

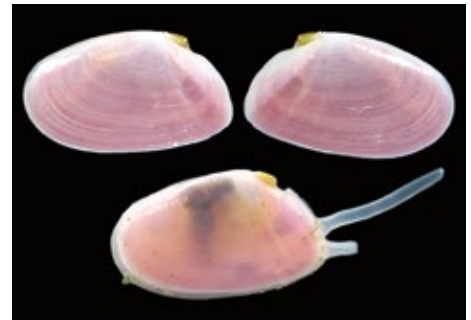
- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50
- 2 池辺進一. 2012. 和歌山市・毛見崎の貝類. かたをなみ, 8 : 15-19.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.
- 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 7 山下博由・久保弘文・木村昭一. 2012. ハボウキ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 115. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

**サクラガイ** *Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe, 1961) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

内湾奥部から湾口部の細砂底、アマモ場に生息。貝殻は長い卵形、薄質、膨らみは弱く扁平、桃色。殻長 20 mm。北海道南部以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川河口 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市、広川町江上川、田辺湾奥部に分布。



貝類

和歌山県では江上川では潮下帯の泥底から、田辺湾奥部ではアマモ場で生息が確認されている。多くは死殻で、個体数は多くない。かつて貝細工の材料としても知られていた貝である。近隣地域の三重県では、伊勢湾湾口で死殻が少数、確認されている。また、愛知県でも生息場所や個体数が著しく減少している。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 木村昭一. 2012. サクラガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 126. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.
- 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.
- 7 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 和歌川河口奥部の貝類相 III. 南紀生物, 52 (1) : 27-32.
- 8 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.  
写真: 三長秀男提供



ヒラザクラガイ *Tellinides ovalis* Sowerby, 1825 マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

内湾のアマモ場周辺の潮間帯から水深 20 m 付近の細砂底に生息。貝殻は薄質、紅色、楕円形、打ち上げ個体では殻が非常に脆くなる。殻長 40 mm。房総半島・能登半島以南、南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

近年では、加太、名草ノ浜から死殻が数例、確認されているに過ぎない。近隣地域も同様で、三重県では伊勢湾から死殻の採集記録あるものの、現状は不明。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 久保弘文. 2012. ヒラザクラ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 130. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 写真: 三長秀男提供

ユウシオガイ *Moerella rutila* (Dunker, 1860) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

貝類

選定理由

内湾奥部の砂質干潟の中潮帯付近に生息。貝殻は薄質、紅、黄、白色の変異があり、殻表は平滑に近い。殻長 20 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田川河口、広川町西広、白浜町富田対ノ浦、那智勝浦町湯川に分布。

和歌山県では紀の川ほか各地から見られるが、死殻の確認例が多い。なお、近隣地域では、愛知県の三河湾奥部で健全な個体群が確認されるが、奥部に位置することから、人為的な改変の影響を受けやすい。また、岡山県では 1 生息地があるものの、危機的状況である。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1): 45-50.
  - 4 木村昭一. 2012. ユウシオガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 126. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
  - 7 野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2010. 和歌川河口奥部の貝類相 III. 南紀生物, 52 (1): 27-32.
  - 8 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1): 69-74.
- 写真: 三長秀男提供

**ウズザクラ** *Nitidotellina minuta* (Lischke, 1872) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
-------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の潮間帯から潮下帯の泥底に生息。貝殻は小形で扁平、薄質、細長い卵形、殻頂に薄紅色の色帯をもつ個体もある。殻長 10 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、広川町江上川、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦、串本町に分布。

選定理由

和歌山県では和歌浦湾や江上川、対ノ浦等で潮下帯の砂泥底から生貝が確認されるが、個体数は少ない。周辺地域でも、三重県では英虞湾のアマモ場周辺で生貝が採集されているが、生息地、個体数とも減少している。また、愛知県でも内湾域で生息地、個体数とも明らかに減少し、例外的に三河湾で健全な個体が残っている。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 木村昭一. 2012. ウズザクラガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 126. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31: 1-7.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 II. かきつばた, 40: 2-16.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 写真: 三長秀男提供

**モモノハナ** *Moerella jedoensis* (Lischke, 1872) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
-------	------------	----	------	---	---	------------

内湾から外洋の潮間帯から水深 10 m の砂泥底に生息。貝殻は垂三角形、薄質、膨らみは弱い殻長 20 mm。三陸海岸・男鹿半島以南、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、串本町に分布。

選定理由

和歌山県では近年 2 地点のみから確認されている。現在、多くの生息域で個体数が激減している。近隣地域でも三重県では伊勢湾から死殻の記録があるものの、現状は不明とされている。また、愛知県では情報不足とされているが、今後、高ランクの絶滅危惧種として検討されるようである。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 木村昭一. 2012. モモノハナ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 125. 東海大学出版会, 秦野.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 写真: 三長秀男提供

オオモモノハナ *Praetextellina praetexta* (Martens,1865) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾～外洋の潮間帯下から水深 10 m の砂泥底、アマモ場周辺に生息。貝殻は薄質、楕円形、薄紅色から白色。殻長 40 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、田辺湾奥部に分布。



**選定理由** 和歌山県では、名草ノ浜から新鮮な合弁個体が、また田辺湾奥部では幼個体の生貝の確認例がある。ただ現状、産出例は和歌山市周辺からの少数例の死殻が主である。生貝は 1963 年の水軒浜の他、近年では田辺湾奥部干潟から確認されている。周辺地域では大阪湾では 1980 年代まで洲本沖で生貝が確認でき、三重県では 2009 年に伊勢湾で少数の死殻を確認したが、生息は未確認である。また、愛知県では死殻が稀に採集されるものの、生貝はなく、絶滅の可能性が非常に高い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 木村昭一. 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類 (予報). かきつばた, 26 : 18-20.
  - 3 木村昭一. 2012. オオモモノハナ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 123. 東海大学出版会, 秦野.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ. かきつばた, (40) : 2-16.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
  - 7 岡村親一郎・児島 格, 1984. 大阪湾の貝類相 I - 二枚貝類の生息記録 -. 南紀生物, 26 (2) : 121-126.
- 写真：三長秀男提供

フジノハナガイ *Chion semigranosa* (Dunker,1877) マルスダレガイ目 フジノハナガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾から外洋の高潮帯の砂底に生息。貝殻は小形、堅固、垂三角形、白色から稀に淡褐色、薄紫色となる。ナミノコガイ同様、潮汐に連動した垂直移動をとる。殻長 20 mm。房総半島以南、九州、中国大陸、タイに分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広に分布。



**選定理由** 和歌山県では和歌山市の細砂海岸で確認されるが、個体数は少数である。かつて水軒浜（造成工事で消失）では、本種が波浪で移動する波乗り運動が見られたという。また、磯ノ浦では 1970 年代、イボキサゴに混在して本種の打ち上げ個体が見られた。近隣地域では、三重県で従来、既知の産地 5 地点が知られ、その後 20 余年、生息状況は未確認であったが、近年、再確認された。また、愛知県では 1980 年代、伊勢湾、三河湾の内湾域で激減し、生息が未確認の状況であったが、一部、外洋域で回復傾向にある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 木村昭一. 2012. フジノハナガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 130. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.

参考文献  
・情報

3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.

写真：三長秀男提供

ナミノコ	<i>Latona cuneata</i> (Linnaeus, 1758)	マルスダレガイ目	フジノハナガイ科		
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国 準絶滅危惧 (NT)

外洋や開放的な湾の細砂底の中・低潮帯の浪打際に生息、波浪により移動する習性を持ち、一部、地域では食用貝とされる。貝殻は小形で堅固、三角形状、殻表は平滑。殻長 25 mm 内外。房総半島・男鹿半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、串本町上浦、古座町田原に分布。



選定理由

和名「ナミノコ（波の子）」は、波打ち際で潮の動きに合わせて、波に浮遊して移動する様を表現している。和歌山県ではかつて、水軒浜、近年では西広海岸で本種が確認できるが、年によって個体数に差がある。近隣地域では、三重県で 5 地点の生息地があり、全体に生息範囲が狭く、個体数も多くない。また、愛知県では情報不足の段階で、高ランクの絶滅危惧種の可能性もある。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
- 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
- 6 山下博由・久保弘文. 2012. ナミノコ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 131. 東海大学出版会, 秦野.

写真：三長秀男提供

キュウシュウナミノコ	<i>Donax kiusiuensis</i> Pilsbry, 1901	マルスダレガイ目	フジノハナガイ科		
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国 準絶滅危惧 (NT)

内湾や外洋に面した細砂底の潮間帯の汀線付近に生息。貝殻は前後に長い三角形で、殻は薄質で膨らみも弱い。殻長 8 mm。北海道南部以南、南西諸島、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、串本町橋杭に分布。



選定理由

和歌山県では、近年、4 地点から確認され、ナミノコガイ、フジノハナガイと同所的に見られるが、各産地とも個体数は稀で、生貝は確認していない。本土での分布は南西諸島が主分布域の種の偶因分布とも考えられる。近隣地域でも三重県では志摩市において生息を確認しているが、情報不足で現状は不明とされている。また、岡山県では死殻の確認例のみで生息、生貝は未確認である。

執筆者（江川和文）



参考文献・情報

- 1 福田 宏・久保弘文. 2012. キュウシュウナミノコ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 131. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.

写真：三長秀男提供

アシガイ <i>Gari maculosa</i> (Lamarck, 1818) マルスダレガイ目 シオサザナミ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾の礫地の砂質干潟低潮帯から潮下帯に生息。殻長 60 mm。房総半島・北長門海岸以南、南西諸島、中国大陸、フィリピン、北オーストラリア、熱帯インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、白浜町富田対ノ浦、白浜に分布。

選定理由 和歌山県では、対ノ浦で新鮮な合弁個体が波浪後にしばしば採集され、加太では半片が少数確認される。近隣地域では、三重県で県南部の潮下帯より記録があるものの、現状は不明とされており、愛知県では記述がない。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2012. アシガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 132. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 3 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7 : 1-9.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.

写真：三長秀男提供

オチバガイ <i>Gari chinensis</i> (Deshayes, 1855) マルスダレガイ目 シオサザナミ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

河口汽水域流水中の粗砂底から砂泥底に 5~30 cm に潜る。貝殻は薄質、長方形で殻表は黄褐色の殻皮をもつ。殻長 40 mm。東京湾・若狭湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸 (広東省)、海南島、台湾、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市河口、広川町西広、那智勝浦町粉白に分布。

選定理由 和歌山県では紀の川河口や有田川で合弁個体が確認でき、他では死殻半片が得られているが、個体数は多くない。近隣地域では、大阪湾南部で男里海岸の潮間帯の泥底に生息が確認された。三重県では 1980 年代に姿を消したが、1990 年後半から生貝が再確認された。また、愛知県では 知多市、矢作川、蒲郡市で生息が確認されているが、生息地点、個体数とも著しく少ない。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 福田 宏・久保弘文. 2012. オチバガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 134. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 池辺進一. 2015. 和歌山県那智勝浦町粉白の貝類. かたをなみ, 10 : 7-9.
- 4 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.

参考文献  
・情報

- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.  
写真：三長秀男提供

ハザクラ <i>Gari minor</i> (Deshayes, 1855) マルスダレガイ目 シオサザナミ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

河口汽水域や内湾干潟の砂泥底に生息。貝殻は楕円形で殻は薄く。殻表には緑黄色の殻皮を持ち、放射状の色斑を持つ。殻長 30 mm。房総半島・能登半島以南、南西諸島、海南島、フィリピン、タイに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、西広、田辺市内之浦、那智勝浦町ゆかし瀨に分布。

和歌山県では江上川で砂泥中での生息を確認、また、紀の川や西広他で合弁個体を採集したが、個体数は多くない。地域によってはオチバガイと棲み分けが見られる場所もある。近隣地域では、大坂湾南部で男里海岸に生息し、同地ではオチバガイと同所的に見られる。また、三重県では既知の生息地は 5 箇所以下で生息面積も狭い。



執筆者 (江川和文)

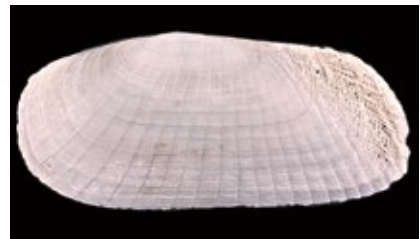
参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.  
2 福田 宏・木村昭一. 2012. ハザクラ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 133. 東海大学出版会, 秦野.  
3 池辺進一. 2015. 和歌山県那智勝浦町粉白の貝類. かたをなみ, 10 : 7-9.  
4 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.  
5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
6 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種. 南紀生物, 43 (2) : 102-108.  
7 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.  
写真：三長秀男提供

キヌタアゲマキ <i>Solecurtus divaricatus</i> (Lischke, 1869) マルスダレガイ目 キヌタアゲマキ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

内湾から外洋の潮間帯から水深 30 m の砂泥底に生息。貝殻は堅固、前後に長い長方形、両端は大きく開き、殻表に鱗状の彫刻を持つ。殻長 70 mm。房総半島以南、九州、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市河口、白浜町臨海、串本町に分布。



和歌山県では各地の細砂海岸で打ち上げ個体が確認できるが、個体数は稀である。近隣地域では、三重県で伊勢湾湾口部から熊野灘までの潮下帯で生貝が採集されるが、個体数は少ない。また、愛知県では元々希少種で情報不足であり、高ランクの絶滅危惧種に推定されると言われている。なお、和歌山の対岸、徳島県吉野川河口では、本種は普通に確認される。

執筆者 (江川和文)

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 木村昭一. 2012. キヌタアゲマキ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 137. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1): 134-139.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

**タガソデモドキ** *Trapezium sublaevigatum* (Lamarck, 1819) マルスダレガイ目 フナガタガイ科

県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
-------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の礫干潟や岩礁地の高・中潮帯に生息。ウネナシトマヤに似るが海域種、殻表は平滑、足糸で固着する。殻長 30 mm。房総半島・兵庫県北部以南、九州、南西諸島、中国大陸、香港、フィリピン、オーストラリア、熱帯インド・西太平洋に分布。



**選定理由** 和歌山県では和歌山市加太、田辺湾奥部、那智勝浦町ゆかし潟、太地町森浦湾から生貝が確認されている。南西諸島以南では多産するとされるが、和歌山県では少産である。近隣地域では、三重県で古くは賢島の 1 地点のみが記録されていたが、近年では英虞湾、五ヶ所湾、南部内湾域の 4 地点に生息が確認される。

執筆者 (江川和文)

貝類

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. タガソデモドキ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 138. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ. かきつばた, (40): 2-16.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

**ウネナシトマヤガイ** *Trapezium liratum* (Reeve, 1843) マルスダレガイ目 フナガタガイ科

県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
-------	------------	----	------	---	---	------------

河口域や内湾域のマガキや護岸の隙間に生息。貝殻は堅固で長円形、膨らみは弱く、背縁部で成長脈が隆起し、足糸で固着する。殻長 40 mm。津軽半島以南、台湾、中国大陸南部に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、中之島、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川河口 (和歌浦湾)、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川に分布。



**選定理由** 和歌山県では汽水域の護岸間隙に見られ、紀の川支流の土入川ではマガキ群の間隙に多数個体が、また和歌川河口域では少数個体が確認されている。比較的、汚染に強い貝で、大阪湾南部では生息が確認されるものの、大阪市近郊では絶滅とされる。環境省カテゴリで準絶滅危惧種と区分される一方、三重県では生息地、個体数も多いとして、絶滅危惧対象種から除外されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 5 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して. かたをなみ, 2 : 7-35.
  - 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 写真：三長秀男提供

**カモジガイ** *Lutraria arcuata* Reeve, 1854 **マルスダレガイ目** **バカガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾干潟の潮間帯から水深 20 m 付近までの礫砂底に生息。貝殻は堅固、長楕円形で背側はやや反り、後端は開き、殻表に茶褐色の殻皮をもつ。殻長 120 mm。房総半島・能登半島以南、南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。和歌山県内では有田郡広川町西広、白浜町畠島に分布。



和歌山県では近年、西広からのみ主に波浪時の後、確認され、軟体部が残存した個体も見られるが稀である。近隣地域で三重県では伊勢湾湾口部、英虞湾で生貝が確認されているが、個体数は少なく、また、愛知県では情報不足である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 久保弘文. 2012. カモジガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 140. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真：三長秀男提供

**オオトリガイ** *Lutraria maxima* Jonas, 1844 **マルスダレガイ目** **バカガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾から外洋の潮間帯下から水深 10 m の砂泥底に生息。貝殻は大型、長楕円形で白色、生貝では淡緑褐色の殻皮を持つ。殻長 120 mm。房総半島銚子市以南、九州、台湾、ベトナムに分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市、有田郡広川町西広海岸に分布。



和歌山県では近年、軟体部が残存した個体は西広干潟から波浪後の打ち上げ個体として確認される。軟体部には寄生カニのピンノ類が残存する。元々、個体数の少ない種で、近隣地域では、三重県でも希少種で、情報不足とされており、愛知県でも同様である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物. 47 (1) : 45-50.
- 2 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~, 9 貝類. 295-383pp. 三重県農林水部, 津.
- 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-, (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 4 久保弘文. 2012. オオトリガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 140. 東海大学出版会, 秦野.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.



参考文献  
・情報

- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.  
写真：三長秀男提供

ワカミルガイ <i>Macrotoma angulifera</i> (Reeve, 1854) マルスダレガイ目 バカガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾湾口部の潮間帯下部から潮下帯に生息。貝殻は薄質、殻頂から後腹隅に稜角を持つ。殻長 40 mm。房総半島・但馬以南、九州、中国大陸、東南アジア、オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、白浜町富田対ノ浦に分布。



和歌山県では名草ノ浜、対ノ浦から新鮮な合弁個体が確認されている。元々、確認例の少ない種である。近隣地域でも三重県では古い死殻の記録あるものの、現状は不明である。また、愛知県では記述がなく、香川県では新鮮な死殻が採集されたが、生貝は未確認である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7 : 1-9.  
2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.  
4 瀬尾友樹・Tanangonan. 2014. 2009~2013 年における香川沿岸の海産貝類相について. 近畿大学農学部紀要, 47 : 87-124.  
5 山下博由. 2012. ワカミルガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 142. 東海大学出版会, 秦野.  
写真：三長秀男提供

貝類

ユキガイ <i>Meropesta nicobarica</i> (Gmelin, 1791) マルスダレガイ目 バカガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾奥部の干潟で水深 20 m のアマモ場周辺の砂泥底に深く穿孔し生息。貝殻は薄質、白色で卵形、殻表には微細な放射肋状の彫刻を持つ。殻長 50 mm。房総半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌川布引干潟、有田川河口、広川町西広海岸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。



和歌山県では各地から新鮮な死殻が確認されるが、個体数は少数である。従来、大阪湾南部で未記録であったが、2000 年に最初に記録された。三重県では英虞湾の 1 地点で生息が確認されたが、個体数は非常に稀とされる。本種は南西諸島が主生息域で、近年、海水温暖化で生息域が北上した種と見られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.  
2 木村昭一・山下博由. 2012. ユキガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 142. 東海大学出版会, 秦野.  
3 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.

参考文献  
・情報

- 4 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
- 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
- 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

**クチバガイ** *Coecella chinensis* Deshayes, 1855 マルスダレガイ目 チドリマスオ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の潮間帯上部の砂礫中に生息。貝殻は堅固、長楕円形、膨らみは弱く、殻表に黄褐色の殻皮を持つ。殻長 25 mm。北海道西部以南、九州、台湾、中国大陸、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜、名草ノ浜、有田市河口、広川町西広、白浜町富田対ノ浦、串本田子に分布。



選定理由

和歌山県では河口汽水域や内湾に確認され、打ち上げ個体の多くは両殻が閉じた状態で見られ、対ノ浦では合弁個体が記録されている。近隣地域では、大阪湾南部で男里、近木に多産する。これらの地域では食用とされている。三重県では生息地、個体数が多いことから、絶滅危惧種の対象外とされており、愛知県でも同様である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1): 45-50.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝, 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
- 4 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
- 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
- 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1): 69-74.
- 写真: 三長秀男提供

**イソハマグリ** *Atactodea striata* (Gmelin, 1791) マルスダレガイ目 チドリマスオ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

粗砂・サンゴ砂礫の海浜の中潮上部に生息。貝殻は堅固、亜三角形、前縁は丸く、後縁は細くやや尖り、殻表は低い同心円肋を持つ。殻長 35 mm。紀伊半島以南、南西諸島、小笠原、中国大陸南部、インド・太平洋、地中海に分布。和歌山県内では白浜町富田対ノ浦に分布。



選定理由

和歌山県での本種の分布は現在、白浜町周辺で確認され、対ノ浦では合弁個体を確認。南西諸島が主生息域で、現地では味噌汁の具として採取される。ただ、これらの地の多くは、近年、陸土流入や造成工事等で環境が悪化しており、今後、和歌山県内にも影響が懸念される。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.

参考文献  
・情報

3 山下博由. 2012. イソハマグリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 144. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

シオヤガイ	<i>Anomalodiscus squamosus</i> (Linnaeus, 1758)	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	—	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾干潟の泥底、砂泥礫底に生息。貝殻は垂三角形、堅固、黄白色、殻表に粗い布目状の彫刻を持つ。殻長 30 mm。日本、中国大陸南部から東アジア、オーストラリア西部の西太平洋域、アンダマン海からインド西部のインド洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜、名草ノ浜、和歌川河口、海南市琴の浦、有田川河口、広川町江上川、田辺湾奥部、内之浦、白浜町富田対ノ浦、堅田、那智勝浦町湯川に分布。



**選定理由** 和歌山県では、ほぼ全域の河口域や内湾から確認される。本

種の国内での生息状況は「絶滅寸前」とされていたが (福田, 1996)、県内の産地でも田辺湾奥部では、本種の生貝の多産が確認される。本種の国内での分布は、三重県英虞湾を北限とし、和歌山県、淡路島、四国南部、九州に産地が限定されている。逆に沖縄や先島諸島では化石が出るものの、生貝は確認されない。これは本土の現生種は、縄文海進の温暖期に熱帯域から北上した個体群の遺存と見られる。周辺地域では、三重県英虞湾、五ヶ所湾で比較的多く生息。ただ、10年前と比較すると個体数は少ない。

執筆者 (江川和文)

貝類

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 1996. WWF サイエンスレポート, 3. (6) 軟体動物 腹足綱. : 11-52pls. 1-11pp.
- 2 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (I). 南紀生物, 46: 31-36.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32): 1-14.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1): 69-74.
- 6 山下博由・木村昭一. 2012. シオヤガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 145. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

シラオガイ	<i>Circe undatina</i> (Linnaeus, 1758)	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	—	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾や湾口部の低潮帯から水深 10 m の砂底、砂泥礫底、アマモ場に生息。貝殻は堅固、黄白色、殻表に粗い布目状彫刻を持つ。殻長 10 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、中国大陸南部からシンガポールに分布。和歌山県内では水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌浦湾、みなべ町鹿島、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦、畠島、臨海に分布。



**選定理由** 本種の生息状況は本土では「絶滅寸前」と定義される (和田ら, 1996)。全国的に古い死殻が確認され、かつては広範囲に分布したと見られる。和歌山県では田辺湾奥部に生貝が普通に見られ、三重県の英虞湾、熊本県天草の温暖干潟とともに健全な個体群の保存が確認される地域である。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
- 2 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF サイエンスレポート, 3: 182.
- 3 山下博由・木村昭一. 2012. シラオガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 146pp. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

**ケマンガイ** *Gafrarium divaricatum* (Gmelin, 1791) マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾湾口部に近接した岩礫地の砂中や転石に生息。地域によっては食用貝。貝殻は堅固、殻長 40 mm。房総半島・能登半島以南、九州、東南アジア、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾、田辺湾内之浦、元島、白浜町富田対ノ浦、堅田に分布。



選定理由

和歌山県ではほぼ全域から確認でき、特に田辺湾では、田辺湾内之浦、元島等で多数個体が確認される。著しく個体数が減少した地域がある一方、全国的には、田辺湾は三重県英虞湾、五ヶ所湾、山口県深川湾他と並ぶ健全な個体群の存在が確認できる地域であり、今後、カテゴリーの検討を要する。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏・木村昭一. 2012. ケマンガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 149. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2011. 田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類. くろしお, (30): 50-54.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 4 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種, 1976-2001. 南紀生物, 43 (2): 102-108.  
写真: 三長秀男提供

**スダレハマグリ** *Marcia japonica* (Gmelin, 1791) マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾や河口域の礫混じりの泥質底に生息。貝殻は堅固、褐色で三角形、殻表は顕著な成長脈を持つ。殻長 45 mm。紀伊半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、有田市河口、田辺湾奥部、内之浦、白浜町富田対ノ浦、白浜町日置、那智勝浦町ゆかし潟に分布。



選定理由

和歌山県では全域から採集されているが、各産地とも、多くは数個体の確認のみである。これは近年の海水温上昇による分布域の拡大と見られる。ただ、主生息域の奄美、沖縄で生息環境が悪化しており、今後、和歌山県内の生息状況に影響する可能性がある。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1): 45-50.
- 2 木村昭一. 2012. スダレハマグリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 149. 東海大学出版会, 秦野.



参考文献  
・情報

- 久保弘文. 2017. スダレハマグリ 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物 第3版. 647pp. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
  - 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
  - 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1): 69-74.
  - 久保田 信. 2015. 和歌山県の干潟で死亡したスダレハマグリ (二枚貝綱: マルスダレガイ科). くろしお, (34): 52-53.
- 写真: 三長秀男提供

ガンギハマグリ <i>Pitar lineolatum</i> (Sowerby, 1854) マルスダレガイ目 マルスダレガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾湾口部の細砂干潟の低潮帯から潮下帯のアマモ場付近の礫混じりの砂泥底に生息。貝殻はやや薄質、ハマグリ型でよく膨らみ、淡黄白色で殻表に折れ線状の模様を持つ。殻長 25 mm。房総半島・佐渡から九州、南西諸島、中国大陸、台湾に分布。なお、山口県北部から九州西岸で生息域や個体数は激減している。

**選定理由** 和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市河口、田辺湾奥部、元島、白浜町富田対ノ浦、串本町橋杭に分布。



和歌山県では田辺湾奥部では比較的、生貝が見られ、他に加太では幼貝が、名草ノ浜では 1987 年に軟体部が残存した個体が、対ノ浦からは合弁の死殻が、それぞれ確認されている。近隣地域では、三重県で 2 地点の生息地が確認されているが、採集例は非常に少ない。

執筆者 (江川和文)

貝類

- 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1): 45-50.
  - 福田 宏・木村昭一. 2012. ガンギハマグリ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 151. 東海大学出版会, 秦野.
  - 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
  - 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1): 134-139.
  - 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

コヅツガイ <i>Eufustulana grandis</i> (Deshayes, 1855) マルスダレガイ目 ツクエガイ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に石灰質の 100 mm を超す細長い生棲管を分泌し、この生棲管は底質に、ほぼ垂直に埋没し、その中に生息する。貝殻は薄質、長方形、殻長 40 mm。房総半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、磯ノ浦、名草ノ浜に分布。

**選定理由**

和歌山県では和歌山市のみで記録され、かつて水軒浜からは棲管と貝殻が保存された生貝が確認されている。近年では名草ノ浜から生棲管のみが記録される。現在、本土での本種は生貝の採集例はない。近隣地域でも、三重県では 2014 年、伊勢湾湾口部から新鮮な死殻が採集され、愛知県では三河湾湾口部



選定理由 稀に棲管や貝殻の死殻が確認されているが、生貝は未確認である。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 2 木村昭一・久保弘文. 2012. コヅツガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 153. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1): 134-139.  
写真: 江川和文撮影 (左: 貝殻, 右: 棲管)

**ニッポンマメアゲマキ *Galeomma* sp. マルスダレガイ目 ウロコガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由 内湾や湾口部の干潟や岩礫地の中・低潮帯の泥・砂泥に埋もれた岩の隙間に着生して生息。貝殻は薄質で長い楕円形、白色から黄白色、埋没した岩に固着する。殻長 10 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌川 (和歌浦湾)、有田郡広川町江上川、日高郡由良町吹井、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦、串本町江田、袋、上浦、田並、那智勝浦町ゆかし潟に分布。



和歌山県では、田辺湾奥部で砂泥に埋没した岩礫下に生貝が多産し、両殻を開いた状態で岩に着生する状態が確認される。同産地以外の生息例は少数である。近隣地域では、三重県の生浦湾、英虞湾他で健全な個体群が確認され、愛知県では、三河湾と知多湾で生息が確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
- 2 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42: 16-23.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1): 73-78.
- 5 山下博由. 2012. ニッポンマメアゲマキ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 159. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 三長秀男提供

**ウロコガイ *Lepirodes takii* (Kuroda, 945) マルスダレガイ目 ウロコガイ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由 内湾や外洋に面した湾口部等の低潮帯から水深 20 m の埋没した岩礫下に生息。貝殻は薄く半透明、殻表には放射状の多数の微小顆粒を持つ。殻長 17 mm。駿河湾、紀伊半島、瀬戸内海、高知県、九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太 (田倉崎)、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、海南市冷水、田辺湾奥部、みなべ町堺に分布。



和歌山県内での確認例は稀であるが、加太 (田倉崎) で採集され、田辺湾奥部では、潮間帯下の転石下のヒドロ虫類と思われる群体中で生息状況が確認されている。近隣地域では、淡路島成ヶ島や三重県伊勢湾湾口部等で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2015. 和歌山市加太・田倉崎の貝. かたをなみ, 10:4-6.
- 2 池辺進一. 2016. 和歌山県の珍しい二枚貝. がんがら, 11:18.
- 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 4 久保弘文. 2012. ウロコガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 160. 東海大学出版会, 秦野.

写真:三長秀男提供

スジホシムシヤドリガイ *Nipponomysella subtruncata* (Yokoyama, 1922) マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の干潟から潮下帯の砂泥底で、スジホシムシモドキの体表に寄生して生息。貝殻は微小、白色、長卵形で膨らみは弱い。殻長 5 mm。浜名湖以南、九州、南西諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、毛見崎、名草ノ浜、田辺湾奥部に分布。

選定理由

和歌山県では田辺湾奥部のアマモ帯でスジホシムシモドキに寄生する本種が確認されているが、個体数は少ない。近隣地域では、三重県で伊勢湾中部の干潟 5 地点に生息が確認された。また、愛知県では従来、三河湾で 2 地点が確認されていたが、2004 年以降、生息は不明である。なお、本種の宿主は従来のスジホシムシではなく、近似種のスジホシムシモドキに改められた。このため、貝の和名が「スジホシムシモドキヤドリガイ」と変更されているが、ここでは慣用の和名を採用した。



執筆者 (江川和文)

貝類

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2012. 和歌山市・毛見崎の貝類. かたをなみ, 8:15-19.
- 2 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32:1-14.
- 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2):137-142.
- 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2):153-158.
- 5 木村昭一・久保弘文. 2012. スジホシムシモドキヤドリガイ干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 161. 東海大学出版会, 秦野.

写真:三長秀男提供

マツモトウロコガイ *Parabomiola matsumotoi* Habe,1958 マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾・湾口部の干潟・岩礫地の転石下、低潮帯に生息。貝殻は薄質、半透明で白色、殻頂部は褐色を帯びる。殻長 7.5 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太 (田倉崎)、名草ノ浜、海南市冷水に分布。

選定理由

和歌山県では加太 (田倉崎)、田辺湾奥部で生息が確認され、また、名草ノ浜では死殻が確認されているが、県内では個体数は稀である。近隣地域では、三重県で伊勢湾湾口部周辺から生貝が確認された。また、愛知県では近年、県内 3 地点で生息が確認されたが、個体数は少ない。



執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2015. 和歌山市加太・田倉崎の貝. かたをなみ, 10:4-6.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 木村昭一・山下博由. 2012. マツモトウロコガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 161, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, (32):1-14.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2):137-142.
- 写真:三長秀男提供

マゴコロガイ *Peregrinamor ohshimai* Shoji, 1938 マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の潮間帯から水深 10 m 程度の砂泥底に生息。アナジャコ類の頭胸部腹面に足糸で着生する習性を持つ。貝殻は両殻の合体状態がハート形となり、この和名がある。東京湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、片男波、海南市船尾、冷水、有田市宮崎町に分布。



選定理由

和歌山県では和歌浦湾でアナジャコ類に着生する生貝を確認、他に有田市宮崎町での確認例（宿主不明）が、また、死殻半片は紀の川、名草ノ浜で見られるが稀である。全国的にも個体数が減少している。近隣地期で三重県では 1990 年に津市で最初に確認され、その後、伊勢湾奥部でも生息が確認された。また、愛知県では 2008 年、名古屋市沖から 1 個体を採集したに過ぎない。なお、宿主（ホスト）のアナジャコ類は三重県、愛知県とも普通に見られることから、本種の減少の要因との確認は不明である。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1):7-12.
  - 3 木村昭一・山本妙子. 1990. マゴコロガイを伊勢湾で採集. ちりばたん, 21 (1. 2):12-13.
  - 4 木村昭一・山下博由. 2012. マゴコロガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 162, 285 pp. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して. かたをなみ, 2:7-35.
  - 6 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42:16-23.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1):134-139.
  - 8 庄司幸八. 1938. 珍しき共棲二枚貝マゴコロガヒ. 貝類学雑誌, 8 (3・4):119-128. pls. 3-4.
  - 9 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1):69-74.
- 写真:三長秀男提供



**オサガニヤドリガイ** *Pseudopythina macrophthalmensis* Morton & Scott, 1989 マルスダレガイ目 ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾の泥質干潟から水深 10 m の泥礫底、オサガニ類の脚や巣穴に生息。殻は微小、やや硬質、紫褐色から淡褐色膨らみのある亜三角形。殻長 3 mm。駿河湾以南、沖縄、先島諸島、香港に分布。

**選定理由** 和歌山県では田辺湾内之浦で 2010 年に確認され、県内ではこれが唯一の確認例と見られる。近隣地域でも情報は少なく、三重県では英虞湾湾口部の潮下帯よりメナガオサガニ類に着生した生貝の採集記録のみである。

執筆者 (江川和文)

- 参考文献・情報**
- 1 木村昭一. 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 9. 貝類. 295-383pp. 三重県農林水産部, 津.
  - 2 久保弘文・木村昭一. 2012. オサガニヤドリガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 163. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

**オオノガイ** *Mya japonica* Makiyama, 1935 マルスダレガイ目 オオノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾干潟や河口域から外洋の水深 80 m までの砂泥底に生息。食用種。貝殻は薄質、白色、長い卵形、後端は細く開き、殻表は平滑。殻長 90 mm。北海道以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川河口、布引、片男波、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、田辺湾奥部に分布。



**選定理由** 和歌山県では田辺湾奥部ではアマモ場の泥砂底に生息が確認される。また、江上川では潮間帯下部から幼個体 1 例が採集されているが、個体数は少ない。なお、他地域で福岡県和白干潟や江戸川河口 (千葉県) では普通に見られ、食用の対象種である。

執筆者 (江川和文)

- 参考文献・情報**
- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物. 47 (1) : 45-50.
  - 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 3 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (I). 南紀生物, 46 : 31-36.
  - 4 木村昭一・山下博由. 2012. オオノガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 167. 東海大学出版会, 秦野.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2005. 江上川 (和歌山県有田郡広川町) 河口汽水域の貝類. かきつばた, 31 : 1-7.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 8 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 写真: 池辺進一標本

クシケマスオガイ *Cryptomya elliptica* (A. Adams, 1851) マルスダレガイ目 オオノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

内湾の干潟から水深 30 m に生息。アナジャコ類の巣穴を利用してることが知られている。貝殻は薄質、白色、長円形、殻表に細かい放射肋を持ち、後端は開く。殻長 20 mm。伊勢湾以南、九州、インド・太平洋、紅海に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、

選定理由

名草ノ浜、串本町和深、那智勝浦町湯川に分布。  
和歌山県では、名草ノ浜など細砂海岸で新鮮な合弁個体を確認しているが、個体数は少なく、生貝の確認例は不明である。近隣地域でも、三重県では記述がなく、愛知県では 1980 年代に大量に打ち上げがあったが、1990 年代に激減した。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 木村昭一. 2012. クシケマスオガイ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 166. 東海大学出版会, 秦野.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1): 134-139.
  - 5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1): 69-74.
- 写真: 三長秀男提供

バラフマテ *Solen roseomaculatus* Pilsbry, 1901 マルスダレガイ目 マテガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

潮間帯下部から潮下帯に生息。貝殻は長く伸びた長方形、背中側に反る。殻長 50 mm。房総・能登半島以南、中国大陸、台湾、アフリカ東岸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

選定理由

和歌山県では、近年、名草ノ浜からの死殻のみが採集された。現在まで他の産地での確認はない。近隣地域では、大阪湾南部の男里海岸で 2004 年に最初に確認され、三重県では伊勢湾湾口で死殻半片が確認されたが、生貝の採集例はない。また、愛知県でも近年、生貝の採集例はない。



執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. バラフマテ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 170. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 4 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1): 134-139.
- 写真: 三長秀男提供

リュウキュウマテ *Solen sloanii* Hanley, 1843 マルスダレガイ目 マテガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

潮通しのよいアマモ場で水深 20 m 付近までの細砂や砂礫底に生息。貝殻はマテガイより太短く、直線的な筒形、殻表に小斑点が散在する。殻長 80 mm。串本町潮岬周辺、高知県土佐沖ノ島以南、南



選定理由 西諸島に分布。

和歌山県では、串本町のみが確認地である。本種は南西諸島以南が主生息地で、和歌山県での産出は土佐沖ノ島と同様、偶因分布に近いものと見られる。主生息域では、造成工事等で生息地や個体数が激減しており、今後、和歌山県内にも影響があると見られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 久保弘文. 2012. リュウキュウマテ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 170. 東海大学出版会, 秦野.  
写真: 田中真人提供

ヤマトシジミ *Corbicula japonica* Prime, 1864 マルスダレガイ目 シジミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

汽水湖、河口汽水域では緩い流水中の砂礫底、砂泥底に生息。貝殻は丸みを帯びた三角形、殻頂は高まり、黒色の光沢を帯びた殻皮を持つ。殻長 40 mm。北海道北部以南、九州に分布。



選定理由

和歌山県では紀の川河口、有田川、日高川河口、富田川で生息を確認されている。紀の川では紀の川大堰南岸から北島橋上流間、また、日高川では南岸の北島の東に位置する水路に生息が見られる。ともに春の大潮時期には地元の人々による採捕が行われる。古来、食用貝として知られる。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 福田 宏・木村昭一. 2012. ヤマトシジミ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). 138. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 中本博之・土岐頼三郎・江川和文. 2005. 日高川河口周辺で観察した貝類. くろしお, (24) : 44-46.
- 野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義. 2002. 有田川河口汽水域の大型底生動物相. 南紀生物, 44 (2) : 115-121.
- 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 和田恵次. 私信.  
写真: 和田恵次提供

トゲトゲツボ Tornidae gen. & sp. A 新生腹足目 イソコハクガイ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)
--------	-----------	----	------	---	---	-----------

砂泥干潟表層の水深 5~20 cm のタイドプールのアオアオサ上に生息。貝殻は微小、極めて薄質、無色半透明、タマガイ状で臍孔は広い。殻高 1 mm。宮城県万石浦、三重県志摩市英虞湾、和歌浦に分布。

選定理由

和歌山県では和歌浦が唯一の産地で、以降、再確認例はない。科名以外 (イソコハクガイ科) は不明、今後、属名、種名の検討の必要がある。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 福田 宏. 2012. トゲトゲツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 44. 東海大学出版会, 秦野.

**チクチクツボ** Tornidae gen. & sp. B **新生腹足目 イソコハクガイ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)
--------	-----------	----	------	---	---	-----------

砂泥質干潟表層面の水深 5~20 cm のタイドプールのアオアオサ上に生息。貝殻はトゲトゲツボに近似し、殻表に細い明瞭なジグザグの螺脈をめぐらす。殻高 1 mm。

**選定理由** 和歌山県では和歌浦が唯一の産地で、以降、再確認例はない。科名以外（イソコハクガイ科）他は不明で、今後、属名、種名の検討の必要がある。

執筆者（江川和文）

**参考文献・情報** 1 福田 宏. 2012. チクチクツボ 干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）. p. 44. 東海大学出版会, 秦野.

**ヒガタヨコイトカケギリ** *Cingulina* sp. (Dunker, 1860) **汎有肺目 トウガタガイ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)
--------	-----------	----	------	---	---	-----------

内湾や河口干潟に生息。海産種のヨコイトカケギリに酷似する。貝殻の形状からの区分は困難で、動物体の形状で種の差異が判別される。ヨコイトカケギリが海岸の岩磯潮間帯下の砂泥底に生息するのに対し、本種は内湾干潟域に見られる。殻高 8 mm。

**選定理由** 陸奥湾から九州に分布。

和歌山県では和歌川河口での記録が最初で、唯一である。動物体の形状以外、貝殻に差異は少ないことから、将来、新たな産出記録があると考えられる。



執筆者（江川和文）

**参考文献・情報** 1 福田 宏. 2012. ヒガタヨコイトカケギリ 干潟の絶滅危惧種図鑑（日本ベントス学会編）. p. 84. 東海大学出版会, 秦野.  
2 三長秀男. 2004. 和歌浦の干潟の生物観察会に参加して. かたをなみ, 2:7-35.  
3 三長秀男・三長孝輔. 2017. 和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況. かきつばた, 42:16-23.  
4 三浦知之. 2008. 干潟の生きもの図鑑. 198pp. 南方新社, 鹿児島.  
写真: 三長秀男提供

**ハベキビ** *Parakaliella habei* (Kuroda, 1944) **汎有肺目 シタラ科**

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-----------	----	------	-----------	---	---

田辺湾神島産で記載されたハリマキビ属の種で、他地域からの報告の少ない。学名・和名の「ハベ」は波部忠重に献名されているが、今後、更に生殖器を明らかにする必要がある。

貝殻は微小（殻長 1.9 mm、殻径 2.7 mm）、円錐形状。殻表は絹光沢で、体層の周縁は明瞭である。

**選定理由**

和歌山県田辺市神島その他、串本町田子・双島からの死殻が確認されているものの、他の地域からの情報は全くなく、情報不足である。

本種の所属は類似種の解剖によって、ハリマキビ属 *Parakaliella* が創設されて、所属はここに変更されたが、解剖知見が未見のために再検討が必要である。

執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報** 1 波部忠重・稲葉明彦. 1996. ハベキビガイ. 西宮市所蔵 黒田徳米博士記載貝類模式標本目録. 38. pl. 26. 西宮.





参考文献  
・情報

- 黒田徳米. 1944. 田辺湾神島産陸貝. Venus, 13 (5-8) : 313-316.
  - 湊 宏. 1988. 田辺湾神島の陸産貝類. 神島の生物 (和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書). 49-52 pp. 田辺市教育委員会, 田辺.
  - 湊 宏. 2005. 双島 (申本町) の陸産貝類, 特にミジンマイマイ類の分類について. 南紀生物, 47 (1) : 37-42.
- 写真: 西宮市 (1996) 典拠

キイキビ <i>Trochochlamys kiiensis</i> (Azuma, 1960) 汎有肺目 シタラ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	情報不足 (DD)

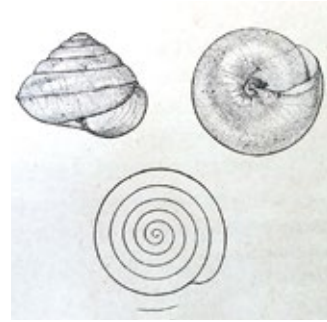
選定理由

本種は原記載時 (東, 1960) にはキイヒメベッコウと称されていたが、その後の検討によってカサキビ属に所属が変更された。個体数の少ない種で生殖器の検討等、研究の課題が残されている種である。

貝殻の小形 (殻径 5 mm 前後) で、円錐形状を呈し、体層周縁の角は鋭くて明瞭である。

模式産地は新宮市熊野川町田戸 (瀬八丁) であるが、紀伊山地の山岳地帯に広く生息していると考えられる。夏季に樹上採集で微小な昆虫とともに採集される時がある

学名と和名に「キイ」を冠している本種は、紀伊山地の固有種である。今後において生殖器の検討等、課題は多い。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 東 正雄. 1960. 北山峡陸産貝類について. Venus, 21 (1) : 4-10.
  - 東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 169. 302pp. 保育社, 大阪.
- 写真: 東 (1960) 典拠

ナガタネガイ <i>Columella edentula</i> (Draparnaud, 1805) 汎有肺目 キバサナギガイ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

選定理由

北方系の種類であるが、本県では高野山でしか生息が確認されていない。標高の高い地域に残存的に生息している種類であること、微小種であることで生息を確認することが難しい。

貝殻は微小 (殻長 2.5~3 mm、殻径 1.5 mm)、円筒形状、6 層。殻表は光沢があり、黄褐色を呈する。殻口縁は薄くて鋭い。殻口内には歯を欠く。臍孔は狭い。

わが国では北海道、本州の高山地帯に分布。一部は本州を南下して分布するが、本州では中国地方の大山を西限として記録がある。北海道~本州北部に分布する種であるが、和歌山県では高野山の標高の高い地域しか、生息が確認されていない。

執筆者 (湊 宏)



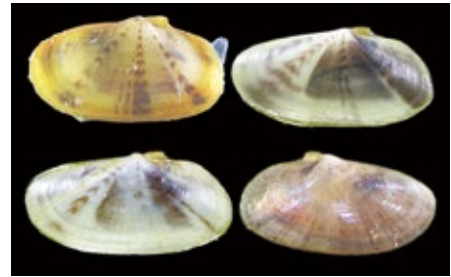
参考文献  
・情報

- 湊 宏. 2005. 日本産陸棲貝類の分布資料 4, キバサナギガイ科: ナガタネガイ. しぶきつば, (25) : 5-9.
  - 湊 宏・中島良典. 2014. 大山周辺地域 (鳥取県・岡山県) を中心とするナガタネガイの分布西限記録とその生息状況. ちりばたん, 45 (2) : 72-77.
  - 上島 励. 2014. 東北地方以南のナガタネガイ. レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 貝類. 434pp. ぎょうせい, 東京.
- 写真: 湊・中島 (2014) 典拠

アシベマスオ <i>Hiatula petalina</i> (Deshayes, 1885) マルスダレガイ目 シオサザナミ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)

選定理由

内湾奥部の干潟で、細砂底、砂泥底に生息。貝殻はオチバガイに近似するが、小型、薄質、色彩は白色から紫褐色で、更に放射帯を持つ個体等、変異に富む。殻長 20 mm。紀伊半島、豊後水道北部、九州西岸以南、北オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、名草ノ浜、有田市河口、広川町西広海岸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。



本種は、1980年代頃から不明種とされていた種で、和歌山県でも2003年に和歌川河口南岸で多産が確認された。国内の既知種に該当はなく、オーストラリア北岸を模式産地とする一種であることが確認され、赤人の万葉歌をもとに和名が新称された。その後、西日本各地から産地が確認されるが、個体数が時期により一定しないため、注視を要する。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
  - 2 福田 宏. 2012. アシベマスオ 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 135. 東海大学出版会, 秦野.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7 : 1-9.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 7 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2) : 153-158.
  - 8 野田圭典. 2001. 日本におけるアシベマスオガイ (新称) の生息分布記録. ちりばたん, 31 (4) : 91-97.
  - 9 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
  - 10 土岐頼三郎・野田圭典. 2004. 和歌山県におけるアシベマスオの現状 (軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミ科). 南紀生物, 46 (2) : 152-153.
- 写真：三長秀男提供

貝類

コハギガイ (ガタツキ) <i>Artritica reikoe</i> (Suzuki & Kosuge, 2010) イガイ目 ウロコガイ科						
県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	情報不足 (DD)

選定理由

内湾河口域の砂泥干潟底に生息。貝殻は微小、殻表は平滑で多くは硫化鉄に覆われる。殻長 1.5 mm。東京湾奥江戸川河口、陸奥湾、多摩川河口、伊勢湾、瀬戸内海西部、種子島、西表島等に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川河口 (和歌浦湾)、名草ノ浜に分布。



和歌山県では和歌山市周辺の河口域に見られる。国内最初の確認地が和歌浦湾で、産出状況が 1 m 四方に 3 万個体以上という異常なものであった。当初、外来種の可能性も懸念されたが、江戸川河口を模式産地に新種記載された。その後、和歌浦湾から高密度の生息はなく、紀の川河口岸から多数個体が確認されていたが、2008 年以降、激減した。これは同所的に多産していたウミゴマツボ、カワグチツボも姿を消していることから、河底の浚渫等で生息域が除去された可能性がある。

執筆者 (江川和文)

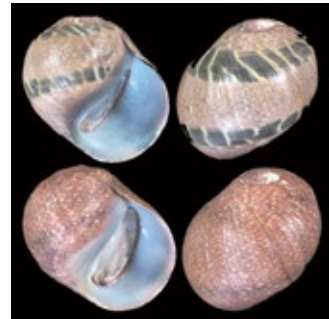
参考文献  
・情報

- 1 福田 宏. 2012. ガタツキ (コハギガイ) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 (日本ベントス学会編). p. 154. 東海大学出版会, 秦野.
  - 2 平井 肇. 1982. 和歌浦産新種二枚貝の個体群動態 昭和 56 年度研究発表要旨. 南紀生物, 24 (1) : 71.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.
  - 4 Suzuki, T. & Kosuge, S. 2010. Description of a new species of Laseana reikoa Suzuki & Kosuge, from estuary area of Edogawa River, Tokyo Bay (Bivalvia, Erycinidae). Bulletin of the Institute of Malacology, Tokyo. 3 (10) : 147-148 pls. 46-47.
  - 5 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市紀の川河口域の貝類相 (補遺). 南紀生物, 53 (1) : 91-94.
  - 6 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2015. 和歌山市紀の川産コハギガイについて. くろしお, (34) : 43-46.
- 写真：三長秀男提供 (江川和文採集)

カノコガイ	<i>Clithon faba</i> (Sowerby, 1836)	新生腹足目	アマオブネガイ科			
県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-

選定理由

河口の汽水域に生息する種で、貝殻はほぼ球形、貝殻の模様は変異が大きく、太い縦縞模様から多数の微小な白い三角斑を持つ個体まであり、後者は一見、同所的に生息するイシマキガイに酷似する。殻高 10 mm。紀伊半島以南に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川河口 (和歌浦)、名草ノ浜、海南市琴ノ浦、有田市、有田郡広川町江上川、御坊市日高川、田辺湾奥部、那智勝浦町ゆかし潟、湯川に分布。



和歌山県では現在、各地から確認される種であるが、かつて県内での産出は疑問視され、九州以北での本種の記録はイシマキガイの誤認ではとの指摘もあった。和歌山県内での確実な産出例は紀の川河口各地での記録で、現地で多数の個体が確認されており、以後、県内各地から記録されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 46 (2) : 167-172.
  - 2 福田 宏. 1996. WWF サイエンスレポート, 3. (6) 軟体動物 腹足綱. 11-52pls. 1-11pp.
  - 3 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 4 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1) : 7-12.
  - 5 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1). 南紀生物, 46 (1) : 31-36.
  - 6 小菅丈治・野田圭典. 2000. カノコガイの生息環境Ⅱ 和歌山県紀の川からの産出と異なる地域間での生息場所の比較. 南紀生物, 42 (2) : 105-108.
  - 7 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生物, 50 (1) : 91-95.
  - 8 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32 : 1-14.
  - 9 中本博之・野田圭典・土岐頼三郎・江川和文. 2003. 江須崎で観察した貝類. くろしお, (22) : 43-49.
  - 10 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 11 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2005. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 1 腹足綱. 南紀生物, 47 (2) : 191-196.
- 写真：三長秀男提供

ハナガスマカノコ *Clithon chlorostoma* (Broderipi, 1832) 新生腹足目 アマオブネガイ科

県カテゴリ	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
-------	------------	----	------	---	---	---

内湾干潟、河口域に生息。貝殻は小型、堅固、縫合がくびれ螺層が高まり、殻表は平滑で、微小な三角形の斑紋をめぐらす。殻高 10 mm。紀伊半島以南に分布。和歌山県内では広川町小浦、西広海岸、白浜町西谷・稼谷・見草・笠浦・中芝に分布。

**選定理由** 従来、九州以南が主な分布域の種で、近年、四国、紀伊半島まで分布域が北上した種である。和歌山県内では、汽水域の潮間帯の転石上で多数見られる。確認時期は 1998 年から 2000 年の一時期であることから、偶因分布の可能性もある。



執筆者 (江川和文)

**参考文献  
・情報**

- 1 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生物, 50 (1): 91-95.
  - 2 三長秀男・三長孝輔. 2004. 和歌山県におけるハナガスマカノコの採集記録. 南紀生物, 46 (1): 23-24.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2006. 和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類. かたをなみ, 3: 12-23.
- 写真: 三長秀男提供

コオロギガイ (コベルトカニモリ) *Cerithium dialaecum* Philippi, 1849 新生腹足目 オニノツノガイ科

県カテゴリ	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
-------	------------	----	------	---	---	---

内湾干潟や岩礁域の潮間帯の生息種。貝殻は堅固、細長い円錐形で暗褐色から黄色、殻表は縦張肋が不規則にあり、疣状突起をもつ。殻高 30 mm。房総半島・男鹿半島以南、熱帯インドー西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌浦湾、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町番所崎に分布。

**選定理由** 本種は全国的に普通に見られる種で、県北部では和歌浦湾から生貝が、県中部では田辺湾奥部で安定した個体群が確認されている。ただ、本種は環境省の絶滅危惧種カテゴリーの対象外で、愛知県カテゴリーでも 2009 年には対象外であった。その後、2020 年の改定版では、1980 年から 2000 年にかけて生貝が確認されないことから、準絶滅危惧種に変更されている。



執筆者 (江川和文)

**参考文献  
・情報**

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 木村昭一. 2009. 愛知県の絶滅のおそれがある野生生物. レッドデータブックあいち 2009. 貝類. 456-606pp. 名古屋.
  - 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 -動物編-. (8) 貝類. 489-726. 名古屋.
  - 4 久保田 信・小山安生. 2002. 番所崎、特に“北浜” (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録 (1). 南紀生物, 44 (1): 69-76.
  - 5 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2: 12-35.
  - 6 三長孝輔・三長秀男. 2006. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. かきつばた, 32: 1-14.
- 写真: 三長秀男提供



カニモリガイ *Rhinoclavis koch* (Philippi, 1848) 新生腹足目 オニノツノガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

潮間帯から水深 62 m の細砂底に生息。貝殻は堅固、細長く、殻表には光沢を帯び、顆粒列を持つ多数の螺肋をめぐらす。殻高 40 mm。房総半島・男鹿半島以南、インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、広川町西広、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町番所崎、畠島に分布。

和歌山県ではかつて、細砂海岸に普通に見られた貝で、現在も各地で確認されている。しかし、本種は生息状況の消長が顕著で、相模湾では消滅寸前にランクされ、愛知県では 1990~2000 年の 10 年間、生貝が確認できない時期が示されている。



執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 久保田 信・小山安生. 2002. 番所崎、特に“北浜” (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録 (1). 南紀生物, 44 (1) : 69-76.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
  - 4 三長秀男・三長孝輔. 2004. 上祓井戸の浜 (和歌山県御坊市名田町野島) の貝類 (1). かたをなみ, 2 : 12-35.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田 圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
- 写真：三長秀男提供

ヒメカニモリ *Rhinoclavis sordidula* (Gould, 1849) 新生腹足目 オニノツノガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

細砂底の潮下帯で水深 44 m までに生息。貝殻は細長く、堅固、殻表は細い螺肋と縦肋が交差し顆粒状となる。殻高 25 mm。相模湾・能登半島以南、熱帯太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代に造成工事で消滅）、名草ノ浜、和歌浦湾（野田）、田辺市田辺湾に分布。

和歌山県では名草ノ浜で確認されており、当時、産出は少数例であったが、特に稀な種との認識はなかった。また、かつて田辺湾の生物相調査では最優占種でもあったが、原因不明なまま激減し、確認個体のほとんどが死殻で、ホシムシ類の棲家となっていた。現在、田辺湾では本種は確認されていない。近隣地域（三重県、愛知県、岡山県）でも記録されず、愛媛県では絶滅とされる。



執筆者 (江川和文)

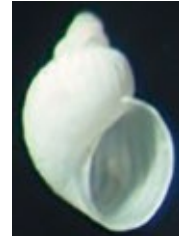
参考文献・情報

- 1 波部忠重. 1949. 田辺湾の底棲動物群聚 貝類遺骸の堆積. 日本水産学会誌, 15 (5) : 238-244.
  - 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 1. 南紀生物, 48 (1) : 21-26.
  - 3 大迫俊一. 2010. 浅海生物相の長期変動—紀州田辺湾の自然史. 136pp. 南紀沿岸生態研究室, 田辺.
- 写真：三長秀男提供

ヒナツボ *Berthais egregia* (A. Adams, 1863) 新生腹足目 シロネズミ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾の水深 40 m の砂底に生息。貝殻は微小、白色、薄質、高い紡錘形、臍孔は閉じる。殻高 4 mm。伊豆半島から九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、片男波、有田市初島に分布。



**選定理由** 本種は、幕末期に来航した英国海軍測量船により採集・記載された種で、原記載は記載文のみである。後年、模式標本が図示され、種の概要が明らかになった。和歌山県では和歌山市の 3 地点、有田市の 1 地点から死殻のみが確認されたが、個体数は少ない。近隣地域では、大阪湾南部の細砂底から 3 例が、また、愛知県では、名古屋港のサンドポンプからの 1 個体が確認されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 Adams, A. 1863. On Microstelma and Onoba, two forms of rissoid gastropods; with latter from Japan. *Annals and Magazine of Natural History, Series 3*. 11 (65) : 350-351.
  - 2 波部忠重. 1978. ヒナツボ (雛小螺) *Berthais egregia* (A. Adams, 1863). *ちりばたん*, 10 (2) : 26. pl. 8.
  - 3 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. *かたをなみ*, 6 : 4-9.
  - 4 河合秀高. 2009. 名古屋港のサンドポンプで得られた貝. *かきつばた*, 34 : 20.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. *南紀生物*, 48 (2) : 159-164.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2011. 和歌山市加太周辺の貝類相 II. *南紀生物*, 53 (2) : 155-160.
  - 7 岡村親一郎・児島 格. 1984. 大阪湾の貝類 (予報). *南紀生物*, 26 (1) : 42-44.
  - 8 岡村親一郎・児島 格. 1985. 大阪湾の貝類相 II 掘足類・巻貝類の生息記録 (その 1). *南紀生物*, 27 (1) : 47-51.
- 写真：江川和文撮影

ナガエンドウガイ *Amamiconcha okamotoi* Habe, 1962 新生腹足目 シロネズミ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

生態不明、水深 100 m 以浅の砂底に生息すると見られる。貝殻は薄質で脆く、淡褐色半透明から濃褐色、殻表はほぼ平滑で多数の微細な螺状脈をめぐらす。殻高 10 mm。紀伊半島・若狭湾以西、九州まで分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、みなべ町堺、那智勝浦町宇久井に分布。



**選定理由** 和歌山県での確認個体は死殻のみで非常に稀、産地も 3 地点のみである。模式標本自体、螺塔の欠損した破損個体である。国内での確認例は模式産地の福岡県津屋崎海岸の他、近隣地域では伊勢湾答志島から不明種 (*Amamiconcha* sp.) として本種が記録された例がある。

執筆者 (江川和文)

参考文献・情報

- 1 松本幸雄. 1977. 伊勢湾答志島のキス網の貝類. *ちりばたん*, 9 (5) : 91-92, Pl. 10.
  - 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山市名草浜の貝類 2. *南紀生物*, 48 (2) : 159-164.
  - 3 野田圭典・江川和文. 1990. 和歌山市名草浜産ナガエンドウガイについて. *くろしお*, (8) : 18.
- 写真：中本・土岐・野田・江川 (2006) 典拠

ヒメヤカタ *Hydatina zonata* (Lightfoot, 1786) 低位異鰓目 ミスガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾や河口域、海域の潮間帯から水深 50 m の細砂底に生息。貝殻は薄質、球形、殻表には 2 本の幅広い淡黄褐色螺帯を持つ。殻高 25 mm。房総半島以南、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では有田市河口、田辺市新庄町に分布。



和歌山県では 2 地点から確認され、個体数は非常に少なく、生貝は新庄町のみで見られた。他に、有田川河口での確認個体は全て新鮮な死殻である。主生息域が熱帯インド・西太平洋であり、和歌山県産個体は偶因分布の一例かも知れない。本種は

選定理由

Dunker (1882) の図譜で最初に Wakayama の地名が記録された種でもある。本種は当時のドイツの貝類雑誌に寄稿され、これには表題の「日本」以外、産地の記述や謝辞はない。一方、図譜の方には協力者への謝辞が掲げられ、この中に J. Rein の名があった。彼は維新後 2 年間、産業調査のために来日し、職務の傍ら、大量の動植物を採集した。幕末期の英国外交官 A. サトウの日記には、ドイツの Rein 訪問時、図譜の著者 Dunker との面談を記録している。

執筆者 (江川和文)

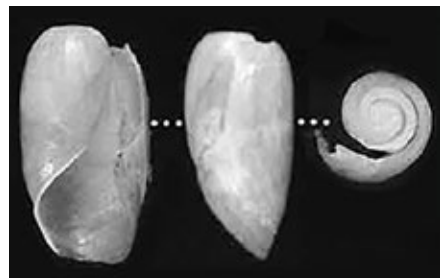
参考文献  
・情報

- 1 Dunker, W. 1877. Mollusca nonnulla nova maris Japonici. Malakozoologische Blätter, 24 : 67-75.
- 2 Dunker, W. 1882. Index Molluscorum Maris Japonici. 301pp. 16 pls. Sumptibus Theodori Fisher, Kassel.
- 3 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 (II). かきつばた, (40) : 2-16. 写真: 三長秀男提供

ウツセミガイ *Akera soluta* (Gmelin, 1791) 真後鰓目 ウツセミガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾から外洋にかけての藻場、アマモ場周辺、潮下帯の砂泥底に生息。貝殻は薄質で脆く、樽形、淡黄褐色、縫合部は深く切れ込み、蓋はない。殻高 40 mm。房総半島以南、インド洋、オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事により消滅)、名草ノ浜、広川町西広海岸に分布。



和歌山県では、かつて水軒浜 (造成工事により消滅) で普通に見られた種である。1999 年、約 40 年ぶりに名草ノ浜に 28 例の動物体残存

選定理由

個体が確認され、この個体を基に歯舌の顕微鏡観察、動物体を観察した。環境省のカテゴリーに含まれないが、愛知県では県内では死殻さえ確認できず、絶滅 (EX) と定義される。なお、本種は和歌山市を模式産地として新学名 *Akera constricta* が提唱された。原種 *A. soluta* に比べ、より小型で螺塔の隆起がないとの根拠であるが、1999 年の確認個体には高螺塔型と低螺塔型 (平巻形) が混在し、種内変異と見られる。なお、原記載は当時の図譜を参照して学名を提唱したのみと推察され、この個体が偶然、高螺塔型であったことに起因する。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 Gmelin, J. F. 1791. Caroli a Linne Systema naturae per regna tria naturae. Editio decima tertia. "Vermes", Vol.1 (6) : 3021-3910.
- 2 江川和文・土岐頼三郎. 2005. 和歌山市におけるウツセミガイの採集記録 (アメフラシ、ウツセミガイ科). 南紀生物, 47 (2) : 170-172.
- 3 黒田徳米. 1947. うつせみがひ (みなはがひ) 改訂増補 日本動物図鑑. 1085pp. 北隆館, 東京. 写真: 江川・土岐 (2005) 典拠 (土岐頼三郎採集)

**ウズマキセワタ** *Nakamigawaia spiralis* Kuroda & Habe, 1961 真後總目 カノキセワタ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

アマモ場から水深 30 m の砂礫中に生息。貝殻は白色 2~3 回転の平巻で、一見、蚊取り線香を連想させる。本州、九州に分布。

和歌山県では加太から 2 個体を確認、個体数は非常に少なく、砂礫中に死殻のみが採集される。近隣地域に生息例はない。

執筆者 (江川和文)



参考文献  
・情報

1 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 V. 南紀生物, 55 (1) : 73-78.

写真: 江川和文撮影

**ホラアナミジンナ** *Moria nipponica* Mori, 1937 新生腹足目 ヌマツボ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

選定理由

洞窟や溪流等に生息するが、和歌山県では溪流から確認され、亜種 *B. (M.) n. minatoi* Habe, 1965 として記載された。

貝殻は微小 (殻高 1.5 mm)、黄白色、和歌山県の亜種は基亜種に比べてやや大きいので識別されたが、今では基亜種のシノニムとされ、現在に至っている。

和歌山県内では、富田川の支流・白浜町高瀬川の奥地 (タニガワミジンナの模式産地)、田辺市深谷、五味、富里、有田川町上湯川で記録されている。山間地の小さな流れや湿地のコケの間 (石の裏) 等に棲息している。

ヒコサンミジンナのように、本種は紀伊半島の溪流で初めて採取された記念すべき微小淡水貝である。

執筆者 (池辺進一)



参考文献  
・情報

1 波部忠重. 1965. 微小淡水産貝類 1 新種 1 新亜種. Venus, 23 (4) : 205-209.

2 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水 貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.

3 湊 宏・中 優・中野 環. 2017. ホラアナミジンナが対馬島南部 (長崎県) に生息する. ちりばたん, 47 (1-4) : 80-87.

写真: 湊・中・中野 (2017) 典拠

**イノウエヤマトガイ** *Japonia inouei* Kuroda & Habe, 1961 原始紐舌目 ヤマトニシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

選定理由

ヤマトガイ属の中で、スプーン状の殻皮付属物を持つこと、本県では分布域が広いにも関わらず、その生息密度が極めて低いことで稀産種に数えることができる。

貝殻は小形 (殻径 4~4.8 mm)、円錐形状で螺層は 6 層。体層では殻皮質の板状壁が走り、その周縁に先端が広がったスプーン状の殻皮付属物を 2 列めぐらす。

模式産地は県境の大阪府阪南市山中溪だが、広く県内に生息する。個体数は多くはない。

執筆者 (湊 宏)



参考文献  
・情報

1 湊 宏. 1975. イノウエヤマトガイーその研究経過・形態・分布ー. 南紀生物, 17 (2) : 40-41.

2 湊 宏. 1985. 日本産ヤマトガイ属の 2 新種. Venus, 44 (2) : 81-86.

3 湊 宏. 2012. 陸産貝類研究備忘録 (10), 紀伊半島のイノウエヤマトガイとサドヤマトガイ. かいなかま, 46 (2) : 1-11.

写真: 湊 宏撮影



**キイゴマガイ** *Diplommatina kiiensis* Pilsbry, 1902 原始紐舌目 ゴマガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

豊かな自然環境を持つ森林に生息している「キイ」を冠する本県を代表する微小なゴマガイ科の陸貝で、模式産地は那智である。

貝殻は微小（殻高 3.3 mm）、円筒形状。螺層は 6.5 層、体層の内部にある腔壁は非常に長い。

那智を中心にして、九龍島（湊，2007）、紀伊大島（湊，2009）等の南紀の離島にも広く生息する。

和歌山県を代表するゴマガイ科貝類で、微小種だがこの仲間としては大きい。



執筆者（湊 宏）

- 参考文献・情報
- 1 早瀬善正. 2015. 三重県産キイゴマガイ及び近似種との比較. かきつばた, (40): 34-38.
  - 2 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2): 91-95.
  - 3 湊 宏. 1995. 那智山の陸産貝類. 南紀生物, 37 (2): 87-93.
- 写真: 早瀬 (2015) 典拠

**ソウジマミジンマイマイ** *Vallonia excentrica* Sterki, 1893 原始紐舌目 ミジンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

1965 年 10 月に串本町田子・双島からミンジンマイマイ類 *Vallonia excentrica* Sterki, 1893 が確認され、ソウジマミジンマイマイと新称された。殻表の平滑な日本初のミジンマイマイである。

貝殻は微小（殻長 1 mm、殻径 2 mm）、殻質は薄質半透明、殻表の成長脈は極めて弱く、平滑である。殻は低平、螺層は 3~3.5 層。臍孔は開き、殻径の 1 / 3 を占める。

双島で初めて確認されたが、他の地域からは記録がない。

わが国ではミジンマイマイ科は 1 属 3 種が知られ、本県では他に殻表に明瞭な糸掛け状の成長脈をもつミジンマイマイが確認されて 2 種が記録されている。



執筆者（湊 宏）

- 参考文献・情報
- 1 湊 宏. 1970. *Vallonia* 属の日本未記録種ソウジマミジンマイマイ（新称）について. 南紀生物, 12 (1): 16.
- 写真: 湊 (2005) 典拠

**キイツムガタギセル** *Megalophaedusa pinguis infausta* (Pilsbry, 1868) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

タイプ産地は紀伊大島。1868 年に A. Adams が、大島で採集したキセルガイで、殻長、殻径とも極めて小形。その生殖器の盲管が異常に長いことで、本土側の別亜種（ツムガタギセル）とは明らかに相違を有する。

タイプ標本は殻長 13.2 mm、殻径 4.0 mm で、極めて小形。生殖器の盲管が本土側産のツムガタギセルとは著しく相違することが特徴。

大島でもその生息地域は狭い。大島固有の基亜種。

大島産の本基亜種・キイツムガタギセルは小形であること、生殖器の盲管が長いことを特徴とする。本土側の別亜種・ツムガタギセルは、殻長が長く、しかも生殖器の形態が若干相違するからこれとは容易に識別される（湊，2009）。



執筆者（湊 宏）

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米. 1941. 紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類. 貝類雑誌 (Venus), 10 (3/4) : 157-166.
- 2 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, Supplement 2. 1-212 + tab 5 + pls. 74.
- 3 湊 宏. 2009. 大島 (和歌山県) の陸産貝類. 南紀生物, 51 (1) : 26-32.  
写真: 湊 (2009) 典拠

コハゲギセル <i>Megalophaedusa attrita infausta</i> (Pilsbry, 1902) 有肺類 キセルガイ科						
県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-

基亜種であるハゲギセル *M. attrita attrita* に近似するが、貝殻と生殖器の形態等から識別される。模式産地は那智で、紀伊半島南部の固有亜種。

貝殻は中形 (殻長 23~31 mm)、基亜種に比べて小形であること、殻口の唇縁に下軸板  
選定理由 が出現しないことで異なる。

紀伊半島南部に広く分布する。基亜種に比べて小形で、紀伊半島の南部で分化した亜種である。串本町産として記載されたカンダギセルは本亜種のシノニム (異名) である。

執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.

コスジギセル <i>Megalophaedusa plicilabris</i> (A. Adams, 1868) 汎有肺目 キセルガイ科						
県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	準絶滅危惧 (NT)

模式産地の田辺湾神島から記載された種である。神島では比較的多く生息するが、他の地域では個体数は少ない。

貝殻は小形~中形 (殻長 14~16 mm)、紡錘形状。和名のごとく、殻表の成長脈は顕著で淡黄褐色を呈する。上・下腔壁は月状壁と連結して「エ」字形となる。  
選定理由

田辺市、白浜町等、和歌山県内的には点々と分布しているが、タイプ産地以外では個体数は多くはない。

Adams の東洋航海の時に採集された種で、現在では国の天然記念物に指定されている田辺湾神島が模式産地である。



執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米. 1944. 田辺湾神島産陸貝. Venus, 13. (5-8) : 313-316.
- 2 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
- 3 湊 宏. 1988. 田辺湾神島の陸産貝類. 神島の生物 (和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書) 49-52. 田辺市教育委員会, 田辺.
- 4 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, supplement 2, pl. 9.  
写真: 湊 (1994) 典拠

ジェイギセル <i>Megalophaedusa proba</i> (A. Adams, 1868) 汎有肺目 キセルガイ科						
県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-

タイプ産地は紀伊大島。本種は腔壁に変異性がり、典型的な型 (基本型) は大島に分布する。夏季には樹に登る習性がある。

貝殻は小形 (殻長 12~16 mm)、紡錘形状で光沢のある黄褐色から褐色を呈する。貝殻の内部に主壁の下に、2~3 個の腔壁がそれぞれ並行して並ぶ。しかし、腔壁の変異が著しい。  
選定理由

近畿南部に分布する。生息地は限定される。紀南地方では海岸地域の樹林に生息する。



ジェイとは Adams の友人で、Jay, J. C (1808-1891) を記念している。紀南地方の代表的なキセルガイ科貝類である。

執筆者 (湊 宏)

- 参考文献・情報
- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
  - 2 湊 宏. 2009. 大島 (和歌山県) の陸産貝類. 南紀生物, 51 (1) : 24-32.
  - 3 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, supplement 2, pl. 9. 写真: 湊 (1994) 典拠

**シロバリギセル *Megalophaedusa stenospira* (A. Adams, 1868) 汎有肺目 キセルガイ科**

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

タイプ産地が紀伊大島で、紀伊半島に広く分布するが、それぞれの生息地では生息密度が低い上に、個体数が極めて少ない。

貝殻は小形 (殻長 14~20 mm)、円筒形状で堅固。殻表に極微細な成長脈をめぐらすが、大半の個体では礫等で摩耗していることが多い。上腔壁と月状壁が連結する。

紀伊半島に広く分布するものの、生息密度は低く、個体数も少ない。Adams が紀伊大島の立ち寄った際に採集された種で、礫交じりの林床で落ち葉の堆積中に生息する。



執筆者 (湊 宏)

- 参考文献・情報
- 1 黒田徳米. 1941. 紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類. 貝類雑誌 (Venus), 10 (3・4) : 157-166.
  - 2 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, supplement 2, pl. 9, pl. 12.
  - 3 湊 宏. 2009. 大島 (和歌山県) の陸産貝類. 南紀生物, 51 (1) : 24-32. 写真: 湊 (1994) 典拠

**カギヒダギセル *Megalophaedusa pilsbryi* (Nordsieck, 1997) 汎有肺目 キセルガイ科**

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

田辺市富里をタイプ産地とする本種は、本県の山地に生息する代表的なキセルガイ。貝殻の内部には月状壁を有する。

貝殻は腹太で紡錘形状、堅固、中形 (殻長 24~26 mm)。殻表は新鮮な個体では淡黄褐色で光沢があるが、普通は殻表が剥げ落ちていることが多い。

和歌山県を中心とする山岳地帯のブナ帯に分布。護摩壇山系、大塔山系、那智山系等に生息する。

ブナ帯の林床等に生息する。主として倒木や朽ち木に依存している。朽ち木等の堆積が好条件である。かつての種名は *heteroptyx* だったが、この学名は先取されていたために、1997 年に改名された。



執筆者 (湊 宏)

- 参考文献・情報
- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
  - 2 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, supplement 2, pl. 12.
  - 3 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 249. 世界文化社, 東京.
  - 4 湊 宏. 2009. 陸産貝類研究備忘録 (3), “紀伊富里”のミツクリギセルとその他の4種. かいなかま, 43 (1) : 23-33. 写真: 湊 (1994) 典拠

**イトカケギセル** *Stereophaedusa goniopoma* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

和歌山県由良町を模式産地とする本種は、同町の白崎石灰岩地に特に多産したが、石灰岩の採掘等により生息環境が変化してきている。

貝殻は中形（殻長 20 mm）、淡黄褐色の殻表に糸掛け状の縦肋が顕著である。やや短い主壁の下に上・下の腔壁があり、上腔壁の方が多少は長い。



和歌山県北西部の海岸地帯（御坊市亀山、美浜町松原、由良町白崎、有田市宮崎ノ鼻、和歌山城）等に点々と分布している。産地によっては個体数が多い。

ナミギセルにも類似するが、殻表の際立った縦肋を有する。多産した白崎石灰岩地帯では石灰岩の採掘により、生息環境が悪化したが、和歌山県を代表する陸産貝類である。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 251. 世界文化社, 東京.
- 写真: 湊 宏撮影

**オオヒラベッコウ** *Bekkochlamys dulcis* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 ベッコウマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------

和歌山県を代表する中形のベッコウマイマイ科貝類で、タイプ産地は那智勝浦町。湿った森林の林床に生息し、生きた個体は極めて少ない。

貝殻は薄くて低平、中形（殻径 15 mm）、黄褐色を呈し、殻表は光沢がある。殻口縁は単純で肥厚せずに薄い。臍孔は狭く開く。



和歌山県南部の湿潤な森林地帯の林床に生息し、朽ち木や落ち葉堆積中に生息する。

ベッコウマイマイ科の中では中形の本種は、もともと個体数の少ない種で、特に生きた個体は滅多に取れない。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

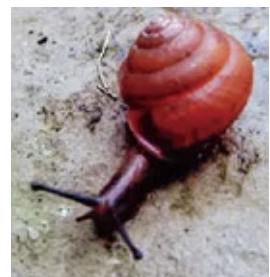
- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2) : 91-95.
- 写真: 湊 宏撮影

**ムロマイマイ** *Satsuma japonica peculiaris* (A. Adams, 1868) 汎有肺目 ニッポンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

ニッポンマイマイの南紀における矮小型亜種。県南部の離島等 4~5 箇所から知られるのみで、分布域は狭い。模式産地は“Tanabe”とあるが、おそらくは田辺湾神島だと思われる。

貝殻は小形（殻径 17 mm 前後）、円みをもった円錐形状を呈する。殻色は黄褐色で周縁に不規則な色帯を巡らす。臍孔は明らかに開く。



田辺市神島、みなべ町鹿島、すさみ町江須崎、白浜町瀬戸等に分布するが、他の分布地は少ない。

ニッポンマイマイは全国的に分布するが、南紀の個体群は小形で識別は容易である。

執筆者（湊 宏）

参考文献・情報

- 1 黒田徳米. 1944. 田辺湾神島産陸貝. Venus, 13 (5-8) : 313-316.
- 写真: 湊 宏撮影



**アラハダヒロベソマイマイ** *Aegista proba proba* (A. Adams, 1868) 汎有肺目 オナジマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

紀伊大島をタイプ産地とする固有基亜種で、地理的変異の多い本類としては基準となる基亜種として重要である。

**選定理由** 貝殻は中形（殻径 15 mm 前後）、低平な螺塔をもち、微細な鱗片状に殻表が覆われる。殻口唇縁は多少反曲する。臍孔は広く開く。  
和歌山県の南部を中心に分布するが、それぞれの分布地において個体数は多くはない。本類は地理的変異が著しく、分類はかなり難しい。  
本亜種は基亜種として分類上重要である。

執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報**

- 1 黒田徳米. 1941. 紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類. 貝類雑誌 (Venus), 10 (3・4): 157-166.
- 2 湊 宏. 2009. 大島 (和歌山県) の陸産貝類. 南紀生物, 51 (1): 24-32.

**キイオオベソマイマイ** *Aegista tumida cavata* (Pilsbry, 1902) 汎有肺目 オナジマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

基亜種はフチマルオオベソマイマイ *Aegista tumida tumida* (Gude, 1901) で、奈良県五條市をタイプ産地とするが、本亜種は紀南地方に生息する。基亜種との違いは殻口の唇縁の反曲した白色で肥厚していることで識別される。

**選定理由** 貝殻は中形（殻径 15 mm 前後）で、低い円錐形状。臍孔は広く開く。殻口唇縁は白色で肥厚して多少は外に向かって反曲する。



本亜種は「キイ」と冠されているように、和歌山県の南部地方に生息する。一方、基亜種は紀北地方から点々と分布が報告されている。礫混じりの落ち葉堆積中に生息する。

執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報**

- 1 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2): 91-95.
  - 2 湊 宏. 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類, p. 263. 世界文化社, 東京.
  - 3 湊 宏. 2009. “紀伊富里”のミツクリギセルとその他の4種. かいなかま, 43 (1): 23-33.
  - 4 湊 宏. 2009. 大島 (和歌山県) の陸産貝類. 南紀生物, 51 (1): 24-32.
- 写真: 湊 宏標本

**タシナミオトメマイマイ** *Aegista collinsoni collinsoni* (A. Adams, 1868) 汎有肺目 オナジマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

串本町“田子”をタイプ産地とする体層に褐色帯を巡らす美しい種。比較的に関西和歌山県南部の海岸地帯に生息し、樹幹に登る習性がある。

**選定理由** 貝殻は比較的の小形（殻径 10~12 mm）、円みをおびた円錐形状。殻口唇縁は反曲する。体層周縁の上部と縫合上に褐色帯を巡らす。臍孔が開く。

Adams (1870) の東洋航海時に、“田子”で採集されたもので、今日では串本町田子ではないかと推測されている。

執筆者（湊 宏）

**参考文献・情報**

- 1 Adams, A. 1870. Travels of a naturalist in Japan and Manchuria. 334pp. Hurst & Blackett, London.
- 2 湊 宏. 1982. 和歌山県を模式産地とする陸産貝類. 南紀生物, 24 (2): 49-54.

シゲオマイマイ *Euhadra sigeonis* Kuroda, 1944 汎有肺目 オナジマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

田辺湾神島をタイプ産地とする紀南を代表するマイマイ属で、江村重雄 (1901-1982) に献名されている。神島産は離島のため、個体がやや小形であるが、那智山の個体等は本種としてはやや大きい。



**選定理由** 貝殻は中形~大形 (貝殻の殻径 約 16 mm)、黄褐色で色帯を欠く個体、色帯を持つ個体、赤褐色や黄褐色の火炎彩をもつ個体等変異が多い。

和歌山県南部に生息し、樹上性。相対的に海岸地域の方が内陸部よりも生息密度が高い。

執筆者 (湊 宏)

参考文献  
・情報

- 1 黒田徳米. 1944. 田辺湾神島産陸貝. Venus, 13 (5-8) : 313-316.
- 2 湊 宏. 1988. 田辺湾神島の陸産貝類. 神島の生物 (和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書). 49-52pp. 田辺市教育委員会, 田辺.
- 3 湊 宏. 2014. 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士記載の田辺湾神島産シゲオマイマイのタイプ標本の図示. 南紀生物, 56 (1) : 8-10.  
写真: 湊 宏撮影

ノジホトトギス *Arcuatula* sp. イガイ目 イガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾域の水深 20~100 m の泥底に生息。貝殻は薄質、細長く扁平で半透明、殻表は平滑、光沢を帯び、薄紫色の羽状の模様を持つ。殻長 12 mm。房総以南、九州に分布。和歌山県内では由良白崎、みなべ町堺、串本町潮岬に分布。



選定理由

和歌山県では、紀伊水道中部の白崎沖から紀伊半島南端で確認される。本種は環境省の絶滅危惧カテゴリーの対象外であるが、現在では少ない種で、加藤・福田 (1996) では「危険」に区分されている。また、近隣地域 (三重県、愛知県、岡山県) での状況は記録されていない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 池辺進一. 2011. 和歌山由良町白崎沖の貝. かたをなみ, 7 : 18- 20.
- 3 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 4 加藤 真・福田 宏. 1996. 二枚貝綱 WWF サイエンスレポート, 3 : 65-73.  
写真: 田中真人提供

ツヤガラス *Modiolus nitidus* (Reeve, 1857) イガイ目 イガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾から湾口部の潮下帯の泥底、水深 5~20 m に生息。貝殻は薄質、栗色、強い光沢を持ち、後方に広がる長方形。殻長 80 mm。陸奥湾以南、九州、熱帯インド、西太平洋の分布。和歌山県内では有田市河口、日高町日ノ御崎に分布。



選定理由

和歌山県では、有田川河口から死殻半片の幼貝 (殻長 22.6 mm) を確認。以降、再確認例はない。近隣地域では、大阪湾南部の男里海岸で確認されるが、幼個体である。愛知県では従来、絶滅危惧 I 類 (CR + EN) であったが、一部で回復傾向も見られ、絶滅危惧 II 類 (VU) に変更されている。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 木村昭一. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 ー動物編ー. (8) 貝類. 489-726pp. 名古屋.
- 4 児島 格. 2006. 大阪湾 男里川・近木川河口周辺に生きる貝. 63pp. きしわだ自然友の会, 岸和田.  
写真: 三長秀男提供 (池辺進一採集)

**アワジチガイ** *Sylvanus lilium* (Hanley, 1844) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

湾口部から外洋の潮間帯から水深 50 m の砂泥底に生息。貝殻はやや薄質、鈍いクリーム色、前後に長い楕円形、殻頂は後端側に寄り、後端は尖る。殻長 40 mm。房総半島以南、九州、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌浦湾、有田市宮崎町 (矢櫃)、日高町日ノ御埼に分布。



選定理由

和歌山県では、水軒浜を除けば、3 地点が記録されるが、矢櫃の採集例は 1967 年、また日ノ御埼では 2005 年であり、近年では田辺湾奥部の水深 1 m の泥底から生貝が採集され、三長・三長 (2015) に不詳種 "*Macoma* sp." として記録されるのは本種であるが、極めて稀である。広島県では死殻ばかりで、生貝が採集できないとされ、岡山県では過去の記録があるが、現状、生息が確認できない。また、愛知県では 1999 年以降、知多半島、三河湾沖から死殻も確認できない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 3 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 223 pp. 蘭島文化振興財団, 呉.
- 4 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ. かきつばた, (40) : 2-16.  
写真: 三長秀男提供

**アオサギガイ** *Psammotreta praeurupta* (Salisbury, 1934) マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

内湾域の潮下帯の水深 10~50 m の砂泥底に生息。貝殻は白色で殻頂はやや青みを帯び、薄質、長い卵形、膨らみは弱く扁平、後背縁は短く直線的。殻長 45 mm。房総半島・能登半島以南、東南アジアに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、名草ノ浜、有田市矢櫃に分布。



選定理由

和歌山県では近年、2 地点から確認し、名草ノ浜での個体は古い死殻の半片である。近隣地域でも三重県では記述がなく、愛知県では生息場所、個体数ともに減少し、知多湾南部、名古屋港沖より死殻の採集記録あったものの、以降、確認できない。

執筆者 (江川和文)

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
- 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2) : 137-142.  
写真: 三長秀男提供

ハチザクラ *Nitidotellina hachiensis* Fukuda, Ishikawa, Ito & Haga, 2022 マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

2022年、広島県から新種記載された種で、生貝は瀬戸内海沿岸4県（山口、広島、岡山、愛媛）の潮下帯付近の砂泥底から確認される。また愛知県からは更新統千葉階豊橋層から化石の産出が知られる。本種はウズザクラ *Nitidotellina minuta* (Lischke, 1872) に近似するが、殻長が同種の8 mm に対し本種は13 mm と大きく、また貝殻の後背部には一對の稜角が伸び、後端が明瞭に凹むことで区分される。和名は本種の模式産地、ハチの干潟（竹原市）に由来する。



和歌山県では和歌山市名草ノ浜で靱帯をもつ新鮮な死殻が少数、採集されており、生貝の採集が期待される。なお県下では名草ノ浜以外では、現在、確認されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

- 1 Fukuda, H., Ishikawa, H., Ito, S. & Haga, T. (2022) *Nitidotellina hachiensis* n. sp. (Bivalvia : Tellinidae) from the Seto Inland Sea, between Honshu and Shikoku, western Japan. *Molluscan Reserch*, 42 (2), 115-127.
- 2 福田 宏・石川 裕・近藤裕介 (2022) ハチザクラ（新称）ハチの干潟の生きものたちー広島県竹原市に残る瀬戸内海の原因風景ー（近藤裕介・大塚 攻・佐藤正則編），112, PUBFUN ネクパブ・オーサーズプレス。写真：三長秀男提供

ナガヒナミルクイ *Maclrotoma* sp. マルスダレガイ目 バカガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

殻幅40 mm前後、ヒナミルクイ（ヒナミルクイ）*M. depressa* (Spengler, 1802) 近似の未定種で、横長で楕円形の殻形から、三角形に近い後種と区別できる。これまで福岡県、長崎県以外から記録がなく、希少な種と思われる。和歌山県からは、和歌山市和歌川河口の砂干潟から2000年に新鮮な合弁死殻が、同河口に形成される砂州（片男波海岸）から1970年代（同海岸の養浜工事前）に打ち上げで半片2個体が、各々確認されている（野田，未発表）。近年田辺湾奥部干潟コアマモが生育する砂泥底より生貝が確認された。2003年と2015年にヒナミルクイとして報告された貝は、その形状からナガヒナミルクイと同定できる（写真個体）。



執筆者（野田圭典）

参考文献・情報

- 1 福田宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-706pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
  - 2 松隈明彦・石橋 猛・川岸 寛・山下博由. 2014. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014. 貝類. 173-242pp. 福岡県環境部自然環境課, 福岡.
  - 3 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1: 1-23.
  - 4 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ. かきつばた, 40: 2-16.
  - 5 佐藤勝義・岡本正豊. 1978. ヒナミルクイの2型とワカミルクイについて. ちりばたん, 10: 27-31. pl. 6-7.
- 写真：三長秀男提供



チドリマスオガイ *Donacilla pocta* Dunker, 1877 マルスダレガイ目 チドリマスオ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

潮間帯の砂底に生息。貝殻は小形、亜三角形で周縁は緑色。殻長 10 mm。房総半島以南、九州、インド、マレー半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田市宮崎町、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では対ノ浦で合弁個体を確認。和歌山県内での産出数は明らかに少数であるが、あえて準絶滅危惧種とするのにはやや疑義があり、近隣地域では対象にもなっていない。

執筆者 (江川和文)



参考文献・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

ハマチドリ *Spondervilia bisculpta* (Gould, 1861) マルスダレガイ目 アサジガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

貝類

選定理由

内湾湾口部の潮下帯砂底・砂泥底の潮間帯から水深 20 m に生息。貝殻は薄質、やや横長のハマグリ型、殻表には前後に放射状の条線を持つ。殻長 7 mm。房総半島、日本海以南、インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では、田辺湾奥部干潟域でアマモ場の泥底に稀に生息、また、対ノ浦でも潮下帯より生貝が確認されている。なお、名草ノ浜では 2007 年頃から死殻が確認され、加太では少数個体を確認している。本種は環境省カテゴリーの対象外であり、近隣地域の三重県、愛知県でも言及はない。ただ、福田 (2020) は従来、記録のなかった生貝 1 個体を記録するとともに、鹿児島県山川港沖の大規模なサンドポンプによる海砂採取の浚渫により、数億個体以上が斃死したことを指摘した。

執筆者 (江川和文)



参考文献・情報

- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
  - 2 三長秀男・三長孝輔. 2011. 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝. かたをなみ, 7: 1-9.
  - 3 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 II. かきつばた, 40: 2-16.
  - 4 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2007. 和歌山市名草浜の貝類 4 掘足綱・二枚貝綱①. 南紀生物, 49 (2): 137-142.
  - 5 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.
- 写真: 三長秀男提供

**オカメブンブクヤドリガイ** *Montacuta echinocardiophila* Habe, 1964 マルスダレガイ目 ブンブクヤドリガイ科

県カテゴリ	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
-------	------------	----	------	---	---	---

オカメブンブクの棘の間に生息。貝殻は薄質、半透明、楕円形、殻表に数本の放射肋を持つ。殻長 10 mm。瀬戸内海から九州に分布。

**選定理由** 和歌山県では和歌山市加太のみで確認。死殻半片のみで個体数も少ない。近隣地域では、愛知県で従来の分布域外の三河湾で確認され、情報不足とされた。



執筆者 (江川和文)

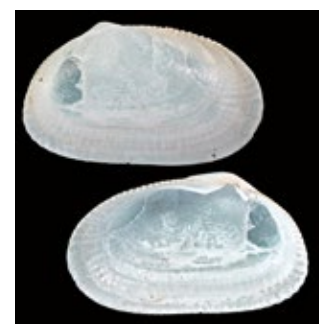
- 参考文献・情報**
- 1 池辺進一. 2004. 和歌山の貝類. 72pp. 自刊, 和歌山.
  - 2 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.  
写真: 江川和文撮影

**マツイガイ** *Callomysia matsuii* Habe, 1951 マルスダレガイ目 ブンブクヤドリガイ科

県カテゴリ	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
-------	------------	----	------	---	---	---

内湾奥部の潮下帯 (水深 5~20 m) の砂泥底に見られる。貝殻は小形、楕円形、白色不透明、殻の周縁部に強い放射肋が明瞭に刻まれる。殻長 8 mm。志摩から九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田市初島町に分布。

**選定理由** 和歌山県では 3 地点で確認されるが、名草ノ浜では生貝 1 例 (幼個体) を確認、同時にオカメブンブクの打ち上げも確認され、オカメブンブクヤドリガイ同様、共棲が想定される。他の確認例は、いずれも古い死殻のみである。近隣地域では三重県、愛知県に記述はなく、岡山県では死殻のみが確認され、絶滅に近い状況である。



執筆者 (江川和文)

- 参考文献・情報**
- 1 福田 宏. 2020. 岡山県レッドデータブック 2020. 7. 軟体動物. 309-812pp. 岡山県環境文化部, 岡山.
  - 2 池辺進一. 2010. 和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝. かたをなみ, 6: 4-9.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2013. 和歌山市加太周辺の貝類相 VI. 南紀生物, 55 (2): 153-158.  
写真: 三長秀男提供

**オキナガイ** *Laternula anatina* (Linnaeus, 1758) 異靱帯目 オキナガイ科

県カテゴリ	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
-------	------------	----	------	---	---	---

内湾から湾口部の干潟砂泥底に生息。貝殻は長楕円形、非常に薄質、白色半透明、殻表に微小な顆粒状突起を持つ。殻長 50 mm。東北地方以南、九州、中国大陸、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜 (1960 年代、造成工事で消失)、和歌川奥部、名草ノ浜、日高町日ノ御崎、田辺湾奥部、串本町橋杭に分布。

**選定理由** 和歌山県では名草ノ浜が多産地で、1980 年代、オカメブンブクとともに、動物体残存個体を一度に数百例を確認。なお、和歌川奥部では生貝の採集例がある。和歌山県内ではこの産地以外は数例のみの確認である。本種は環境省カテゴリの対象外であるが、近年、名草ノ浜ですら採集例がない。近隣地域では、三重県の広い範囲で生息が確認され、また、愛知県では外海の



貝類

選定理由

底引き網漁で採集されているが、内湾域では生息が確認できない。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 2 三長秀男・三長孝輔. 2003. 和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相. かたをなみ, 1 : 1-23.
  - 3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 4 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 写真：三長秀男提供

ソトオリガイ *Exolaternula liautaudi* Mitre, 1844 異靱帯目 オキナガイ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

内湾奥部や河口域の泥干潟に生息。貝殻は薄質、白色、長楕円形で膨らみは強い。殻長 45 mm。北海道以南、南九州、中国、東アジアに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦、名草ノ浜、海南市船尾、有田市、広川町江上川、御坊市日高川、田辺湾内之浦に分布。



和歌山県では、和歌山市等、紀北の河口域に動物体が残存した個体が確認される。名草ノ浜では 2000 年、幼体のまともった打ち上げが確認された。ただ、全般に個体数は少なく、確認例は単一個体がほとんどである。環境省絶滅危惧種の対象外であるが、河口奥部は護岸工事等で生息環境の影響を受けやすい地域であり、今後も生息状況が注視される。

執筆者（江川和文）

参考文献  
・情報

- 1 江川和文. 2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 47 (1) : 45-50.
  - 2 池辺進一・吉田 誠. 2006. 池辺進一コレクション貝類標本目録. 164pp. 8 pls. 和歌山県立自然博物館, 海南.
  - 3 環境省自然環境局生物多様性センター. 2019. 平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書. 288pp. 環境省生物多様性センター, 富士吉田.
  - 4 木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次. 2003. 和歌浦干潟で観察された希少貝類. 南紀生物, 45 (1) : 7-12.
  - 5 三長孝輔・三長秀男. 2015. 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類 (II). かきつばた, (40) : 2-16.
  - 6 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文. 2008. 和歌山市名草浜の貝類 5 二枚貝綱②・頭足綱および追補. 南紀生物, 50 (1) : 134-139.
  - 7 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文. 2006. 和歌山県紀の川河口域の貝類相 2 二枚貝綱. 南紀生物, 48 (1) : 69-74.
- 写真：三長秀男提供

マツカサガイ *Inversidens japonensis* (Lea, 1859) イシガイ目 イシガイ科

県カテゴリー 学術的重要 (SI) 旧県 2012 学術的重要 (SI) 国 準絶滅危惧 (NT)

全国的に分布する淡水二枚貝であるが、和歌山県では分布域は狭く、記録された河川（用水路）も少ない。

殻長 40~60 mm、殻幅は多少は小さく、殻長との比は 30~40 % 程度。貝殻が細長い個体もあり、かなり変異するため、多くの異名がある。殻頂付近から後部に漣波状の模様がある。

選定理由

北海道から本州、九州にかけて分布。和歌山県では和歌山市、海南市でのみ記録された。

近年は、用水路の改修等による環境の改変が著しい。生息環境の良好な小川（用水路）が少なく、即知の生息地は貴重である。

本種は淡水魚類のタナゴ類の産卵に利用されている。



執筆者（池辺進一）

参考文献  
・情報

- 1 土井 浩. 1994. 田や用水にすむ動物と自然保護 2 -和歌山市, かつらぎ町-. 紀州生物, 23: 11-15.
  - 2 土井 浩. 1996. 和歌山市の池や水路にすむ生物 2. 紀州生物, 25: 17-22.
  - 3 波部忠重. 1973. 軟体動物 Mollusca 日本淡水生物学 (川村多實二・上野益三 著). 309-341. 760pp. 北隆館, 東京.
  - 4 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑②, 汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ, 東京.
- 写真: 池辺進一撮影